

平成 24 年度

安曇野市

生きものの調査



オオルリシジミ (注目種 県RDB種)

調査の結果

1. 調査の内容	1P
2. 調査の生きもの	2P
3. 調査の様子	7P
4. 調査結果の概要	9P
巻末資料 (生きものごとの調査結果)	12P

平成 25 年 2 月

安曇野市 市民環境部 生活環境課

1. 調査の内容

身近な生きもの調査

タンポポ、ツバメなど次ページに示す33種の生きものが対象です。第1回調査(平成19年度)と同じ調査を行うことにより、私たちの周りの自然に変化が起きているかどうかを調べました。

●調査方法

市民のみなさんから、アンケート形式で生きもの

の情報を提供いただきました。見つけた生きもの名前と見つけた日、見つけた場所のメッシュ番号確認状況などを記録用紙に記入をお願いします。

●記録用紙の例

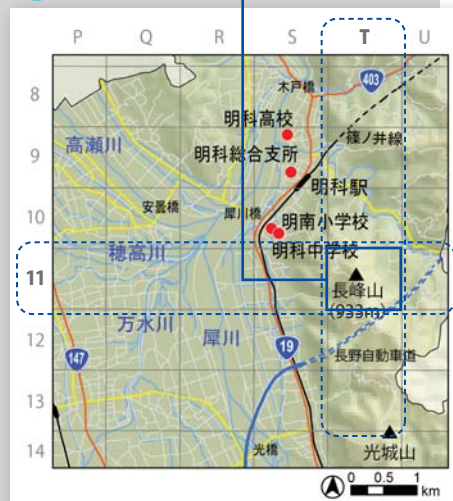
生きもの名前	見つけた年月日または時期	生きものを見つけた場所		確認状況	写真	貝殻
		身近な生きもの 場所 メッシュ番号	注目種 調査マップがある 場合は位置の番号			
セイヨウタンポポ	2012 5/25	長峰山 T-11		山頂近くの草地にたくさん咲いていた。		
ホンドギツネ	2010年 5月頃		①	地図の①に示してある 標の所で1個体を見た。	○	
貝殻	2012 8/15		三郷住吉神社境内	住吉神社境内の木の根元で拾った。		○

注目種調査

今年度は、安曇野市の自然の特徴を示す生きもの(注目種)についての調査も行いました。得られた結果は平成26年に刊行を予定している安曇野市版レッドデータブックの作成に役立てます。

●調査マップの例

例えば 長峰山で見つけた場合は、メッシュ番号「T-11」となります。



調査期間：平成24年4月～10月

あづみ野生きもの見つけ隊

生きものに関する情報を広く集めるために「あづみ野生きもの見つけ隊」を結成し、活動しました。



あづみ野生きもの見つけ隊 隊員証と缶バッジ

2. 調査対象の生きもの

調査対象は以下のとおりです。

	名 前	対象とする調査	見やすい季節	主な生育・生息場所
植物	バイカモ	○	夏	川・水路
	セリ	○	春～夏	水田・水路
	シロバナタンポポ	○	春	里
	シナノタンポポ	○	春	山・里
	セイヨウタンポポ★	○	春～秋	山・里
	ウツボグサ	○	夏～秋	山・里
	ワレモコウ	○	秋	山・里
	アレチウリ★	○	夏	山・里・川
	ナガエミクリ	▲	夏	川・水路
	ミクリ	▲	夏	川・水路
	カワヂシャ	▲	春～夏	川・水路
	カワラニガナ	▲	春～夏	川
	イヌノフグリ	▲	春	里
	ヤブカンゾウ	▲	夏	里
	アマナ	▲	春	里
	ユウスゲ	▲	夏	山・里
	ササユリ	▲	夏	山
	オオカワヂシャ★	◆	春～秋	川・水路
	オオキンケイギク★	◆	春～夏	川・里
	ナヨクサフジ★	◆	春～夏	川・里
オオブタクサ★	◆	夏～秋	川・里	
水生生物	サワガニ	○	春～秋	川・水路
	カワニナ	○	春～秋	川・水路
	カジカ	○	春～秋	川
	ドジョウ	○	春～秋	川・水路・水田
	シマドジョウ	○	春～秋	川
	ホウネンエビ	○	春～夏	水田
	ホトケドジョウ	▲	春～秋	川・水路・水田
	コモチカワツボ★	◆	春～秋	川・水路

対象とする調査

- ：身近な生きもの調査
- ▲：注目種調査…減少している種
- ◆：注目種調査…増加している種
- ：注目種調査…生息状況が不明な種

赤字：長野県版レッドデータブックに記載されている生きもの

★：外来種、あるいは外来種と考えられる生きもの

レッドデータブック：絶滅のおそれのある野生生物についてその状況などをとりまとめたものです。環境省や長野県などで作成されており、安曇野市でも作（RDB）成が進められています。

外来種：他地域から人により持ち込まれた生きものです。元々その地域にいた生きもの（在来種）を減少させるなどの影響を与えるものもいます。

	名 前	対象とする調査	見やすい季節	主な生育・生息場所	
昆虫類	ギンヤンマ	○	夏～秋	池・沼	
	クロスジギンヤンマ	○	春～夏	池・沼	
	ゲンジボタル	○	夏	水路・水田	
	ヘイケボタル	○	夏	水路・水田	
	トノサマバッタ	○	夏～秋	里	
	ツマグロヒョウモン	○	春～秋	山・里	
	カブトムシ	○	夏	山・里	
	ヒグラシ	○	夏	山・里	
	アオハダトンボ	▲	夏	川	
	タイコウチ	▲	春～秋	池・沼	
	オオルリシジミ	▲	春	山・里	
	ミヤマクワガタ	▲	夏	山	
	アオマツムシ★	◆	夏～秋	里	
	鳥類	カワセミ	○	通年	川
オオヨシキリ		○	春～夏	川	
ヒバリ		○	春～秋	川・里	
ツバメ		○	春～夏	川・里	
イワツバメ		○	春～夏	山・里	
カッコウ		○	春～夏	山・里	
ヒクイナ		▲	春～夏	水田	
アオバズク		▲	春～夏	山・里	
ヨタカ		▲	春～夏	山	
オナガ		■	通年	里	
哺乳類		アブラコウモリ	○	春～秋	里
		ホンドギツネ	○	通年	山・里
		ノウサギ	▲	通年	山・里
		ニホンカモシカ	▲	通年	山
	ハクビシン★	◆	通年	山・里	
	ニホンイノシシ	◆	通年	山・里	
	ニホンジカ	◆	通年	山・里	
	アライグマ★	■	通年	山・里	
	小動物	トノサマガエル	○	春～夏	水田
		ニホントカゲ	○	春～秋	山・里
カナヘビ		○	春～秋	山・里	
トウキョウダルマガエル		▲	春～夏	水田	
貝類 陸上にすむ	カタツムリの仲間	■	春～秋	山・里	
	キセルガイの仲間				

平成 24 年度 安曇野市
生きもの調査

調査対象の生きもの

■ : 身近な生きもの調査対象 ■ : 注目種調査対象 春夏秋冬 : 見やすい季節
(外来種) : 外来種、あるいは外来種と考えられる生きもの (県RDB種) : 長野県版レッドデータブックに記載されている生きもの

水辺の生きもの

ミクリ 県RDB種 夏



主な生育場所
川・水路

高さ
100 cm 位

ナガエミクリ 県RDB種 夏



主な生育場所
川・水路

高さ
100 cm 位

ミクリは水中や水際、水田にまとまって生えているのに対して、ナガエミクリは流れのある水中の水底からまとまって生えています。ミクリは花のまとまりが枝分かれていますのに対して、ナガエミクリは枝分かれません。実際にクリのようなとげがあることから「ミクリ」と名がつけました。

セリ 春夏



主な生育場所
水田・水路

高さ
15 cm 位

田んぼや小さな水路など湿った場所に生え、初夏に小さな花が集まった白い花をつけます。葉は鳥の羽のように小さな葉が集まり、それぞれの葉はひし形で、ふちのぎざぎざは2~5程度あります。

カワヂシャ 県RDB種 春夏



主な生育場所
川・水路

高さ
30 cm 位

オオカワヂシャ 外来種 春夏秋



主な生育場所
川・水路

高さ
40 cm 位

花の大きさはカワヂシャが3mm、オオカワヂシャは4~5mm 位です。オオカワヂシャの花の色が紫色なのに対して、カワヂシャの花は白色が薄い紫色をしています。

カワラニガナ 県RDB種 春夏




主な生育場所
川

高さ
20 cm 位

乾燥した丸石が多い河原に生え、春から夏に黄色の花をつけます。細い線形の葉を根元から生やします。ニガナは草丈が高くなり、葉が広く、茎を抱きます。

バイカモ 夏



主な生育場所
川・水路

長さ
200 cm 位

流れのある水中の水底から生え、夏に白い梅のような花が咲きます。透明な水を好み、水中でも花をつけます。葉は櫛(くし)のように細かくなっています。

アレチウリ 外来種 夏



主な生育場所
山・里・川

長さ
10m 位

川沿いや畑周辺に生えるつる植物。葉はウリやメロンに似ており夏に白色の花、秋にはとげのある実をつけます。各地で駆除(くじょ)がおこなわれています。

カジカ 県RDB種 春夏秋



主な生息場所
川

大きさ
7~10 cm 位

体の色は淡い褐色から濃い褐色までさまざまです。目と口は大きく、大きな背びれが2つあります。水がきれいな川の水底にすんでいます。

ドジョウ 春夏秋



主な生息場所
川・水路・水田

大きさ
12 cm 位

ドジョウは茶色の体に黒い点がたくさんあるのに対して、シマドジョウの体は白っぽく、黒い斑が直線のように並んでいます。また、口元にあるひげの数は、ドジョウは10本、シマドジョウは6本です。ドジョウは泥が多い水底にすみ、シマドジョウは水がきれいな川の水底にすんでいます。

シマドジョウ 春夏秋



主な生息場所
川

大きさ
6~10 cm 位

ドジョウは茶色の体に黒い点がたくさんあるのに対して、シマドジョウの体は白っぽく、黒い斑が直線のように並んでいます。また、口元にあるひげの数は、ドジョウは10本、シマドジョウは6本です。ドジョウは泥が多い水底にすみ、シマドジョウは水がきれいな川の水底にすんでいます。

ホトケドジョウ 県RDB種 春夏秋



主な生息場所
川・水路・水田

大きさ
5~8 cm 位

茶褐色や赤褐色の体に黒い点がたくさんあり、口元にひげが8本あります。体はドジョウより長く見えます。湧水が流れ込む小川や水路にすんでいます。

カワニナ 春夏秋



主な生息場所
川・水路

大きさ
3 cm 位

カワニナの大きさは3cm 位で、コモチカツボは大きくても5mm 位です。どちらも黒っぽい色で先がとがっています。カワニナの方が大きく、殻(から)が1cm より大きいのはカワニナです。殻の口は、コモチカツボは丸く、カワニナはややひし形です。

コモチカツボ 外来種 春夏秋



主な生息場所
川・水路

大きさ
5 mm 位

カワニナの大きさは3cm 位で、コモチカツボは大きくても5mm 位です。どちらも黒っぽい色で先がとがっています。カワニナの方が大きく、殻(から)が1cm より大きいのはカワニナです。殻の口は、コモチカツボは丸く、カワニナはややひし形です。

サワガニ 春夏秋



主な生息場所
川・水路


大きさ
2.5~3 cm 位

大きなさみを持ち、足とはさみが合計10本あります。赤色、こげ茶色、紫色など場所によってさまざまな色をしています。

■：身近な生きもの調査対象 ■：注目種調査対象 春夏秋冬：見やすい季節
外来種：外来種、あるいは外来種と考えられる生きもの 県 RDB 種：長野県版レッドデータブックに記載されている生きもの

水辺の生きもの

ハウネンエビ 春夏



主な生息場所
水田

大きさ
1 ~ 1.5 cm 位

体の色は透明や緑色です。目は青く、尾の先は赤っぽく見えます。お腹を上にした背泳ぎのような格好で泳ぎます。あまり農薬が使われていない水田で見られます。

ゲンジボタル 県 RDB 種 夏



主な生息場所
水路・水田

大きさ
1.5 cm 位

体はゲンジボタルの方が大きく、ゲンジボタルは頭の後に十字の模様があるのに対して、ヘイケボタルの頭の後には太い縦線があります。どちらも雄は飛びながら光るのが多く、雌は止まって光ることが多いです。ゲンジボタルは山に近い小川などを好み、ヘイケボタルは平地の水田や用水路でも見られます。

ヘイケボタル 夏



主な生息場所
水路・水田

大きさ
1 cm 位

ギンヤンマ 県 RDB 種 夏秋



主な生息場所
池・沼

大きさ
7 ~ 8 cm 位

ギンヤンマは、雄のお腹の色が鮮やかな空色であるのに対して、雌は緑色です。よく似たクロスギンヤンマは名前の通り胸に黒い筋があります。ため池や沼などにすんでいます。

クロスギンヤンマ 県 RDB 種 春夏



主な生息場所
池・沼

大きさ
7 ~ 8 cm 位

アオハダトンボ 県 RDB 種 夏




主な生息場所
川

大きさ
5 ~ 6 cm 位

体の色は光沢のある青緑色です。はねの色は黒色で雌のはねには白い斑があります。よく似たハグロトンボよりはねの幅が広く、後ろに丸みがあります。

タイコウチ 県 RDB 種 春夏秋



主な生息場所
池・沼

大きさ
3 ~ 4 cm 位

鎌(かま)のような前あしと長い呼吸管が目立ちます。川や池、水田などの水深が浅い場所にすんでいます。泳ぐ姿が太鼓(たいこ)を打つように見えることから名前がつけました。

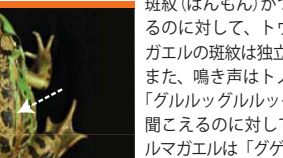
トノサマガエル



主な生息場所
水田

大きさ
4 ~ 9 cm 位

トウキョウダルマガエル



主な生息場所
水田

大きさ
4 ~ 9 cm 位

トノサマガエルは背中にある黒い斑紋(はんもん)がつながって見えるのに対して、トウキョウダルマガエルの斑紋は独立して見えます。また、鳴き声はトノサマガエルが「グルルグルルルッゲレレッ」と聞こえるのに対してトウキョウダルマガエルは「ゲゲゲゲケケケゲ」と聞こえます。安曇野市を含む松本盆地では、トノサマガエルが北に進出する傾向が見られます。

カワセミ 春夏秋冬



主な生息場所
川

大きさ
17 cm 位

くちばしは長く、背中の中程のような青色とお腹のオレンジ色が目立ちます。岸辺の杭や木の枝に止まり、飛びこんで魚を捕まえます。

オオヨシキリ 春夏



主な生息場所
川

大きさ
18 cm 位

全身が褐色で地味な色をしています。雄はヨシや木の枝に止まって「ギョギョシ、ギョギョシ、ケッカッ シシシ…」と大きな声で鳴きます。

ヒクイナ 県 RDB 種 春夏




主な生息場所
水田

大きさ
22 cm 位

頭からお腹にかけての赤褐色をしています。夜になると「キョッ、キョッ、キョッ、…」と連続して鳴きます。水田や河川沿いのヨシ原にすんでいます。

陸の生きもの

シナノタンポポ 春



主な生育場所
山・里

高さ
20 ~ 30 cm 位

畑や明るい草地に生え、春に黄色い花をつけます。花のまわりのがく(総苞片)は反り返りません。日本に古くからある在来種です。

セイヨウタンポポ 外来種 春夏秋




主な生育場所
山・里

高さ
20 ~ 30 cm 位

畑や道ばたに生え、春から秋に黄色い花をつけます。花のまわりのがく(総苞片)は反り返ります。単為生殖するので秋まで花を見ることが出来ます。

シロバナタンポポ 春



主な生育場所
里

高さ
20 cm 位

畑や明るい草地に生え、春に白い花をつけます。花が白なので他のタンポポと見分けられます。西日本に多い在来種です。

ウツボグサ 夏秋



主な生育場所
山・里

高さ
15 ~ 30 cm 位

山地の明るい草地に生え、夏から秋に青から紫色の花をつけます。花が落ちたあと実が鞍(うつぼ：矢を入れて背負う入れ物)に似ることから名前がつけました。

ワレモコウ 秋



主な生育場所
山・里

高さ
100 cm 位

山地や川の土手の明るい草地に生え、秋に赤色の花をつけます。小さな花が集まり楕円形の形になります。

ヤブカンゾウ 夏



主な生育場所
里

高さ
100 cm 位

堤防の草地や田畑のまわりの草地に生え、夏にオレンジ色の花をつけます。葉は細長い線形です。ヤブカンゾウは八重咲きですが、よく似たノカンゾウは一重咲きです。

陸の生きもの

アマナ 県RDB種 春



主な生育場所
里

高さ
15 cm 位

山間地の田畑のまわりの明るい草地に生え、春に白色の花をつけます。

イヌノフグリ 県RDB種 春



主な生育場所
里

高さ
3 cm 位

イヌノフグリは3~4mm 位のピンク色の花をつけるのに対して、よく似たオオイヌノフグリは1cm 位の紫色の花をつけます。

オオイヌノフグリ 対象外 春



主な生育場所
里

高さ
10 cm 位

オオキンケイギク 外来種 春夏



主な生育場所
川・里

高さ
60 cm 位

堤防の草地や河川の丸石河原に生え、春から夏に黄色の花をつけます。大きな河川の河川敷や堤防の草地、高速道路のまわりなどによく見られます。

オオブタクサ 外来種 夏秋




主な生育場所
川・里

高さ
250 cm 位

河川の砂の溜まった河原や田畑に生え、夏から秋に薄い黄色の花をつけます。手のひらに似た大きな葉をつけます。花粉症の原因の1つと考えられています。

ナヨクサフジ 外来種 春夏



主な生育場所
川・里

長さ
150~200 cm 位

堤防の草地や田畑のまわりの草地に生えるつる植物。春から夏に青色の花をつけます。よく似たクサフジは、葉の枚数が多く、花の反り返った部分は筒(つつ)の部分と同じ長さです。

ユウスゲ 夏



主な生育場所
山・里

高さ
100 cm 位

堤防や山間地の草地に生え、夏に薄い黄色の花をつけます。夕方から夜にかけて花を咲かせます。

ササユリ 県RDB種 夏




主な生育場所
山

高さ
60 cm 位

山地の林の中に生え、夏に薄い桃色の花をつけます。葉が笹の葉に似ています。

トノサマバッタ 夏秋




主な生育場所
里

大きさ
5~6 cm 位

体の色は緑色や褐色で、雌の方が大きく見えます。開けた場所の草地にすんでいて、人が近づくとぱつと飛び立ちます。

アオマツムシ 外来種 夏秋




主な生息場所
里

大きさ
3 cm 位

体の色は鮮やかな緑色です。街路樹などの木の上ですんでいて夜になると「リーリーリー」と大きな声で鳴きます。

ツマグロヒョウモン 春夏秋



主な生息場所
山・里

大きさ
7 cm 位

雌

はねにはヒョウのような黒い斑紋(はんもん)がいくつもあります。雌は前のはねの先が黒く目立つのに対して、雄は黒くなっていません。

オオルリシジミ 県RDB種 春




主な生息場所
山・里

大きさ
3~4 cm 位

はねの表は青いのにに対して、裏は白っぽく、黒斑(こくはん)とオレンジ色の線があります。幼虫の食草となるクララが生育する草地にすんでいます。

ヒグラシ 夏



主な生息場所
山・里

大きさ
4~5 cm 位

雄は朝や夕方に「カナカナカナカナ…」と多くの個体が合唱するように鳴きます。スギやヒノキの林や雑木林にすんでいます。

カブトムシ 夏




主な生息場所
山・里

大きさ(角を除く)
3~5 cm 位

雄は大きな角がありますが、雌にはありません。ヤナギやクヌギなど、樹液の出ている木に集まります。

ミヤマクワガタ 夏



主な生息場所
山

大きさ
3~7 cm 位

体の色は茶色がかった黒色。雄は体の表面に細い毛が生えていて、大きなあごと頭の両側にある耳のような突起が目立ちます。山地の林にすんでいます。

ツバメ 春夏



主な生息場所
川・里

大きさ
17 cm 位

尾は長く、のどは赤く見えます。民家のき先におわん型の巣を造ります。

イワツバメ 春夏



主な生息場所
山・里

大きさ
15 cm 位

尾は短く、腰は白く見えます。ビルの壁や橋の下など集団でとっくり型の巣を造ります。

陸の生きもの

ヒバリ ●●●



主な生息場所
川・里

大きさ
17 cm 位

体はまだら模様をした薄い茶色です。雄は空高く飛びながら「チーチビ、チーチビ…」と鳴きます。

カッコウ ●●



主な生息場所
山・里

大きさ
35 cm 位

体は灰色で尾は長めです。木の梢や電線に止まり、尾をあげて「カッコウ、カッコウ」と連続して鳴きます。

オナガ ●●●●



主な生息場所
里

大きさ
37 cm 位

黒い頭と長い尾が目立ちます。群れて動くことが多く、「グエイ、グエイ」と鳴きます。

アオバズク (県RDB種) ●●



主な生息場所
山・里

大きさ
30 cm 位

頭は丸く、目は黄色です。夜になると「ホーホ、ホーホ」と連続して鳴きます。

ヨタカ (県RDB種) ●●



主な生息場所
山

大きさ
29 cm 位

体はまだら模様をした濃い茶色です。夜になると「キョキョキョキョ…」と連続して鳴き、飛びながら鳴くこともあります。

アブラコウモリ ●●●●



主な生息場所
里

大きさ
7~10 cm 位

翼を広げると 20cm 位です。夕方うす暗くなると市街地や水田の上をひらひらと飛び回ります。夏間は人家の屋根裏などにすんでいます。

ホンDIGツネ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
100~120 cm 位

体は黄土色で、尾が太くフサフサしています。里地にもすんでおり、夜になると農地などで餌を探しているところや道路を横切るところを見かけることがあります。

ノウサギ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
40~60 cm 位

体色は基本的に茶色ですが、冬になると一部の個体は全身が白くなります。山の中や河原でふんや足跡を見かけます。夜行性なのであまり見かけません。

ハクビシン (外来種) ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
100~110 cm 位

尾は体と同じ位の長さがあります。顔は黒く、額(ひたい)から鼻にかけて白い線が通っています。果樹に被害を出すほか、人家の屋根裏で生活することもあります。

アライグマ (外来種) ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
60~100 cm 位

尾が太く、縞模様があります。雑食性で、スイカなどにピンポン玉大の穴を開け中身を食べることがあります。

ニホンイノシシ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
110~160 cm 位

鼻が大きく、前に突き出しています。草地やあぜ沿いなどの土を掘り起こした跡を見かけることがあります。逃げる時は大きな音を立てながら走ります。

ニホンジカ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
90~190 cm 位

枝分かれした角が雄にのみ生えています。春から夏は背中に白い斑がありますが、冬は模様がなくなります。後ろから見るとお尻が白いが目立ちます。

ニホンカモシカ (県RDB種) ●●●●



主な生息場所
山

大きさ
70~90 cm 位

特別天然記念物。雄、雌ともに枝分かれしない黒い角が生えています。山地にすんでいて、道路のわきや斜面を移動するところを見かけることがあります。

ニホントカゲ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
20~25 cm 位

幼体(子供)は背中にクリーム色の線があり尾が青いのに対して、成体(大人)の体は光沢のある褐色になります。背中にウロコがあります。石垣などでひなたぼっこをしているところを見かけます。

カナヘビ ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
16~23 cm 位

トカゲと似ていますが、体の色は茶褐色で光沢がなく背中にウロコがありません。草地や河原でよく見かけます。

キセルガイの仲間 ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
2~3 cm 位

陸上にすむ貝類は、木の幹や落ち葉の下、岩陰などに生息しているため、見かけることが少ない生きものですが、貝殻が平たいカタツムリの仲間や貝殻が細長いキセルガイの仲間などがいます。

カタツムリの仲間 ●●●●



主な生息場所
山・里

大きさ
2~5 cm 位

3. 調査の様子

情報の募集

広報あづみの 4 月号に調査内容を記載したチラシを折込み、調査内容の紹介と調査参加の呼びかけをおこないました。

また、調査に積極的に参加いただく市民を中心とした「あづみ野生きもの見つけ隊」を結成しました。そのほか平成 24 年 10 月 6 日から 7 日にかけて開催された「あづみの環境フェア 2012」の会場で生きもの調査の展示をおこない、来訪者の皆さんからも情報を提供いただきました。

調査説明会

調査に興味のある方を対象とした野外説明会を 2 回開催しました。説明会では、生きもの調査の方法や生きもの見分け方を体験していただきました。

生きもの調査説明会の開催状況

回	開催日	開催場所	講師	主な説明内容	参加者数
第 1 回	5 月 19 日 (土)	自然交流センターせせらぎ周辺 (御宝田)	浅川行雄氏 飯沼冬彦氏 吉田利男氏	水辺に生育・生息する種 農耕地に生育・生息する種	31 名
第 2 回	7 月 29 日 (日)	洞合公園 烏川溪谷緑地 (水辺エリア)	飯沼冬彦氏 那須野雅好氏 根萩達也氏	水辺に生育・生息する種 草地に生育・生息する種 樹林に生育・生息する種	53 名

[第 1 回生きもの調査説明会の様子]

5 月 19 日 (土)、犀川のほとりにある自然体験交流センター「せせらぎ」(明科中川手)にて第 1 回説明会を開催しました。

天候に恵まれ、さわやかな青空の下、さまざまな植物や動物を観察することができました。

小さなお子さんから大人まで、多くの方にご参加いただきました。



▲北アルプスをバックに観察中



◀外来生物のオオカワチシャ



先生方からたくさんの▲生きものを教わりました

[第2回生きもの調査説明会の様子]

7月29日(日)、^{からすがわ けい こくりよく ち}烏川溪谷緑地水辺エリア(堀金烏川)と^{からすがわ くる さわ と あい}黒沢洞合自然公園(三郷小倉)の2か所を会場に、第2回説明会を開催しました。

今回は、安曇野市教育委員会主催の「アルプスが育む安曇野の四季」講座の現地学習と共同開催となり、大勢の参加がありました。参加者(53名)は4班に分かれて、2か所を巡りました。



▲参加者のみなさま



▲見つけた水生生物
(イワナ、サワガニ、カワゲラ、トビケラなど)
^{からすがわ けい こくりよく ち}〈烏川溪谷緑地〉



▲ショウジョウトンボ
^{くる さわ と あい}〈黒沢洞合自然公園〉

■^{からすがわ けい こくりよく ち}烏川溪谷緑地



[^{ね はし たつ や}根萩達也先生]

樹木を中心に、さまざまな植物を教わりました。カエデの種類がたくさんあることなどを学びました。



[^{よし た とし お}吉田利男先生]

魚や水生昆虫などを教わりました。川の中には、多くの生きものがすんでいます。

観察できた 主な生きもの

- ミスキ
- アブラチャン
- ツタウルシ
- イタヤカエデ
- イワナ
- サワガニ
- ヒラタカゲロウ など

■^{くる さわ と あい}黒沢洞合自然公園



[^{な す の まさ よし}那須野雅好先生]

チョウやトンボをはじめ、さまざまな昆虫を教わりました。班によっては、ホンドリスや大きなカブトムシも見ることができました。



[^{いい ぬま ふう ひこ}飯沼冬彦先生]

色々な植物の特徴や、人の暮らしとの関わりなどを教わりました。外来種が多いなど、自然がどのように変わってきたかを教わりました。

観察できた 主な生きもの

- クサフジ
- シロツメクサ
- リュウブ
- オオバコ
- ショウジョウトンボ
- シオカラトンボ など

4. 調査結果の概要

生きものを見つけ隊隊員をはじめとした多くの方から、60種の生きものについて計732件の情報が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

調査によって、身近な生きもの、希少な生きもの、外来種について以下のようなことがわかりました。調査対象種ごとの結果については、巻末に示しました。

◎身近な生きもの

- 市街地や周辺の農地などで生活するシナノタンポポ、ツバメ、アブラコウモリ、ホンドギツネ、それに水田や水路にみられるセリ、ハイケボタル、トノサマガエルなどは平野部を中心とした広い範囲で確認されました。
- 明るい草地に生えるワレモコウやウツボグサは豊科地域や明科地域などの山地や穂高地域から堀金地域にかけての山ろくで確認されました。農薬に弱いホウネンエビは豊科地域、穂高地域、明科地域の水田で確認されました。



▲ホウネンエビ



▲シナノタンポポ



▲ツバメ



▲ホンドギツネ

◎希少な生きもの

- 川や水路に生えるカワチシャやミクリ、ホトケドジョウは、豊科地域や穂高地域の湧水地でのみ確認されました。
- 池や沼で生活するタイコウチは、確認場所は少ないものの平野部の広い範囲で確認されました。
- 大きな木がある社寺林を利用するアオバズクは、豊科地域や穂高地域の2か所で確認されました。



▲タイコウチ



▲カワチシャ



▲ホトケドジョウ



▲アオバズク

◎外来種

- 河川敷^{かせんじき}や畑^{はたけ}周辺^{まわり}に生えるアレチウリ^{アレチウリ}やオオキンケイギク^{オオキンケイギク}は、市内^{しやん}の広い範囲^{はんい}で確認^{かくにん}されました。特にオオキンケイギク^{オオキンケイギク}は、豊科^{とよしなちいき}地域^{ちいき}から穂高^{ほたかちいき}地域^{ちいき}にかけての市街地^{しがいち}周辺^{まわり}に集中^{しゆんしゆ}して生えている傾向^{けいこう}がみられました。
- 川^{かわ}や水路^{すいろう}に生えるオオカワヂシャ^{オオカワヂシャ}は、豊科^{とよしなちいき}地域^{ちいき}、穂高^{ほたかちいき}地域^{ちいき}、明科^{あかしなちいき}地域^{ちいき}の川^{かわ}や水路^{すいろう}で多く確認^{かくにん}されました。オオカワヂシャ^{オオカワヂシャ}が確認^{かくにん}された川^{かわ}や水路^{すいろう}では、日本^{にっぽん}に元々^{もとより}分布^{ぶんぷ}し、同じ環境^{かんきやう}に生えるカワヂシャ^{カワヂシャ}（希少な生きもの）は、ほとんど確認^{かくにん}されませんでした。
- ハクビシン^{ハクビシン}は、以前^{いぜん}は山ろく部^{やまろくぶ}を中心に確認^{かくにん}されていましたが、今回の調査^{しやうさ}では市街地^{しがいち}周辺^{まわり}をふくめた市内^{しやん}の広い範囲^{はんい}で確認^{かくにん}されました。



▲アレチウリ



▲オオキンケイギク



▲オオカワヂシャ



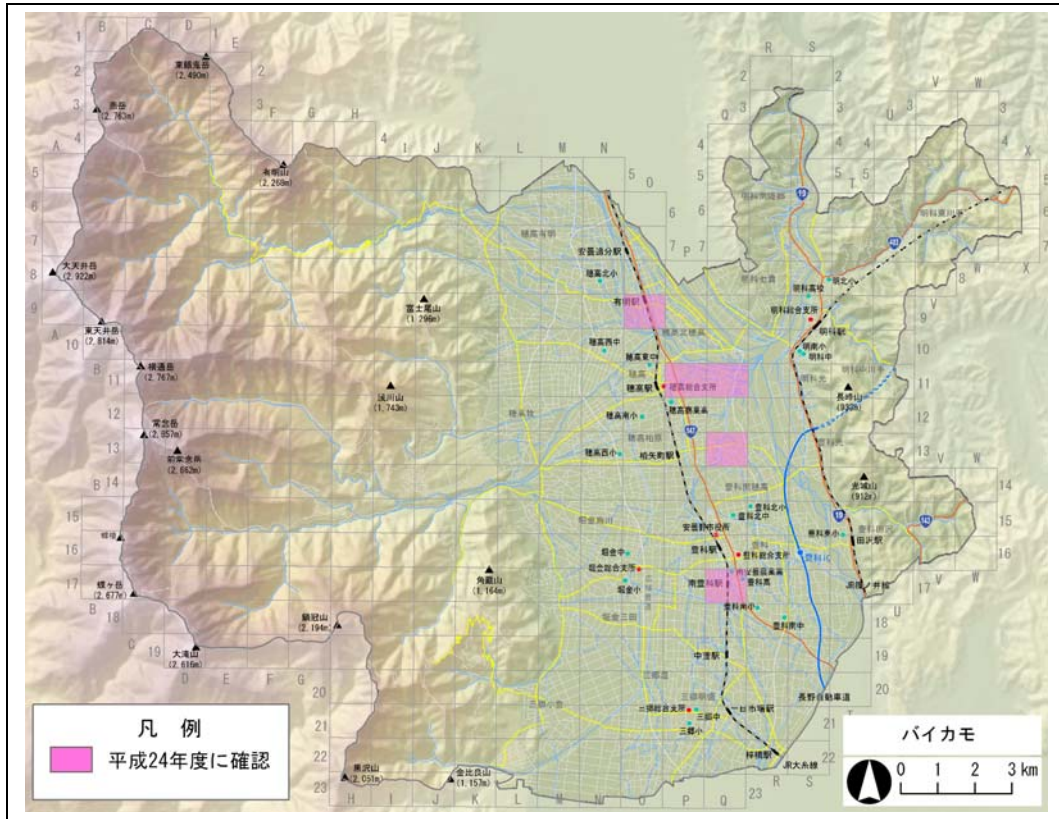
▲ハクビシン



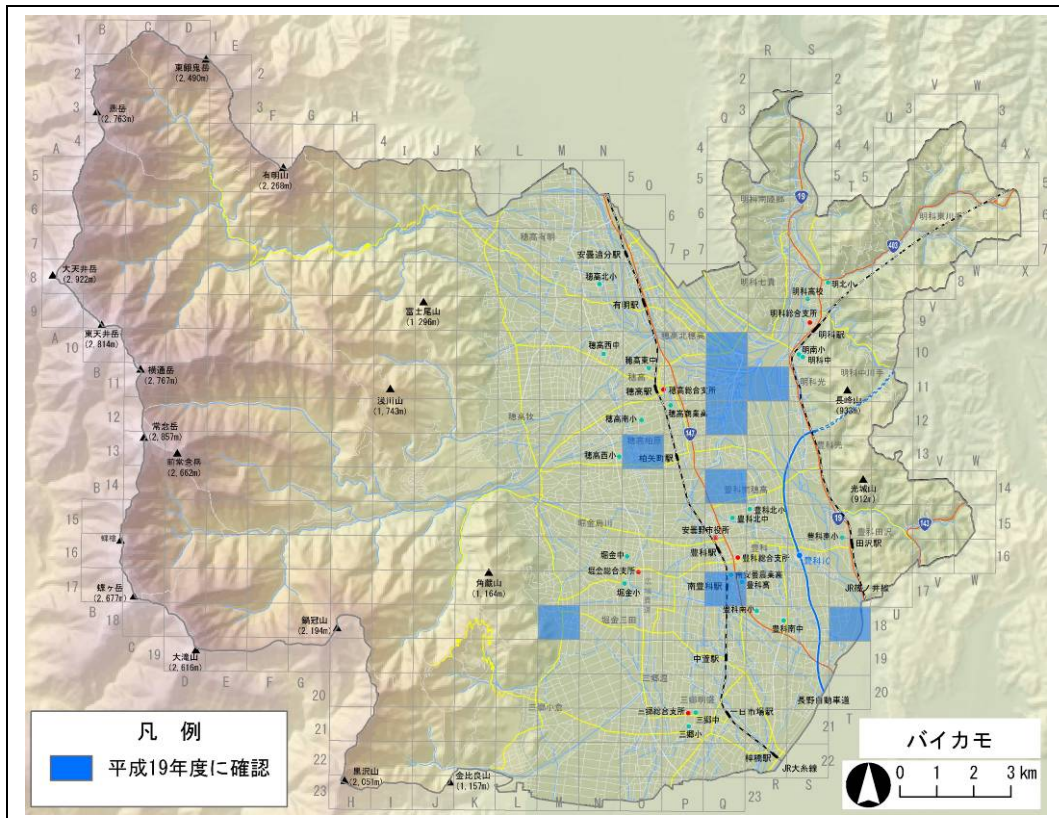
生きものごとの調査結果

※ 平成 19 年度に調査をおこなった種はあわせて地図を示してあります
注目種のうち、希少性の高いオオルリシジミの情報はのぞいてあります

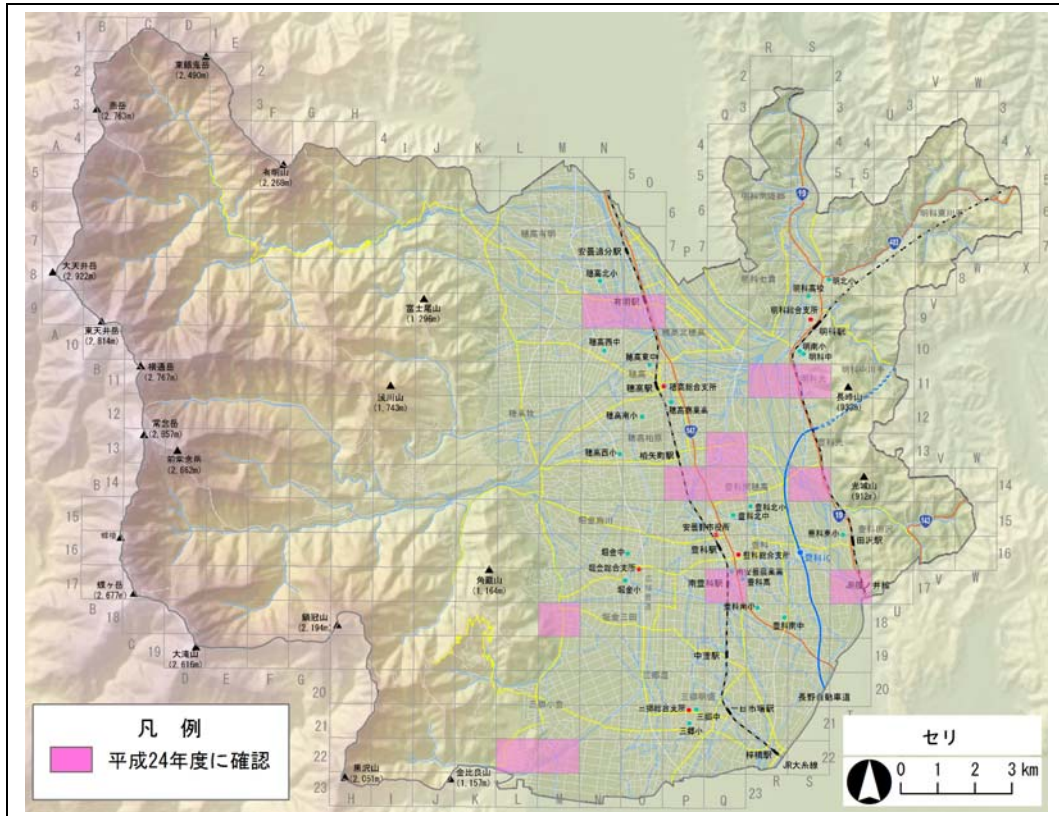
■平成 24 年度 調査結果



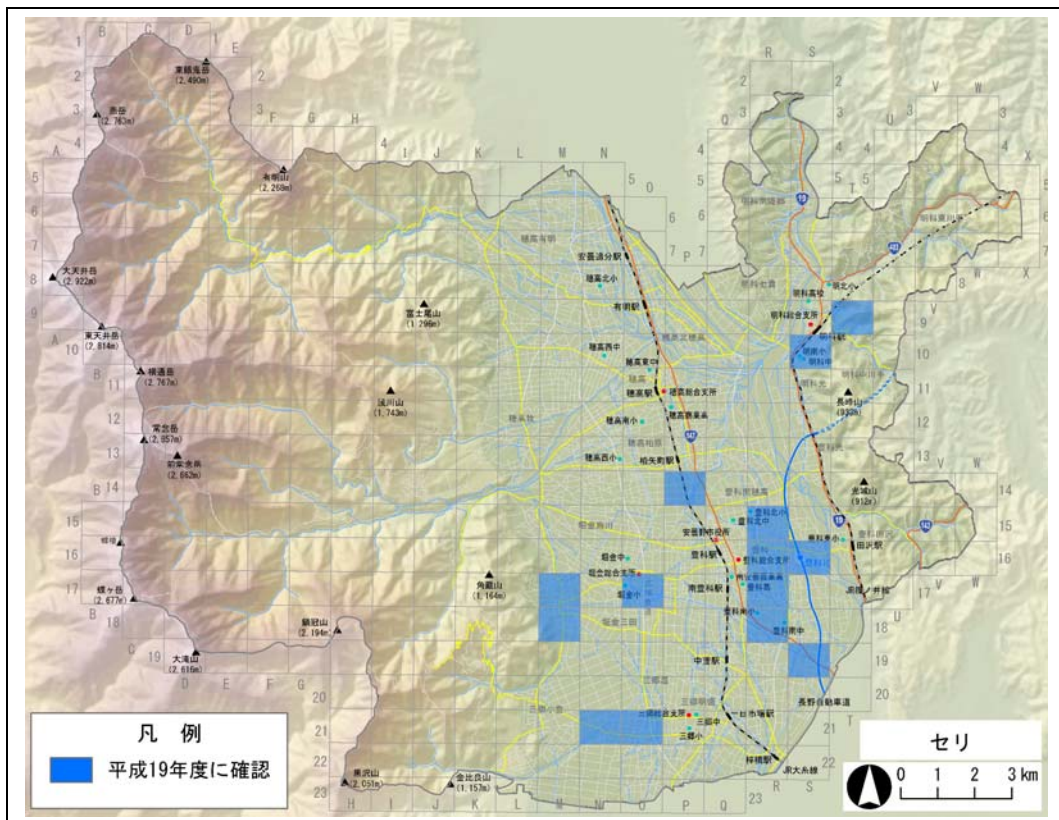
■平成 19 年度 調査結果



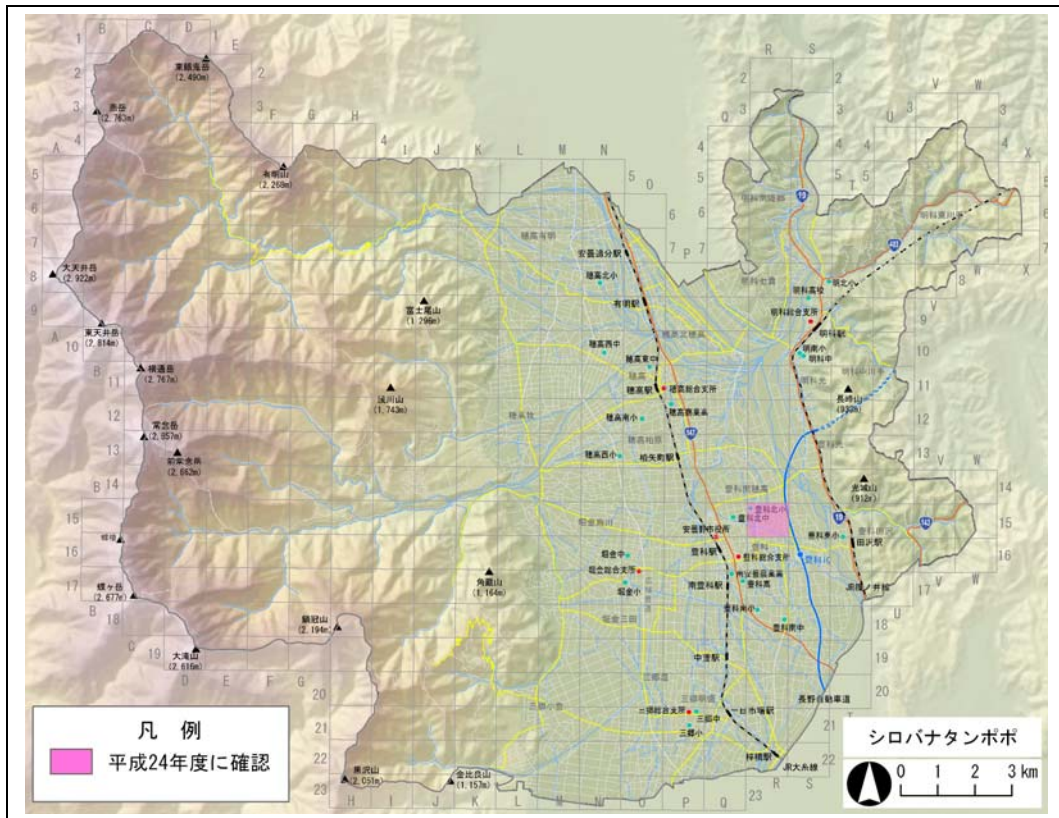
■平成 24 年度 調査結果



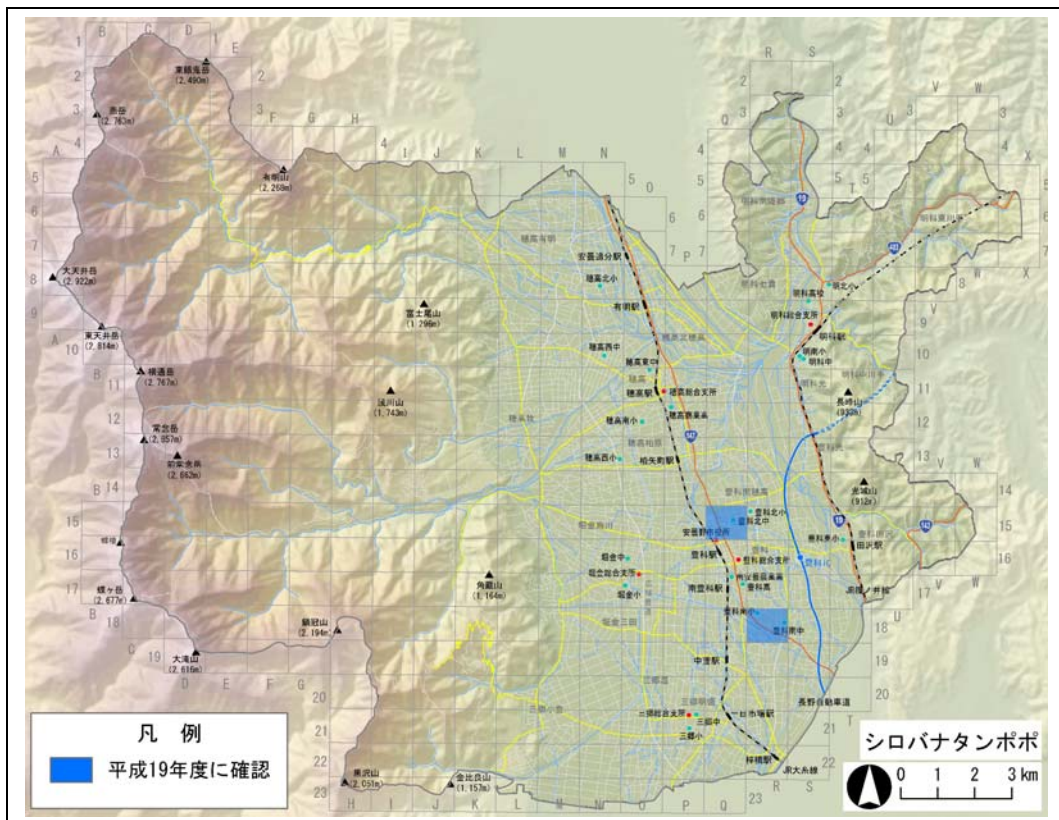
■平成 19 年度 調査結果



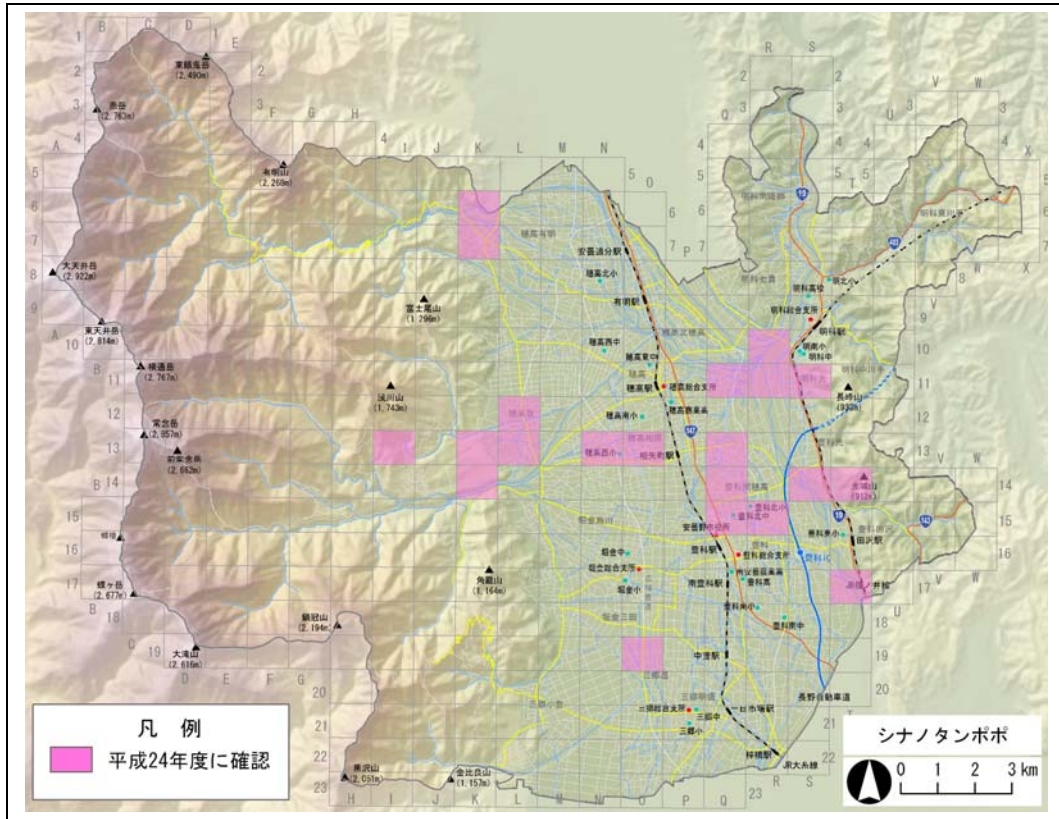
■平成 24 年度 調査結果



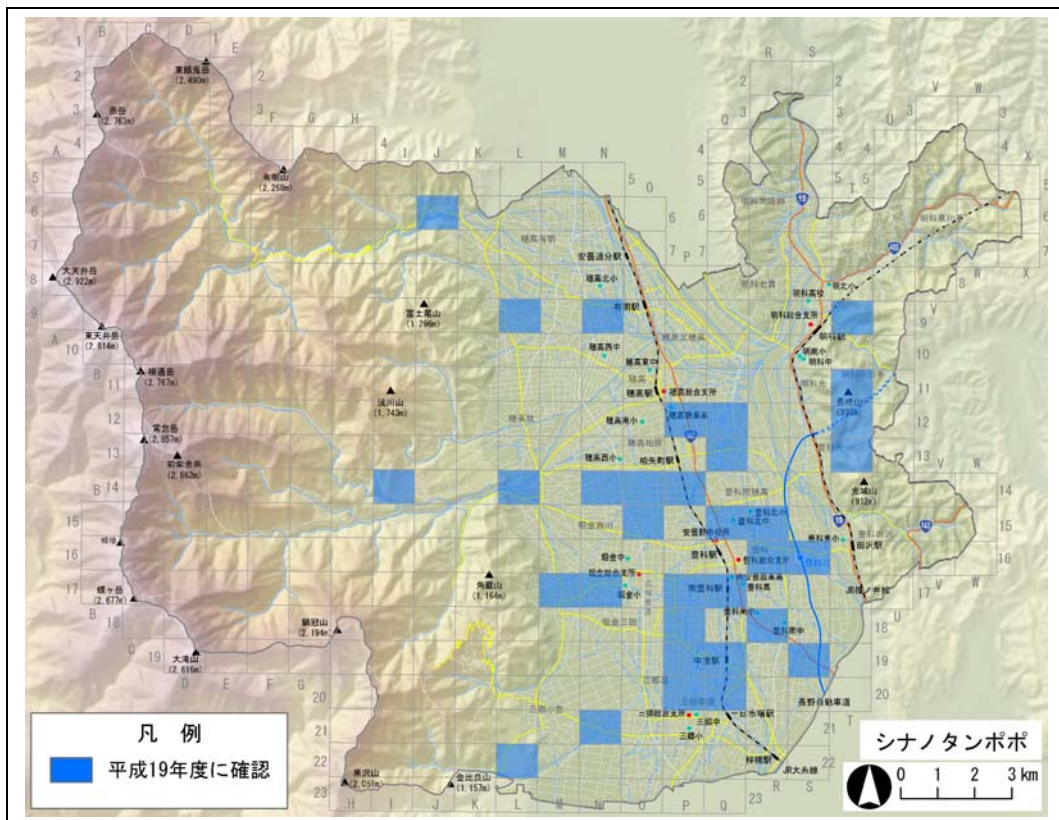
■平成 19 年度 調査結果



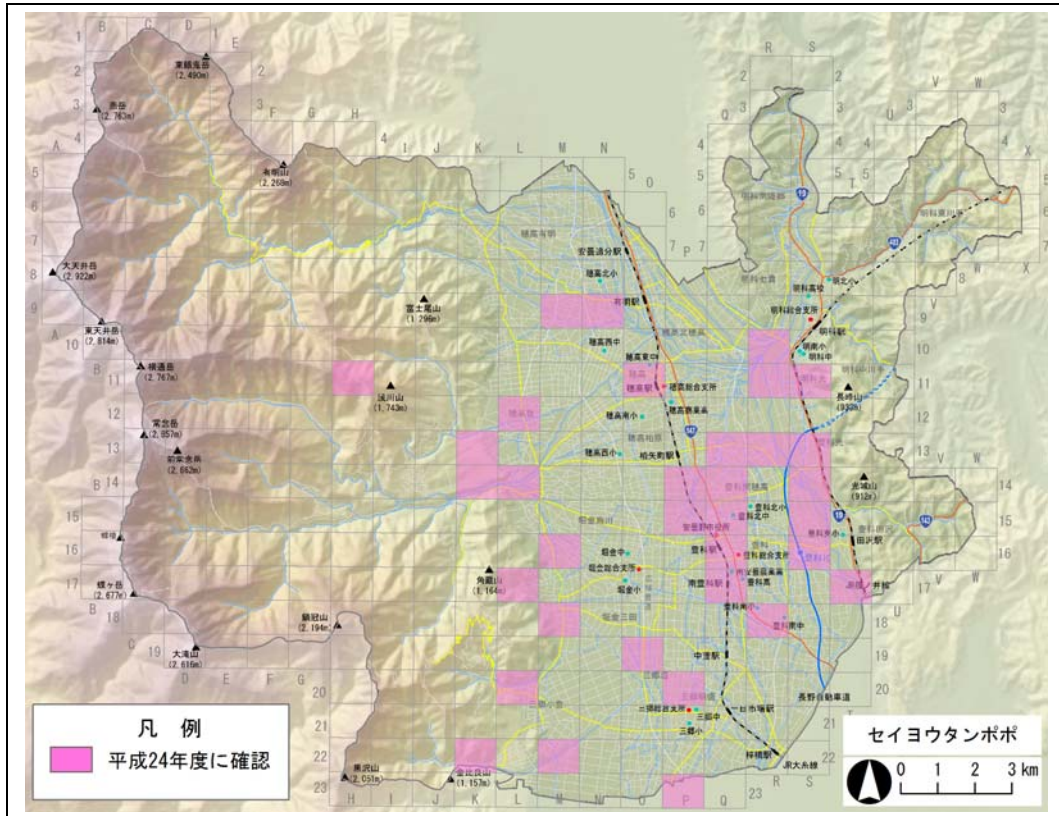
■平成 24 年度 調査結果



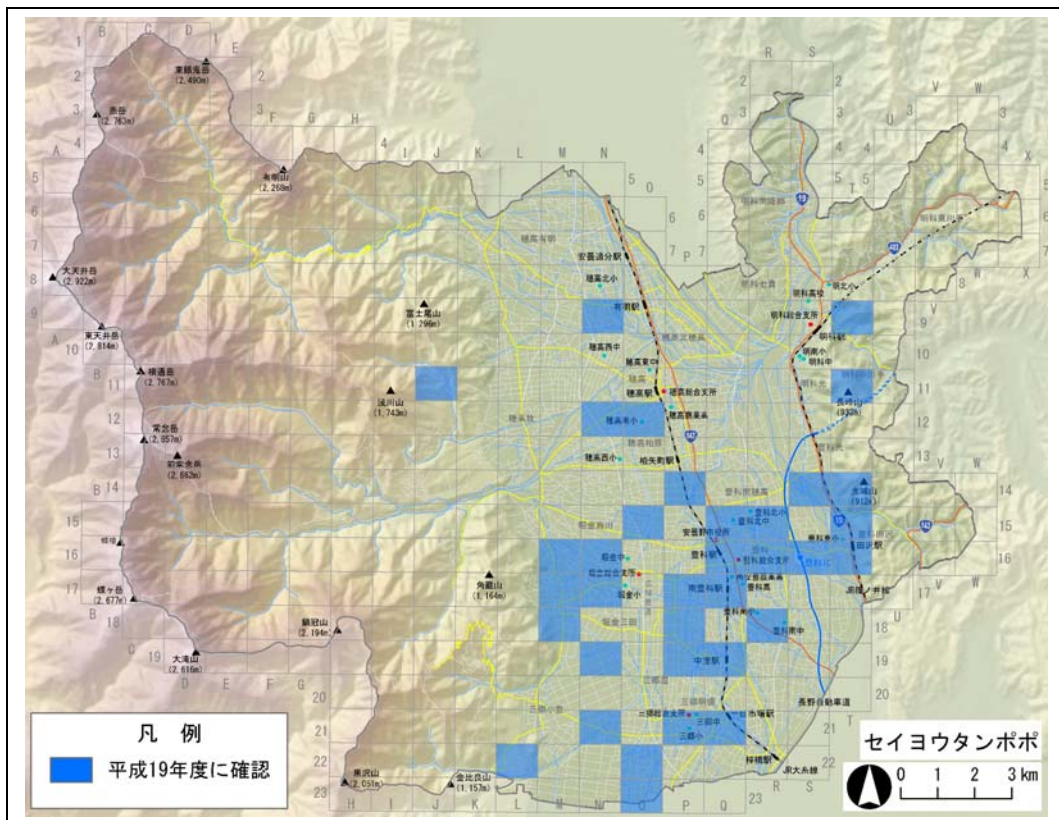
■平成 19 年度 調査結果



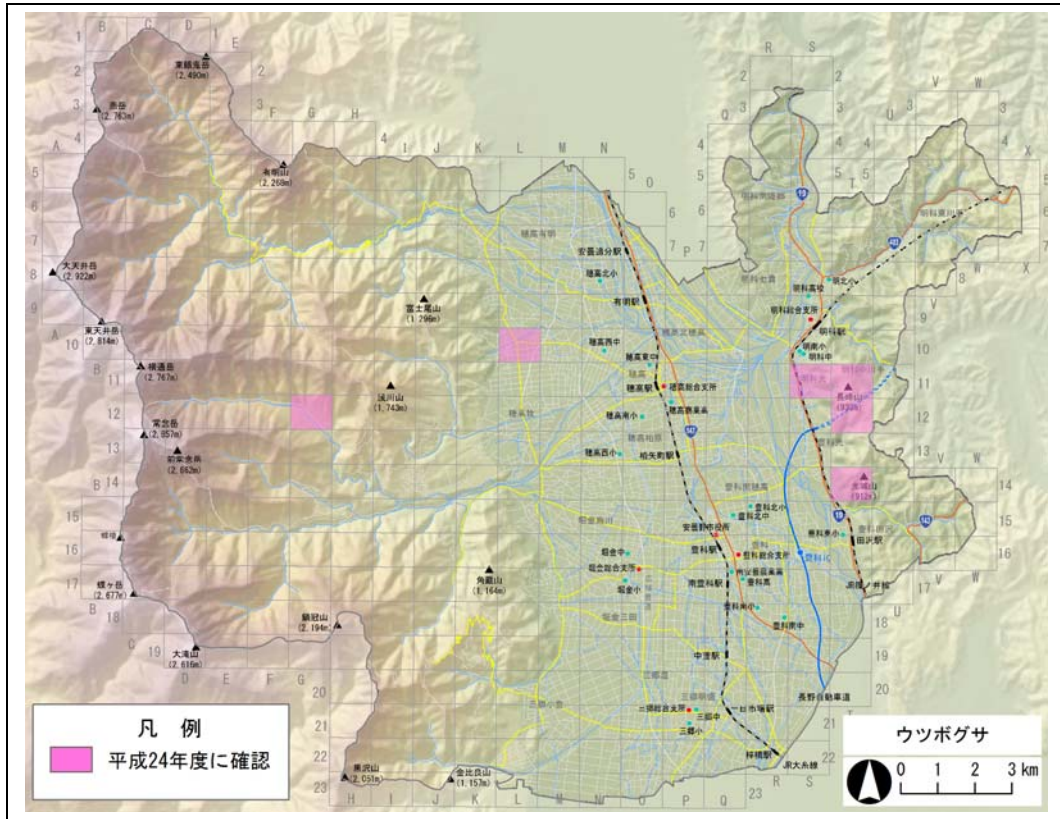
■平成 24 年度 調査結果



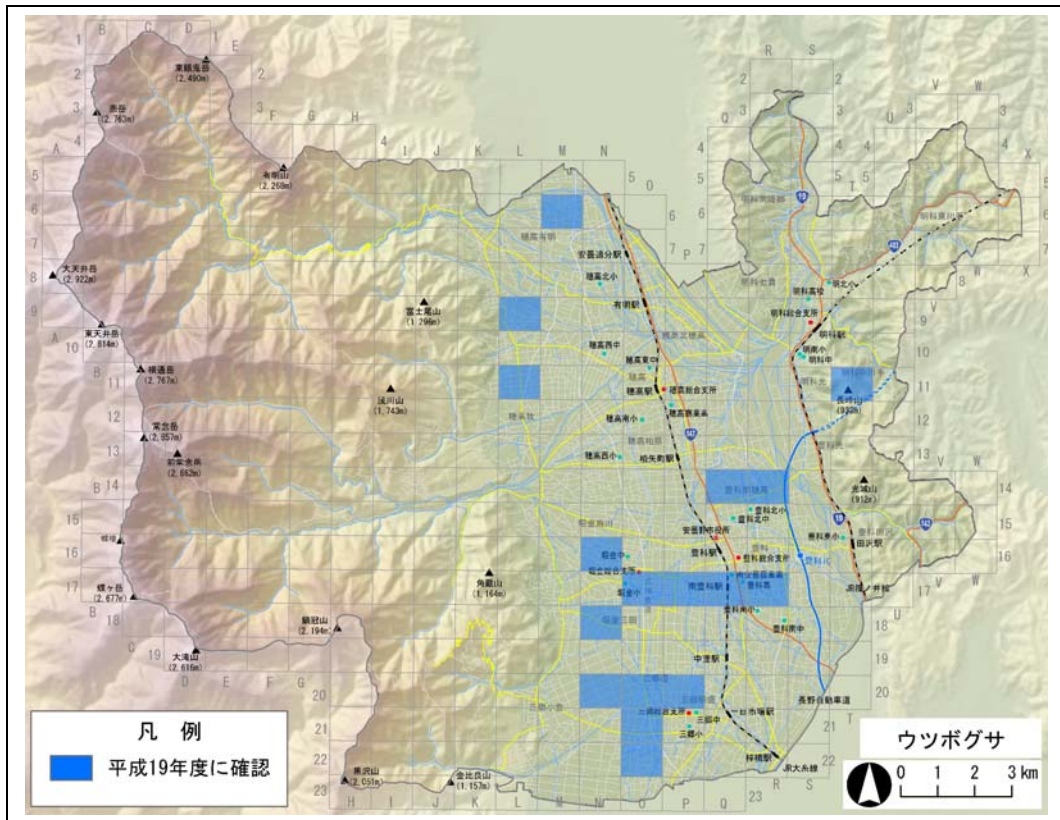
■平成 19 年度 調査結果



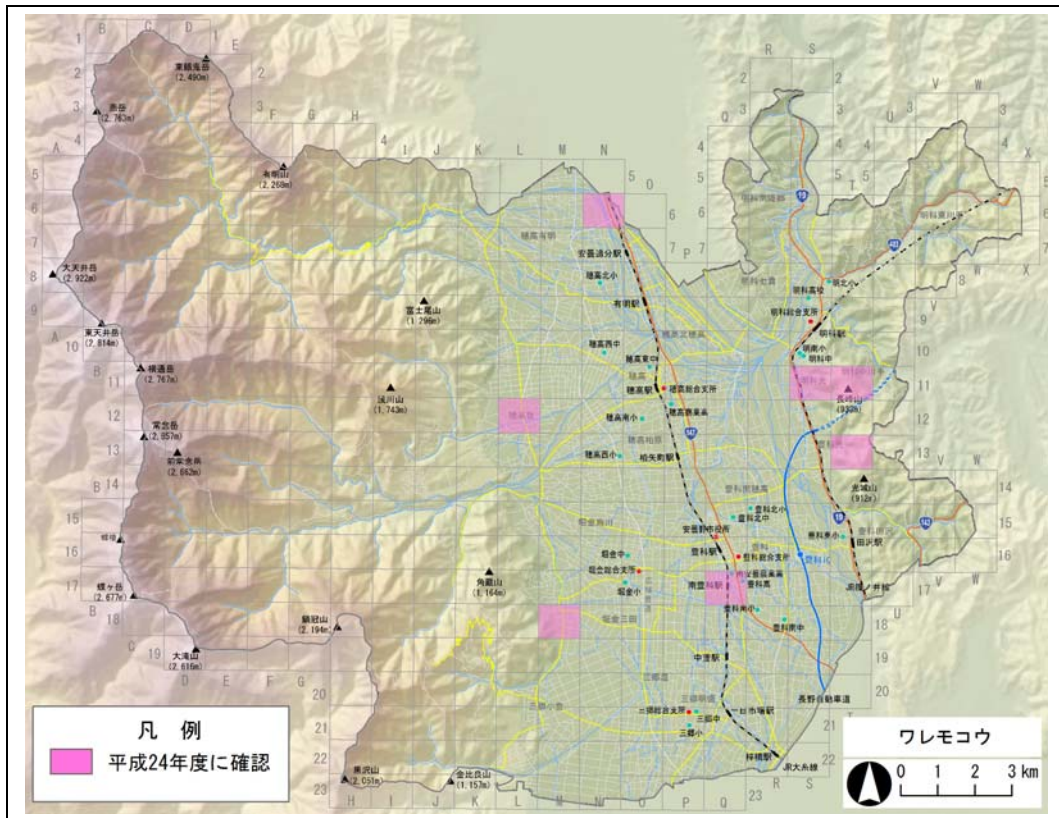
■平成 24 年度 調査結果



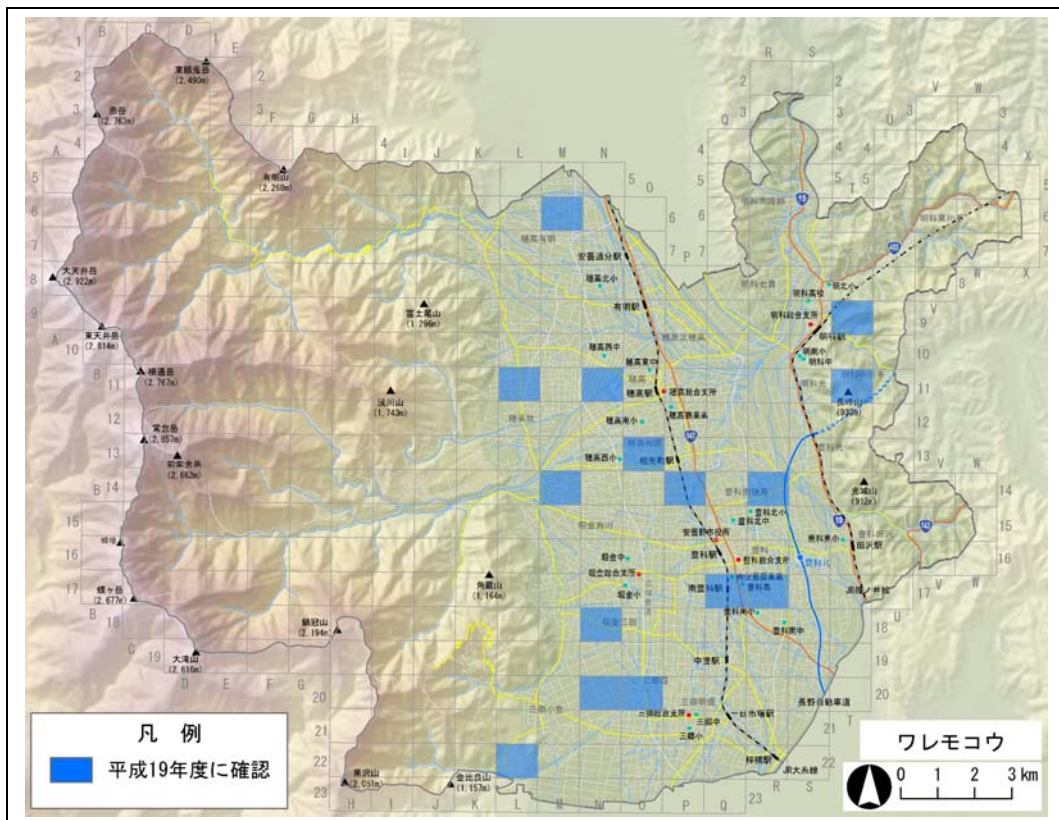
■平成 19 年度 調査結果



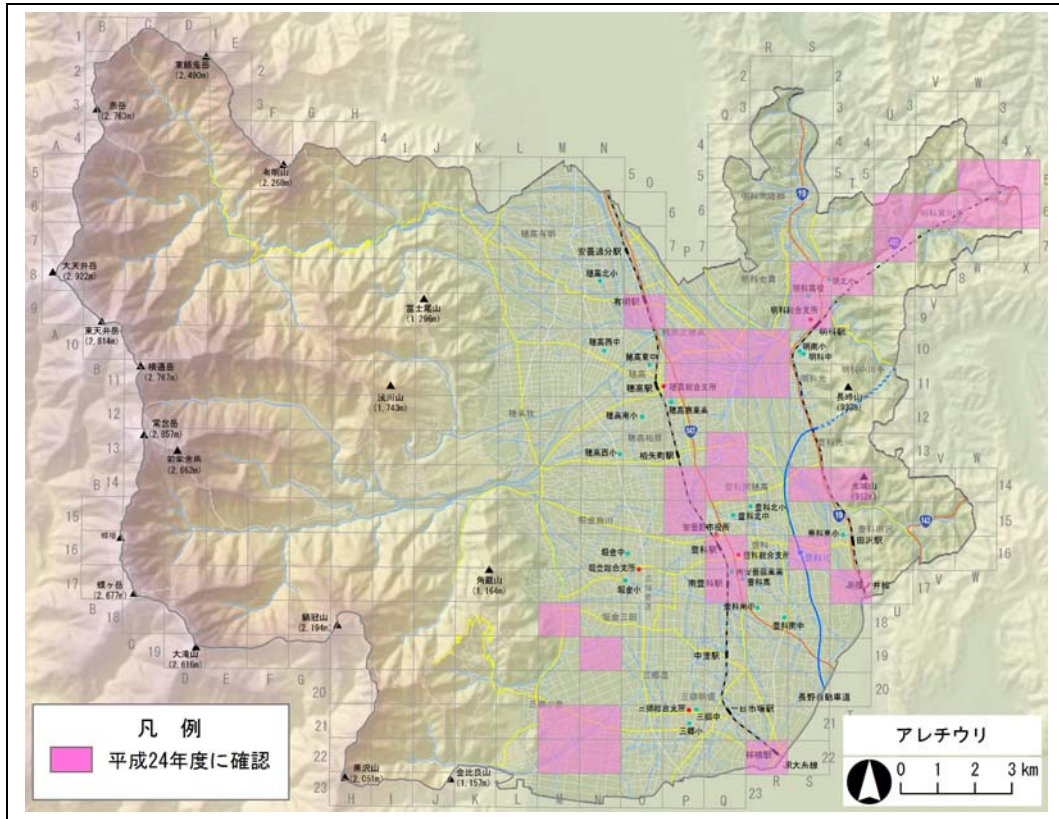
■平成 24 年度 調査結果



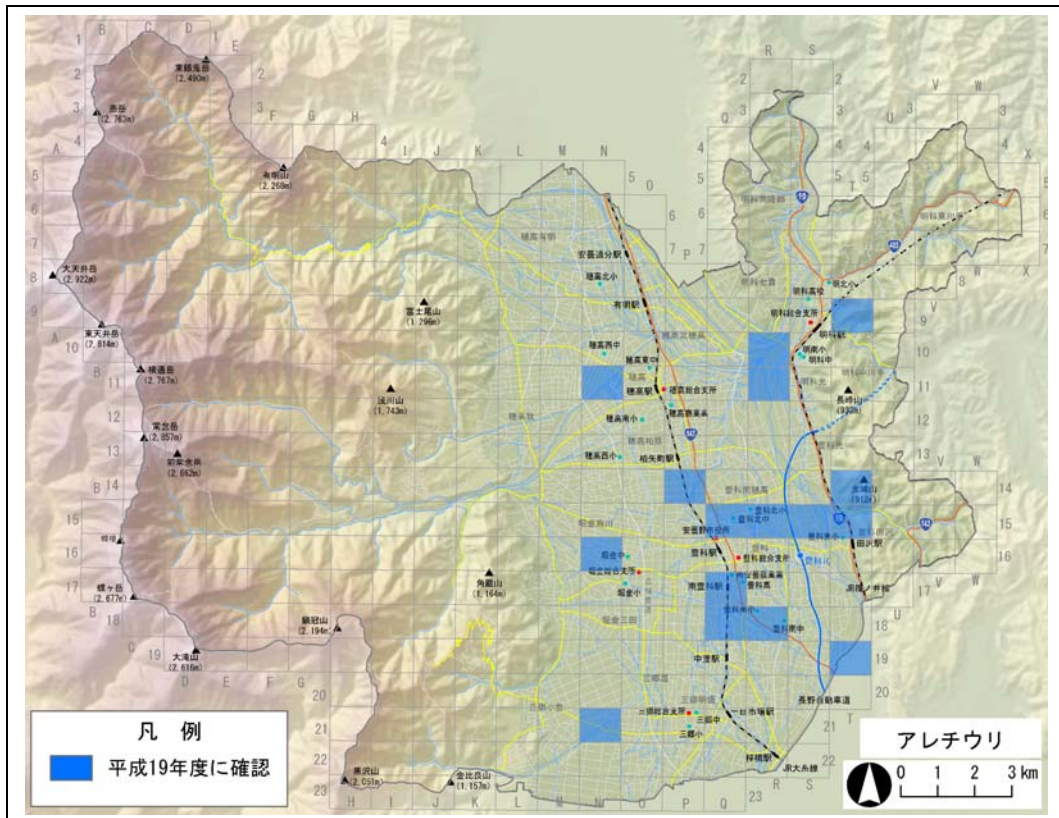
■平成 19 年度 調査結果



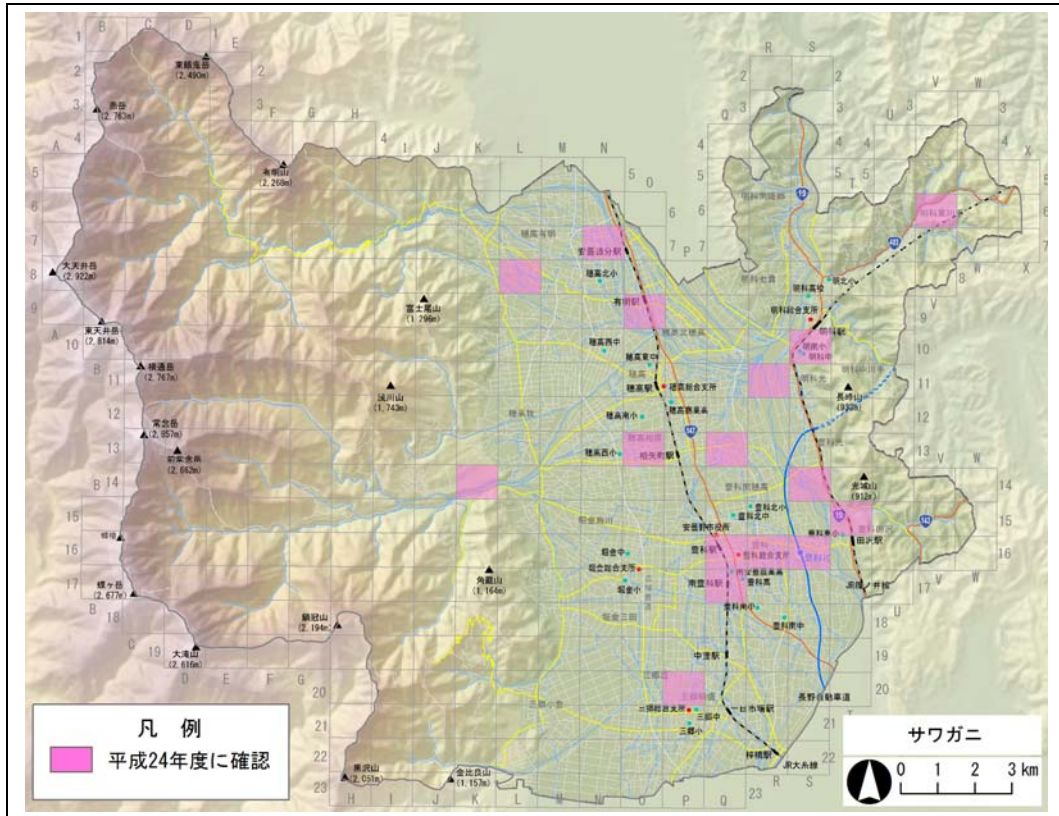
■平成 24 年度 調査結果



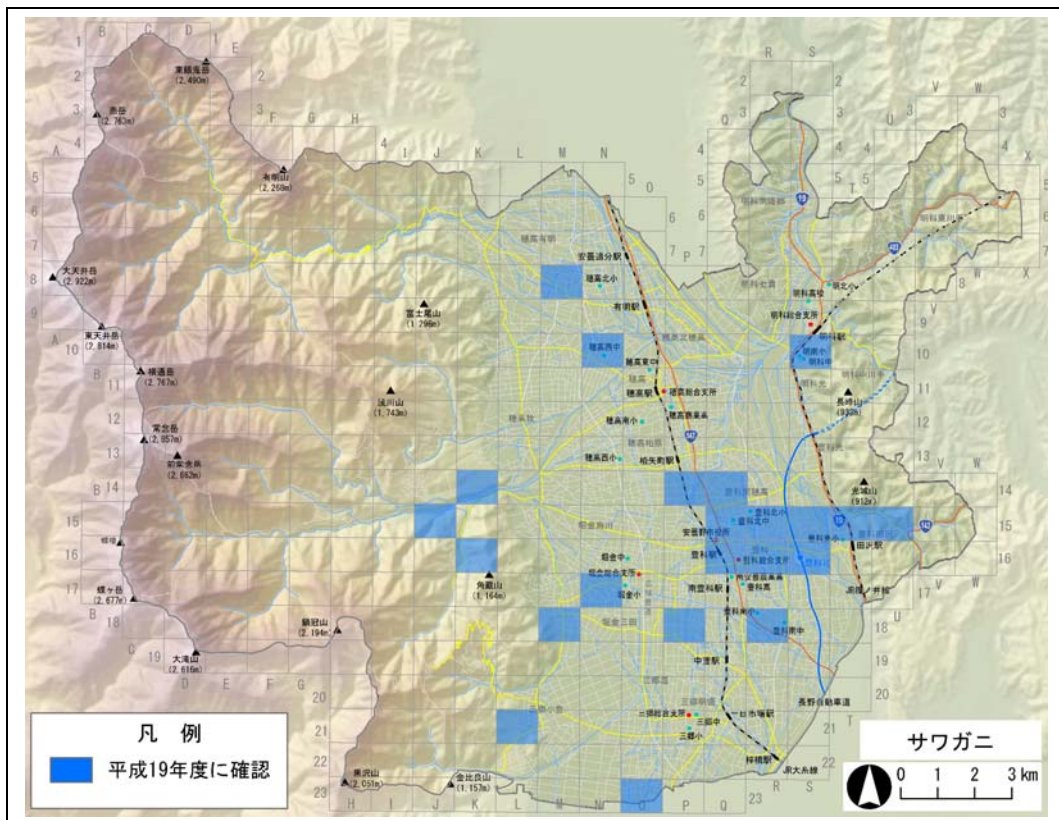
■平成 19 年度 調査結果



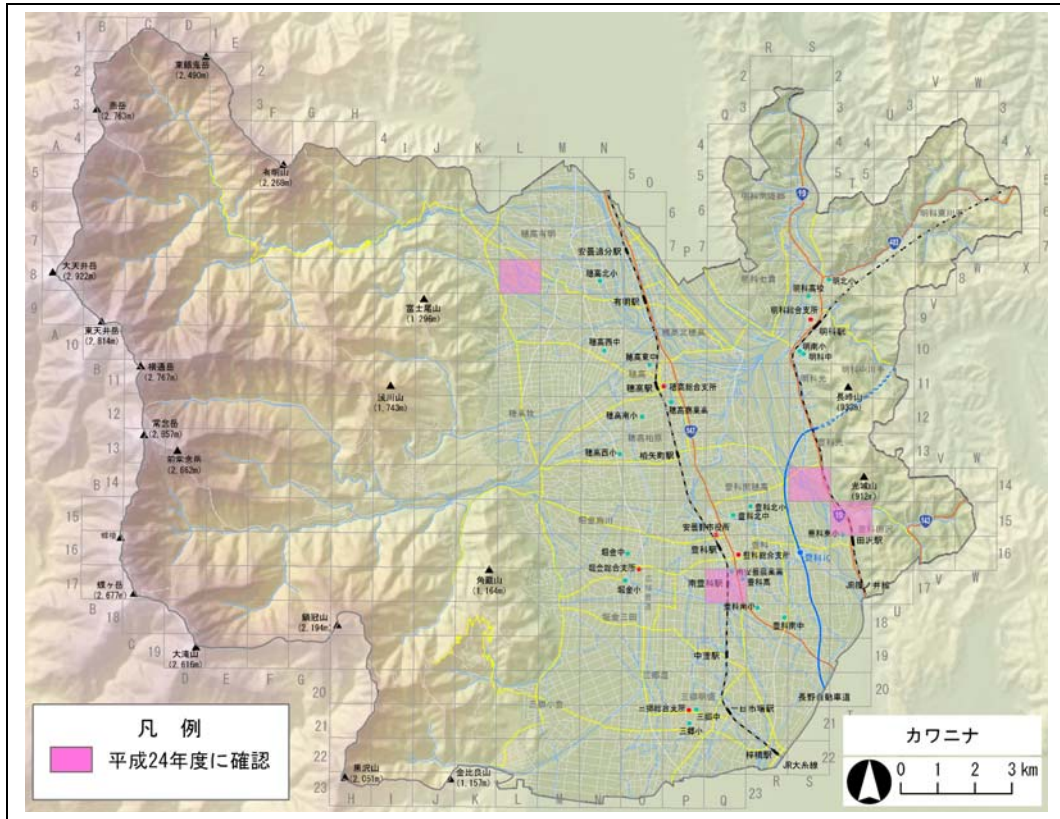
■平成 24 年度 調査結果



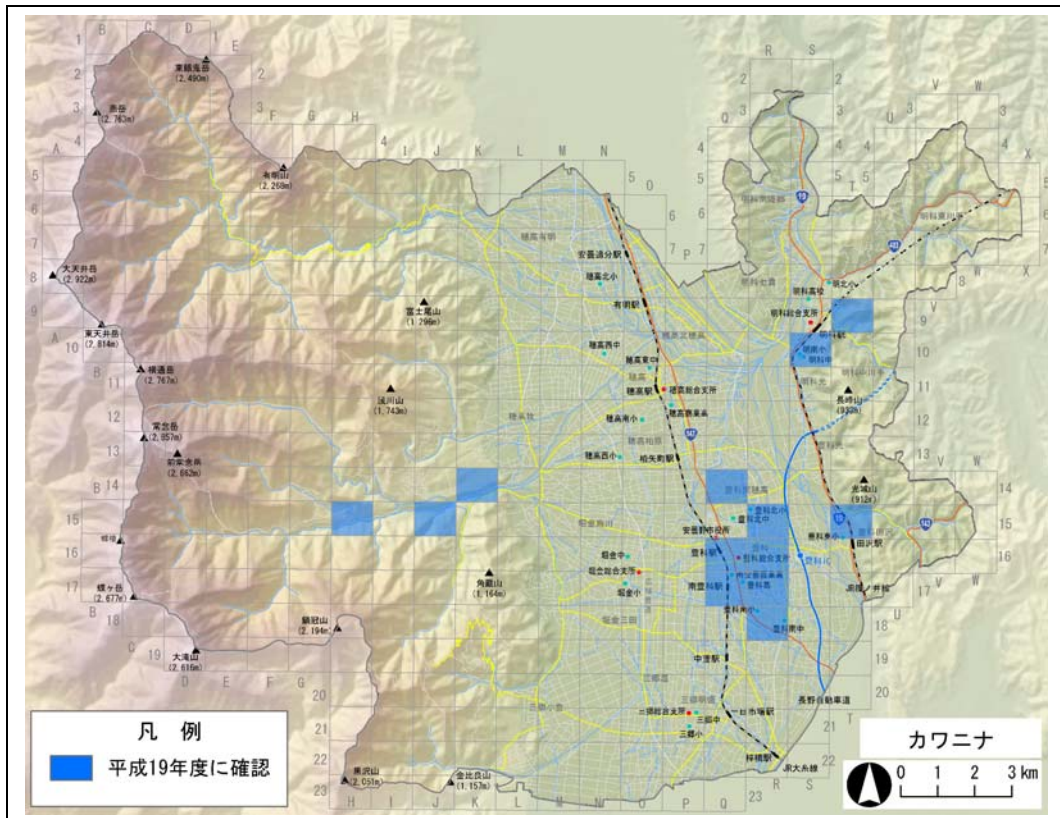
■平成 19 年度 調査結果



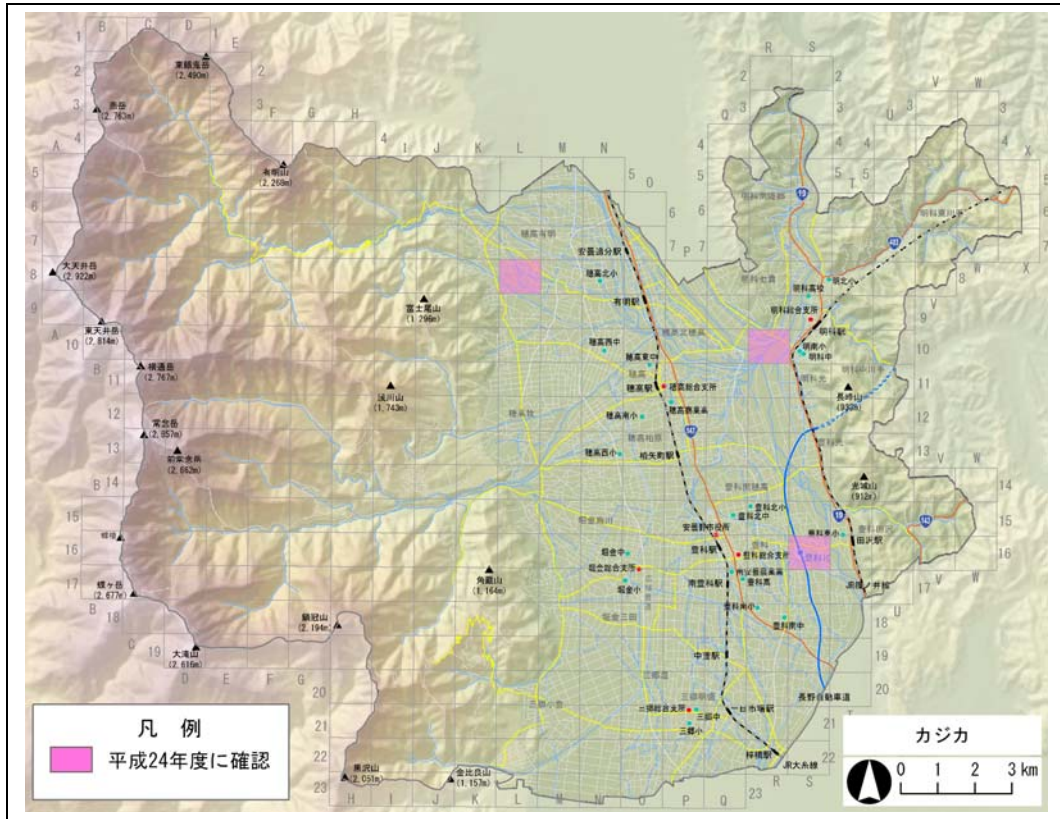
■平成 24 年度 調査結果



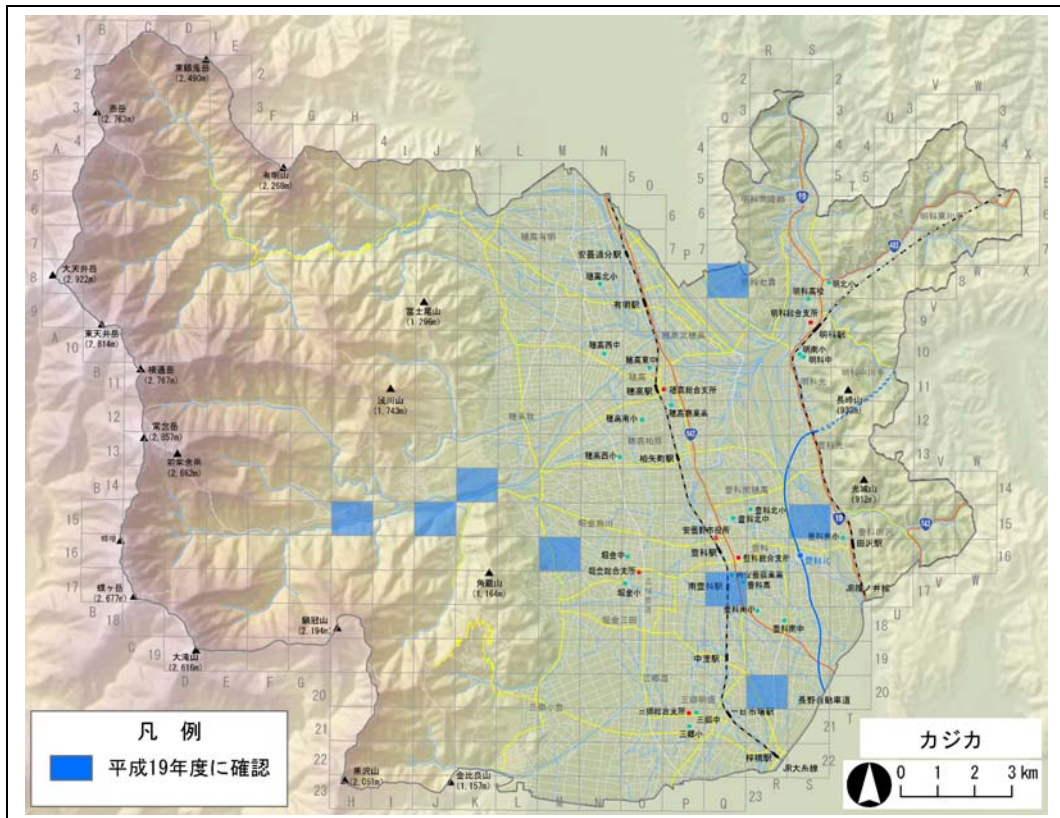
■平成 19 年度 調査結果



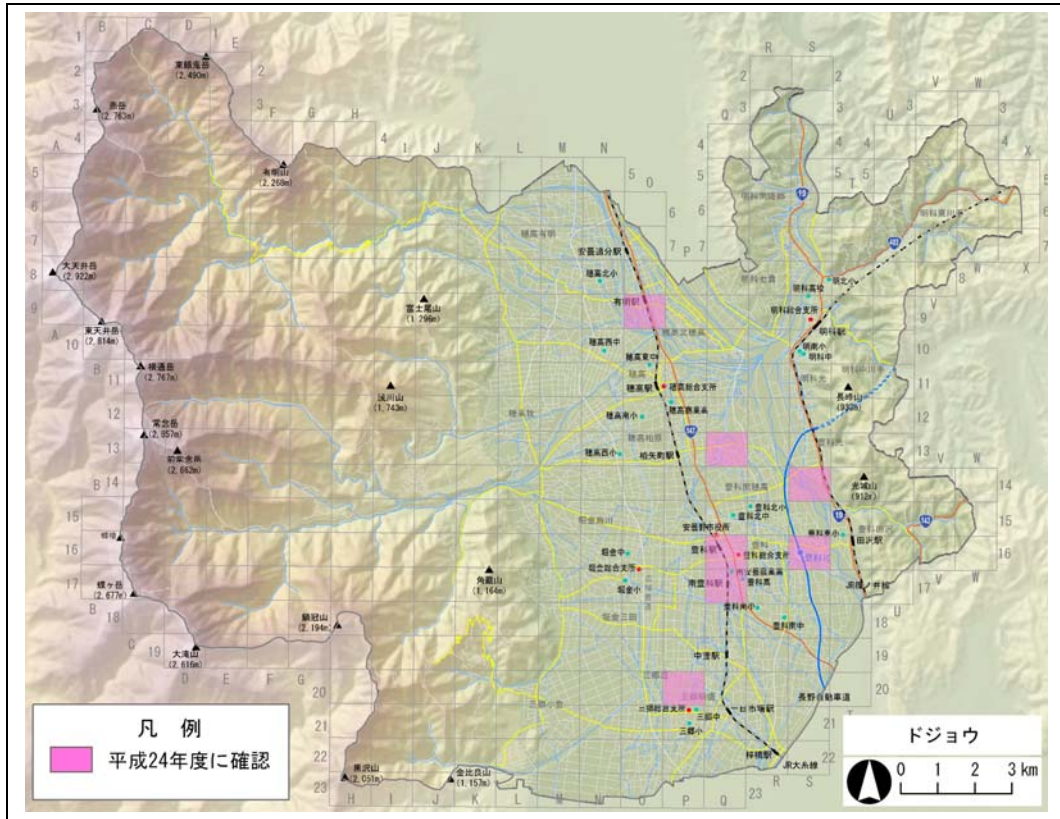
■平成 24 年度 調査結果



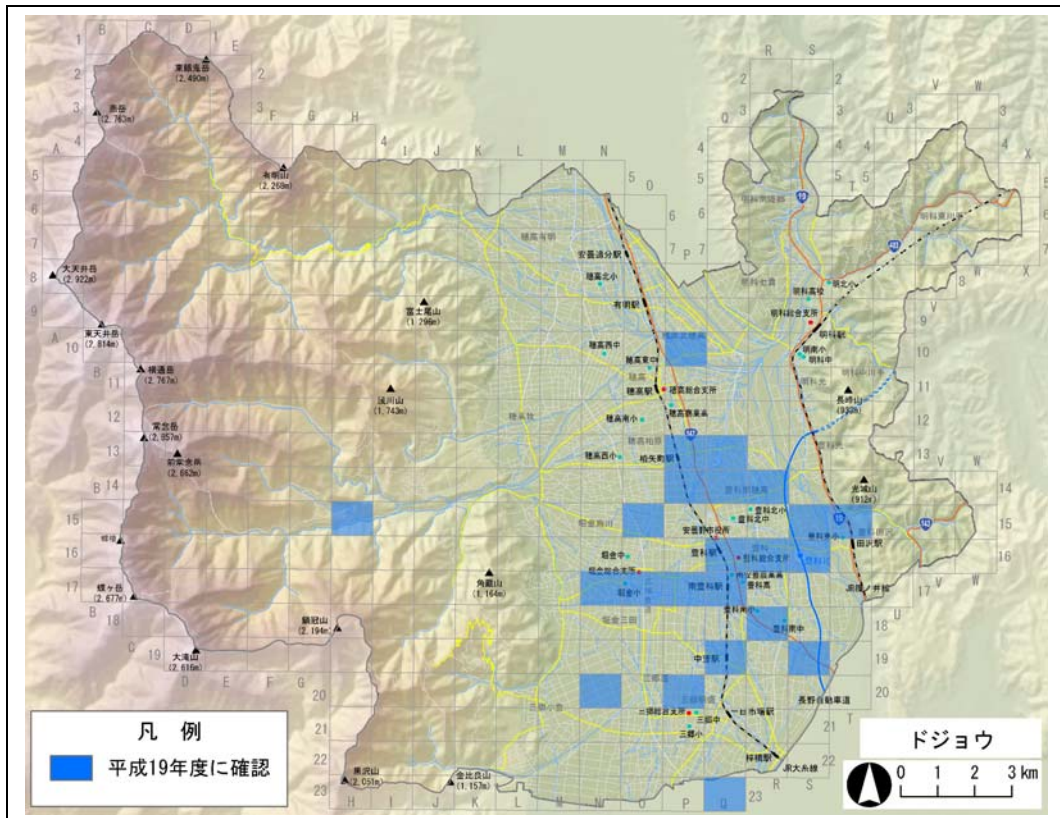
■平成 19 年度 調査結果



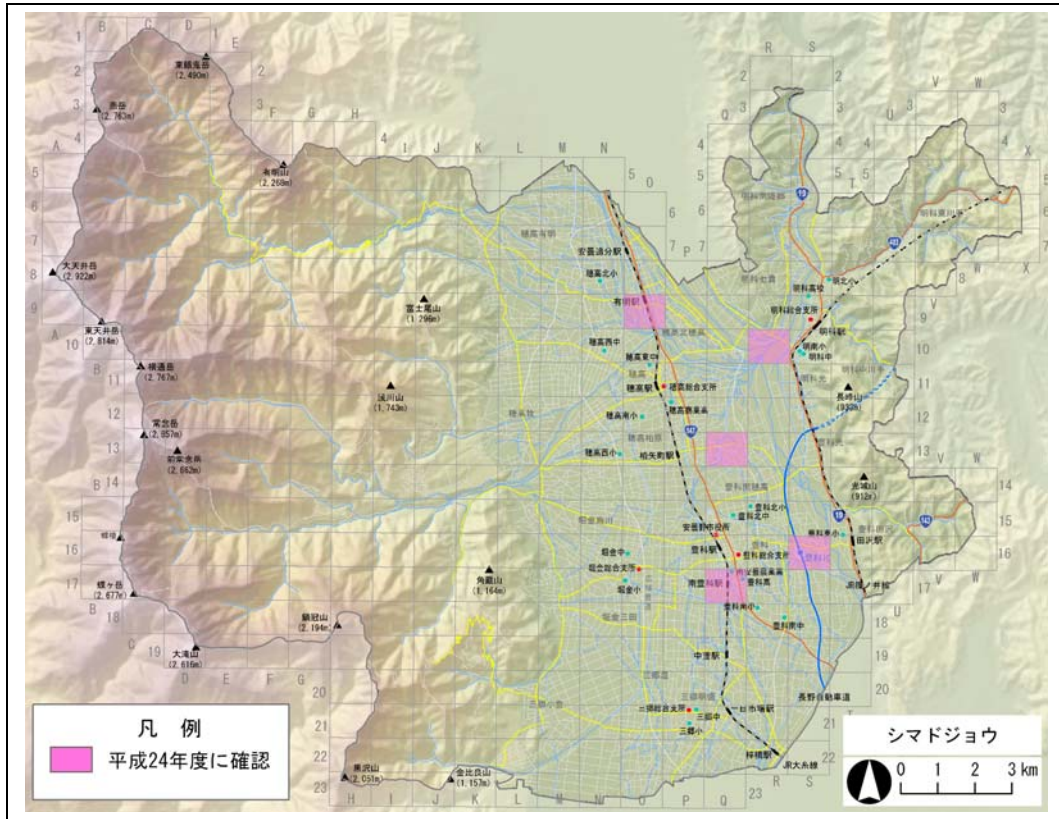
■平成 24 年度 調査結果



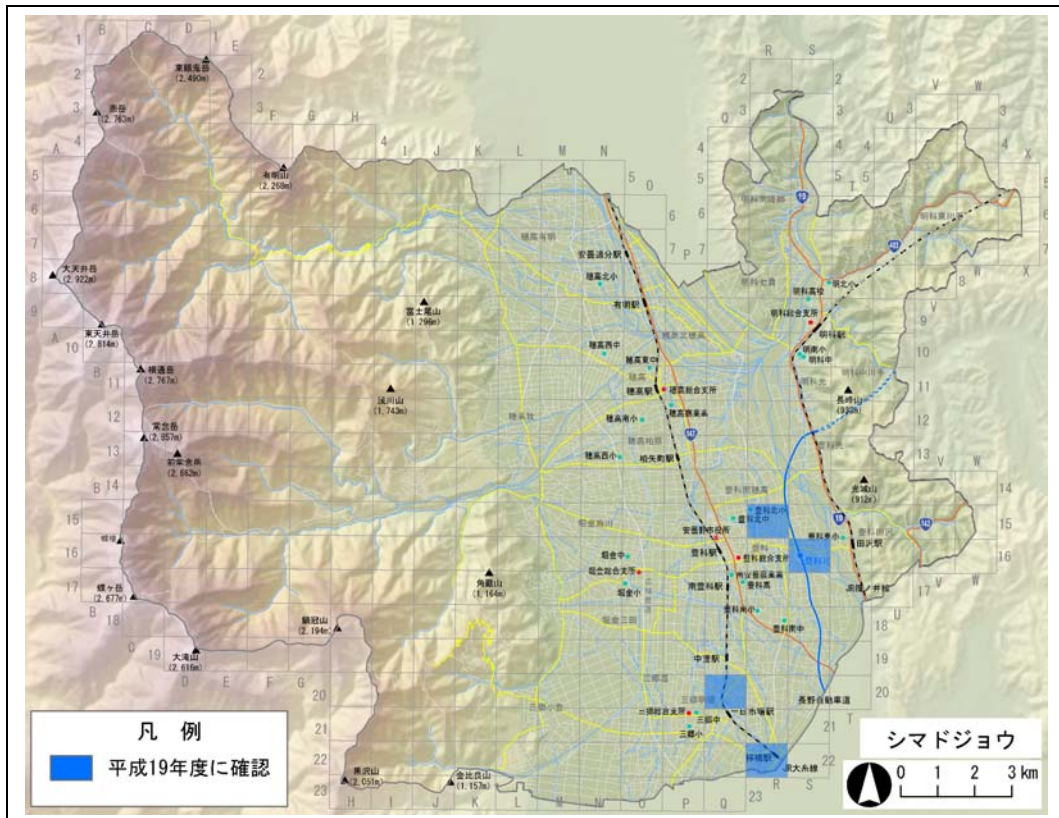
■平成 19 年度 調査結果



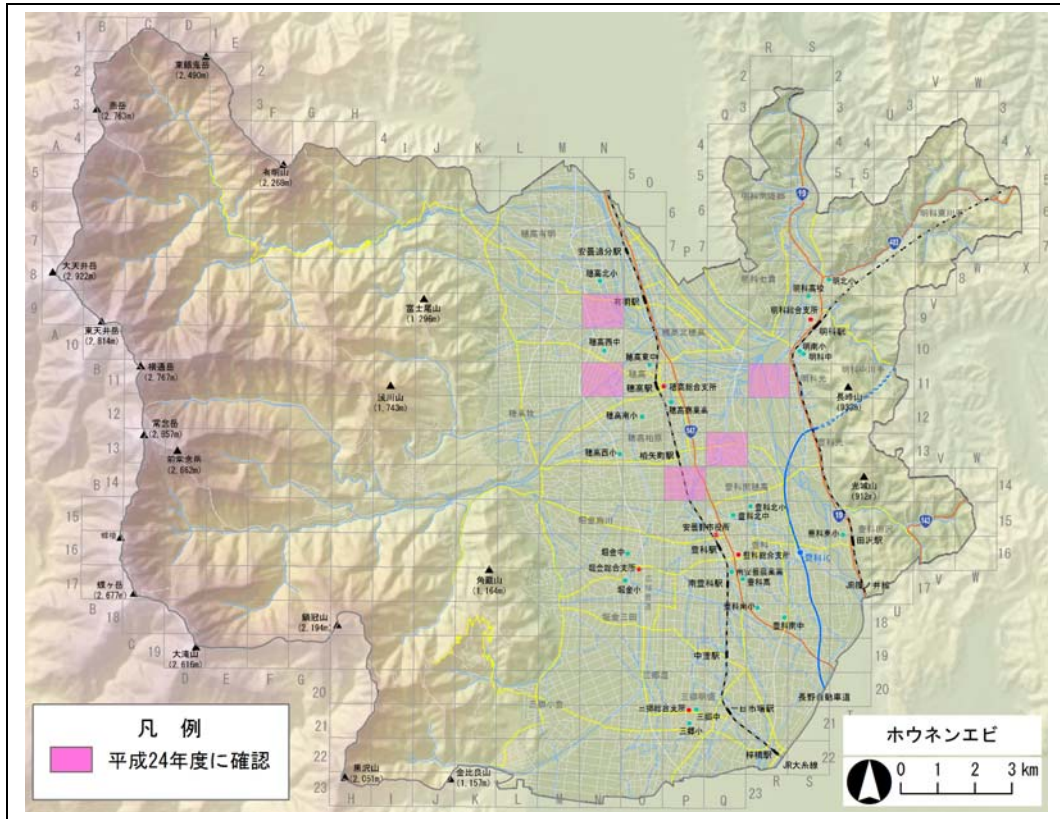
■平成 24 年度 調査結果



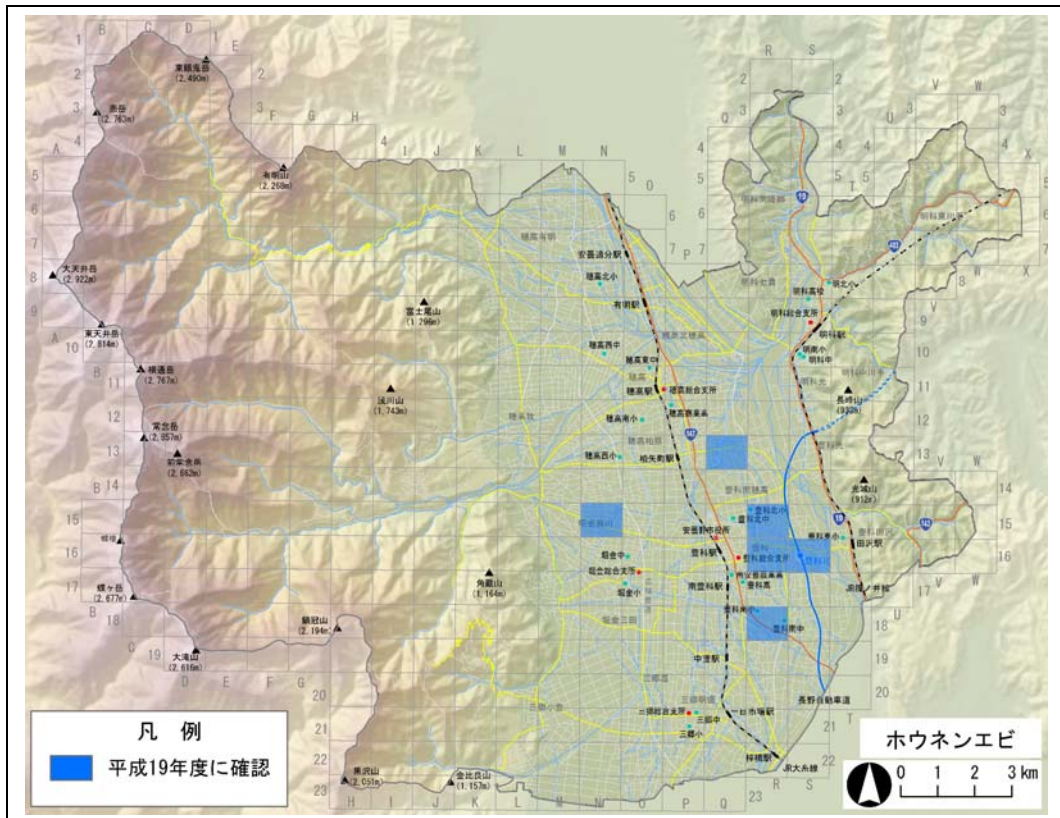
■平成 19 年度 調査結果



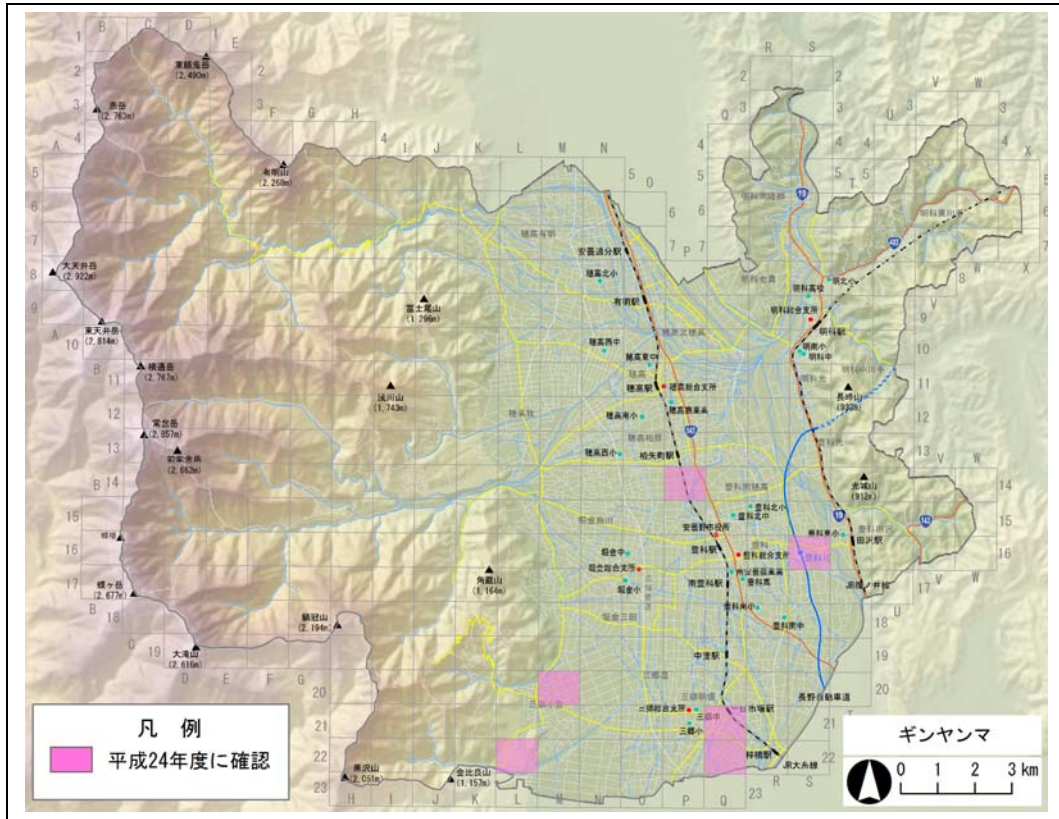
■平成 24 年度 調査結果



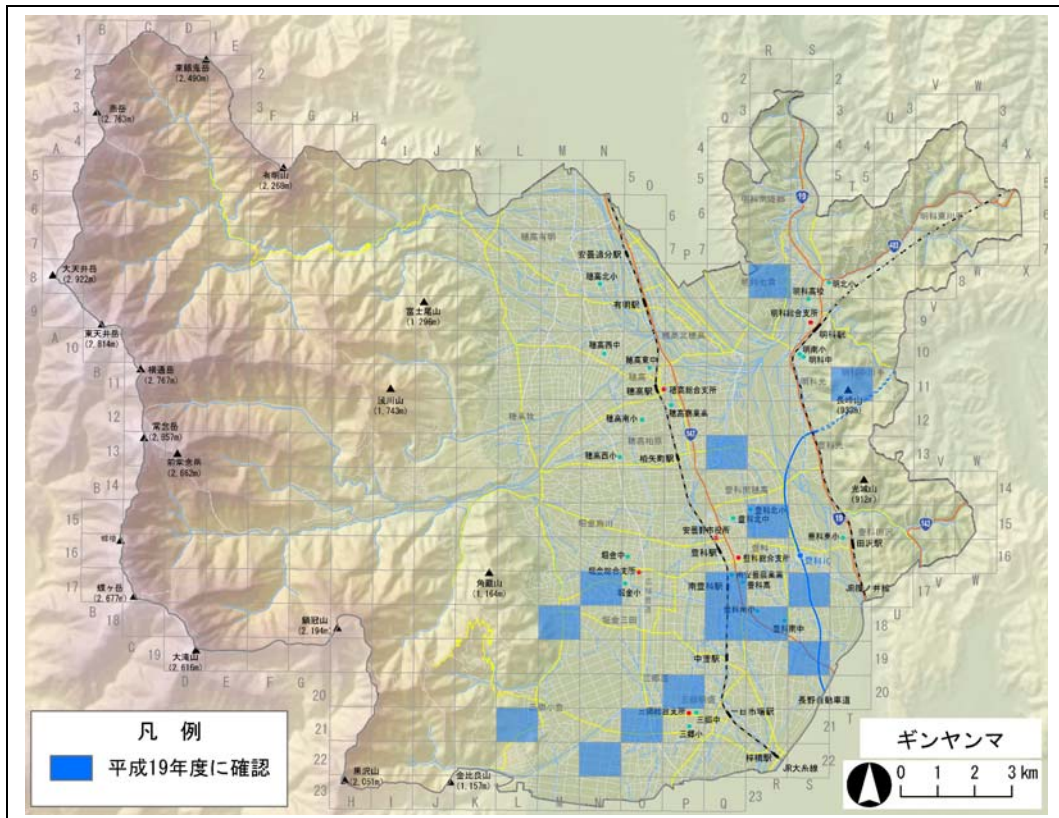
■平成 19 年度 調査結果



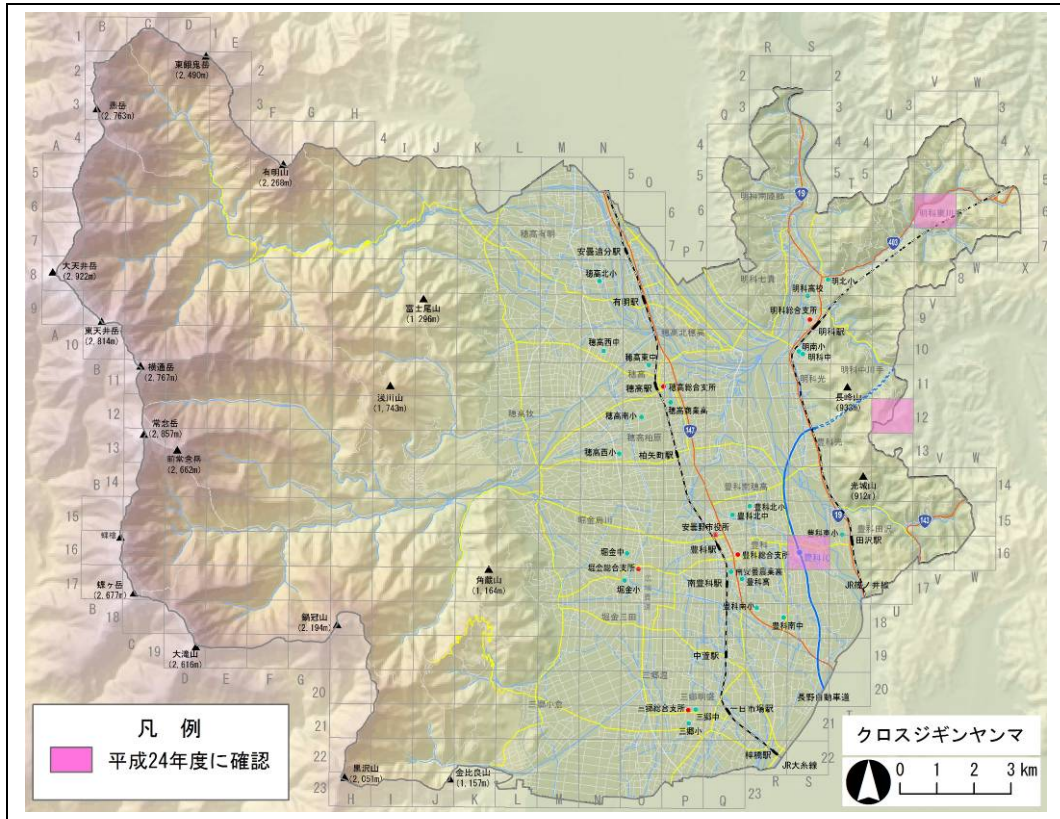
■平成 24 年度 調査結果



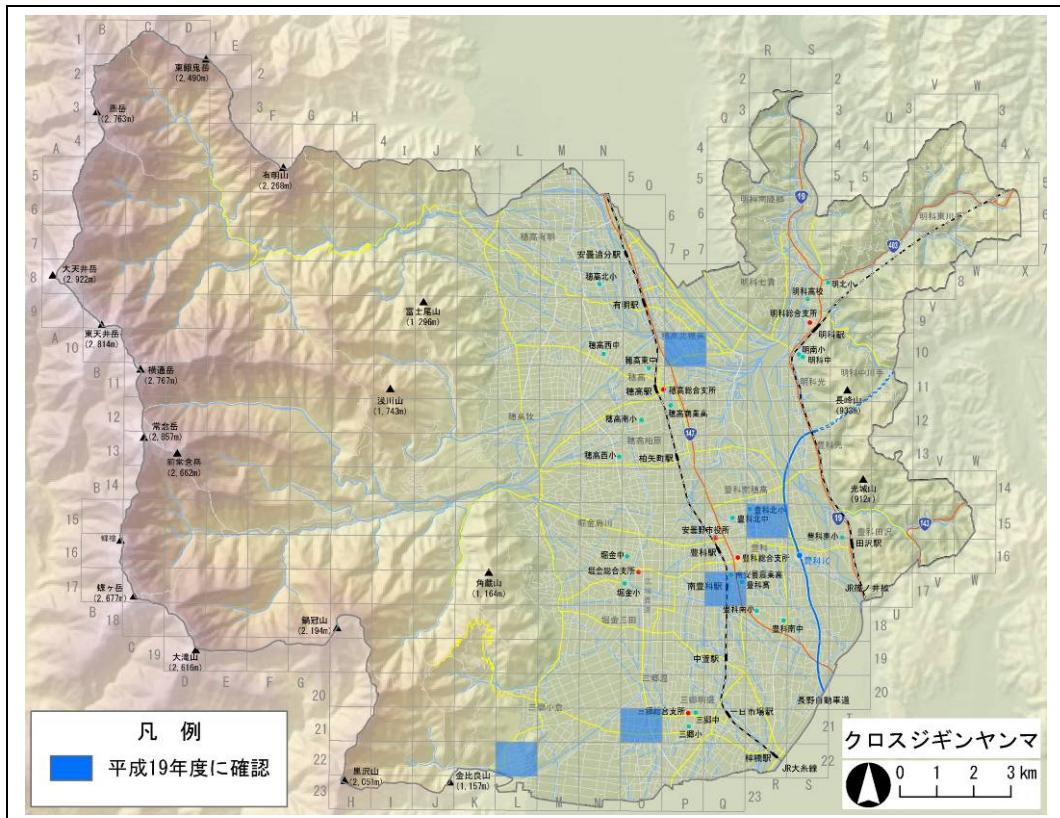
■平成 19 年度 調査結果



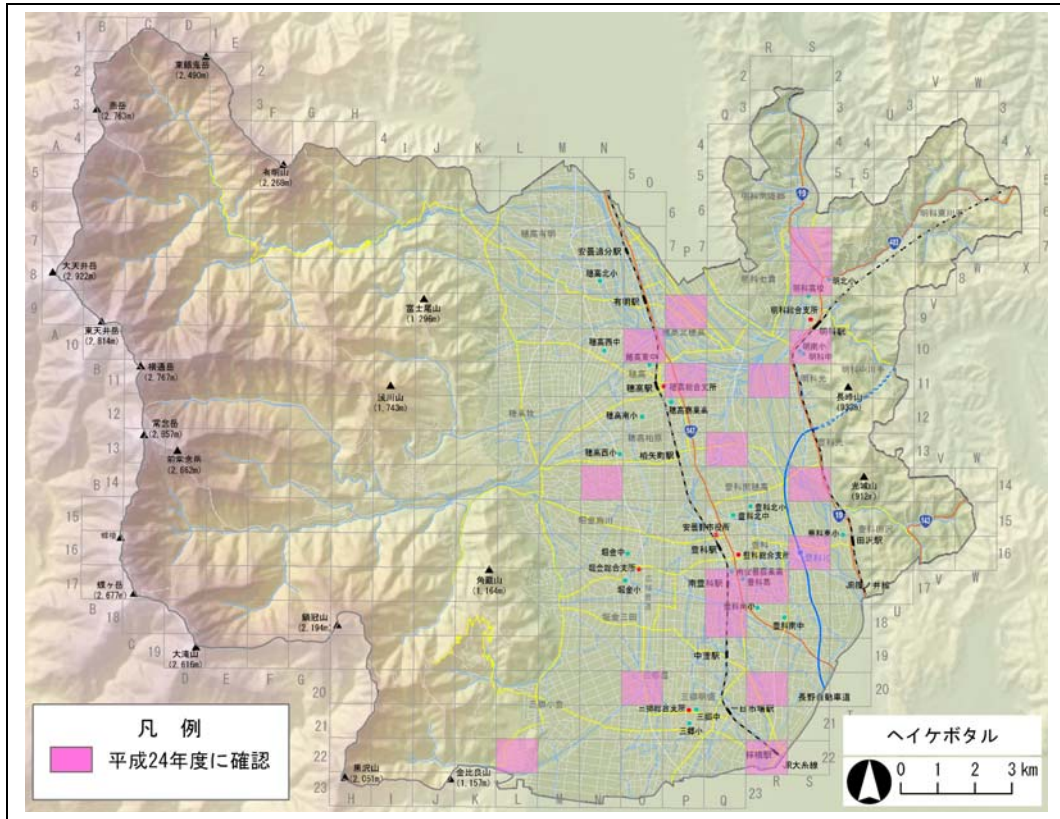
■平成 24 年度 調査結果



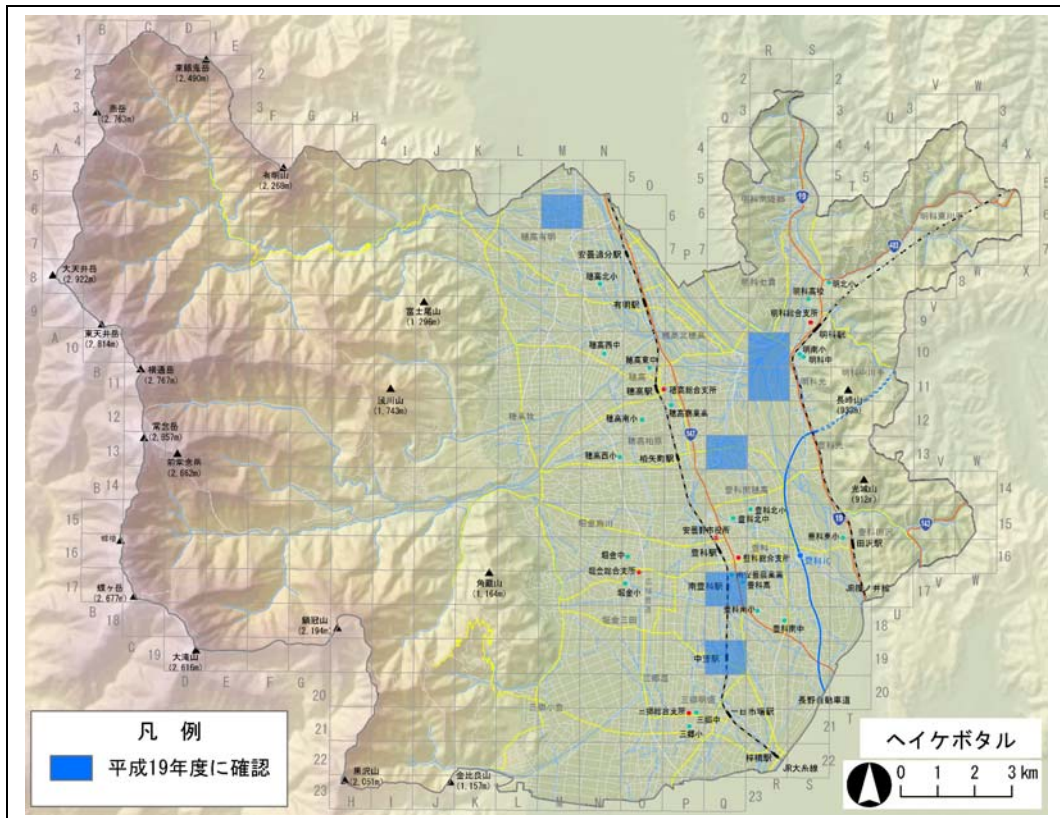
■平成 19 年度 調査結果



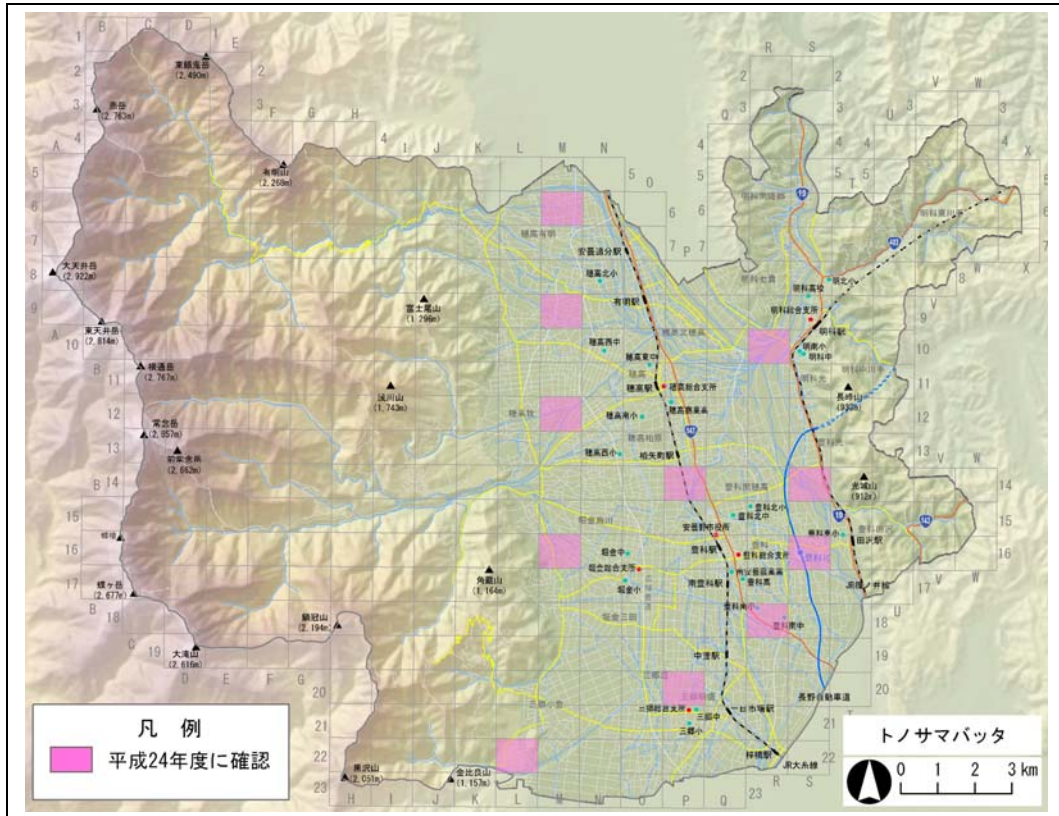
■平成 24 年度 調査結果



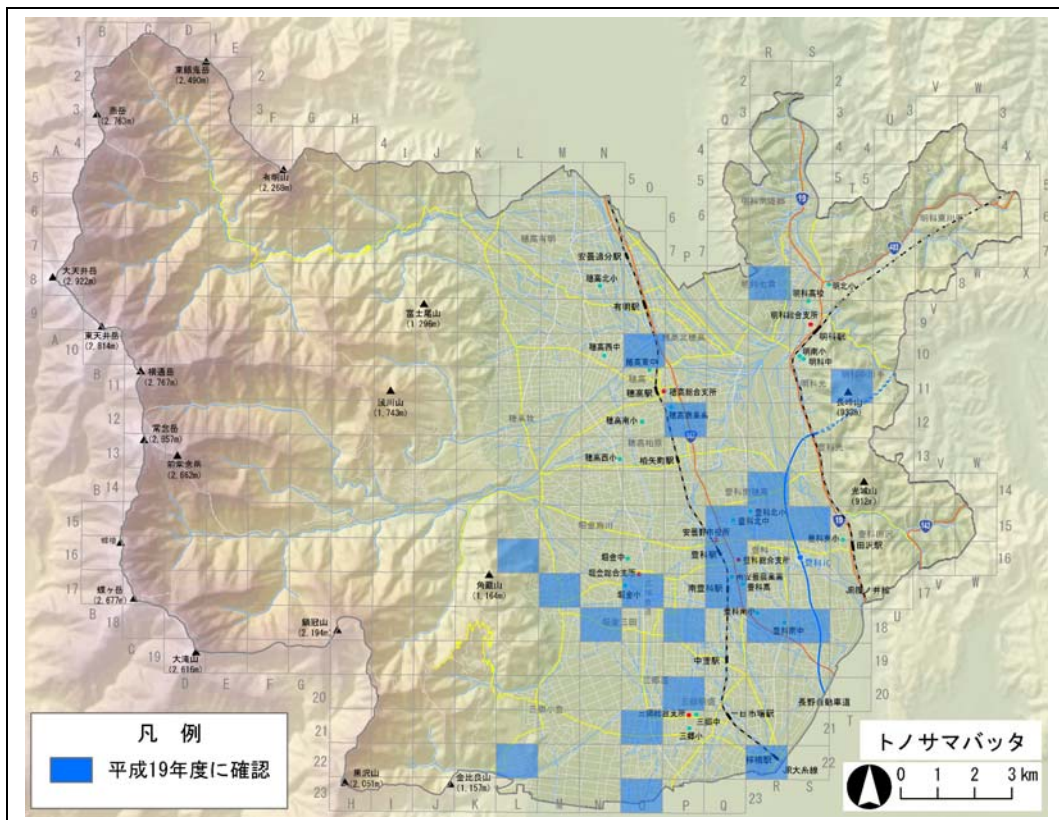
■平成 19 年度 調査結果



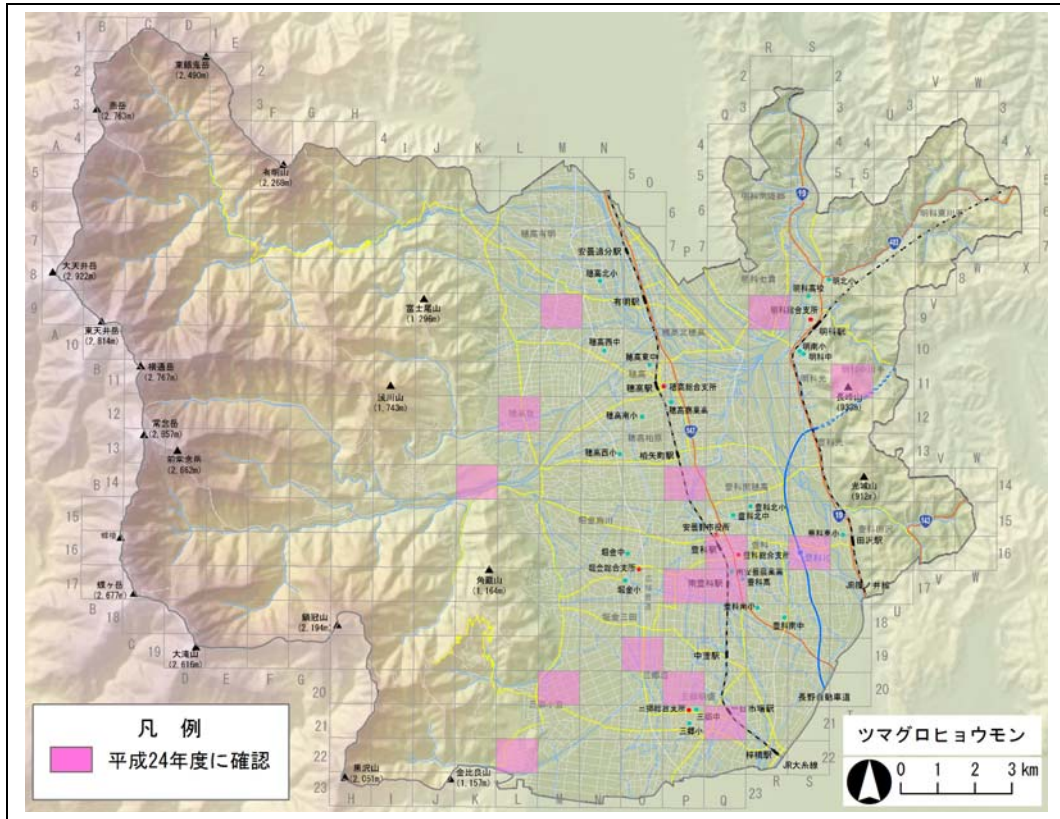
■平成 24 年度 調査結果



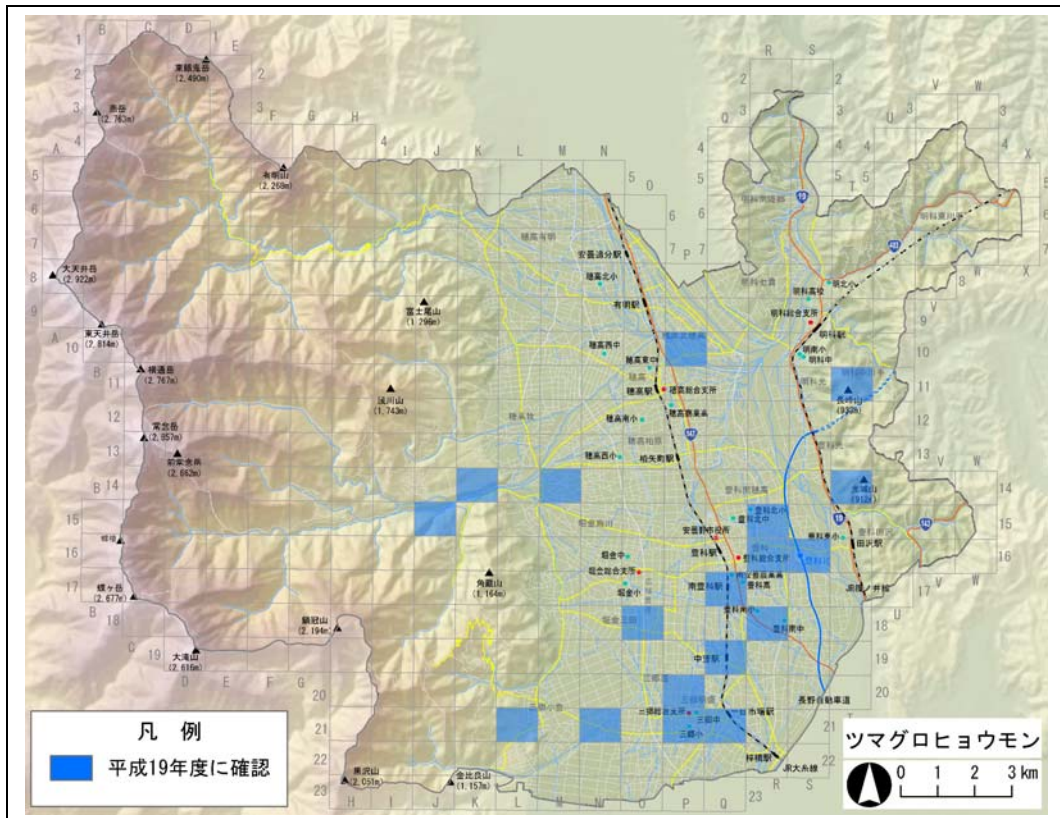
■平成 19 年度 調査結果



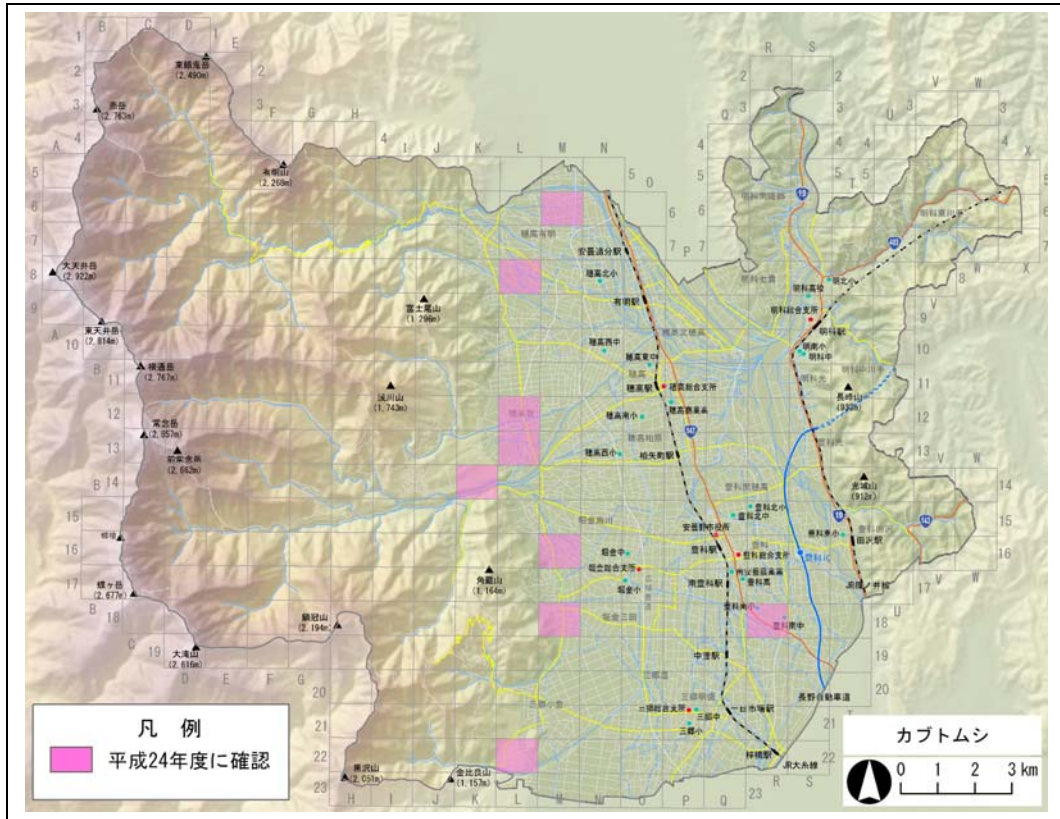
■平成 24 年度 調査結果



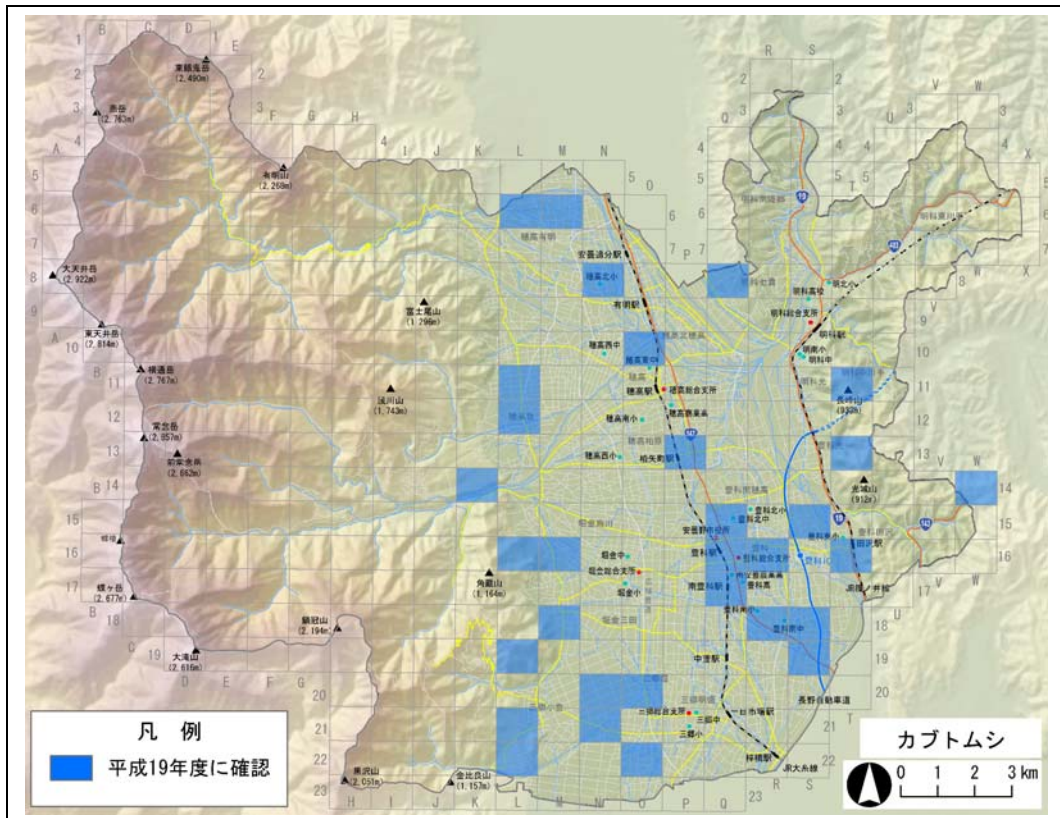
■平成 19 年度 調査結果



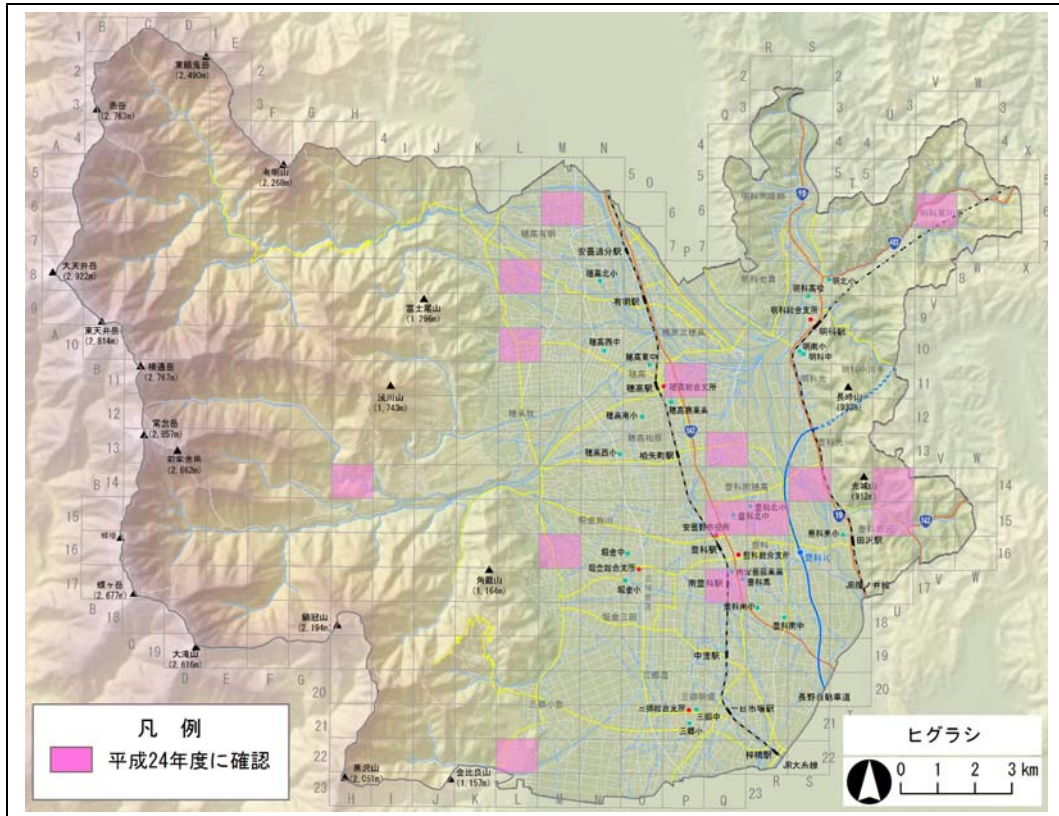
■平成 24 年度 調査結果



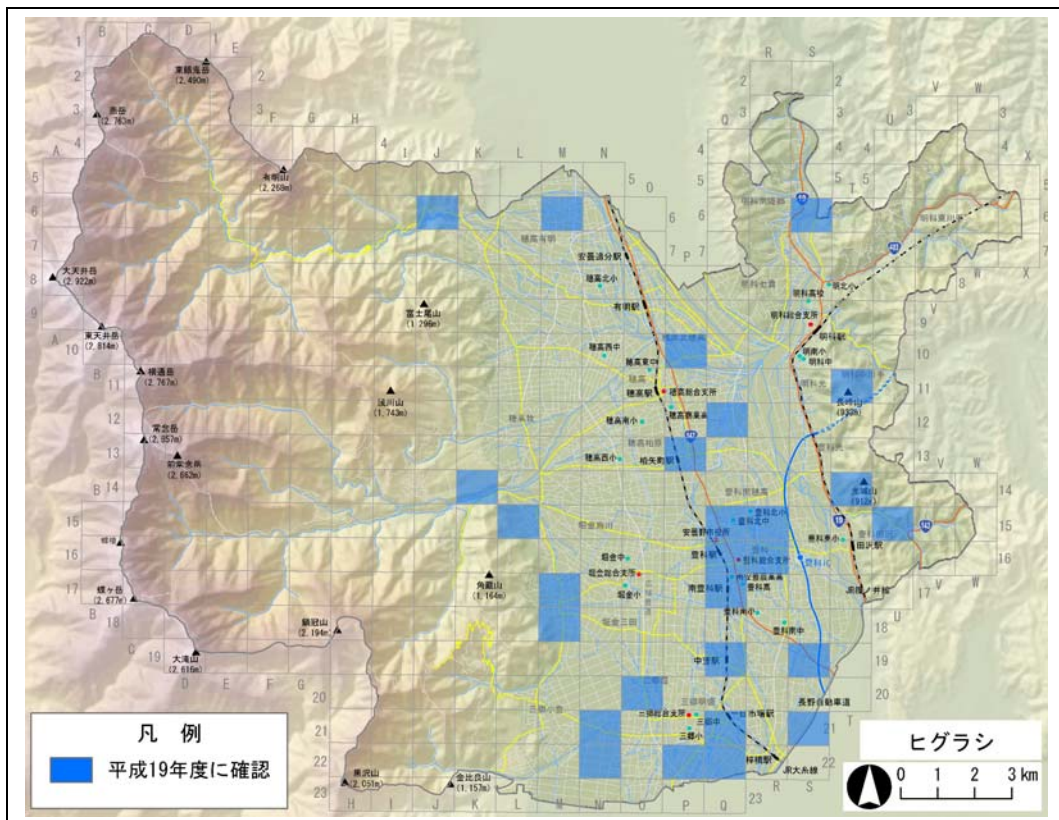
■平成 19 年度 調査結果



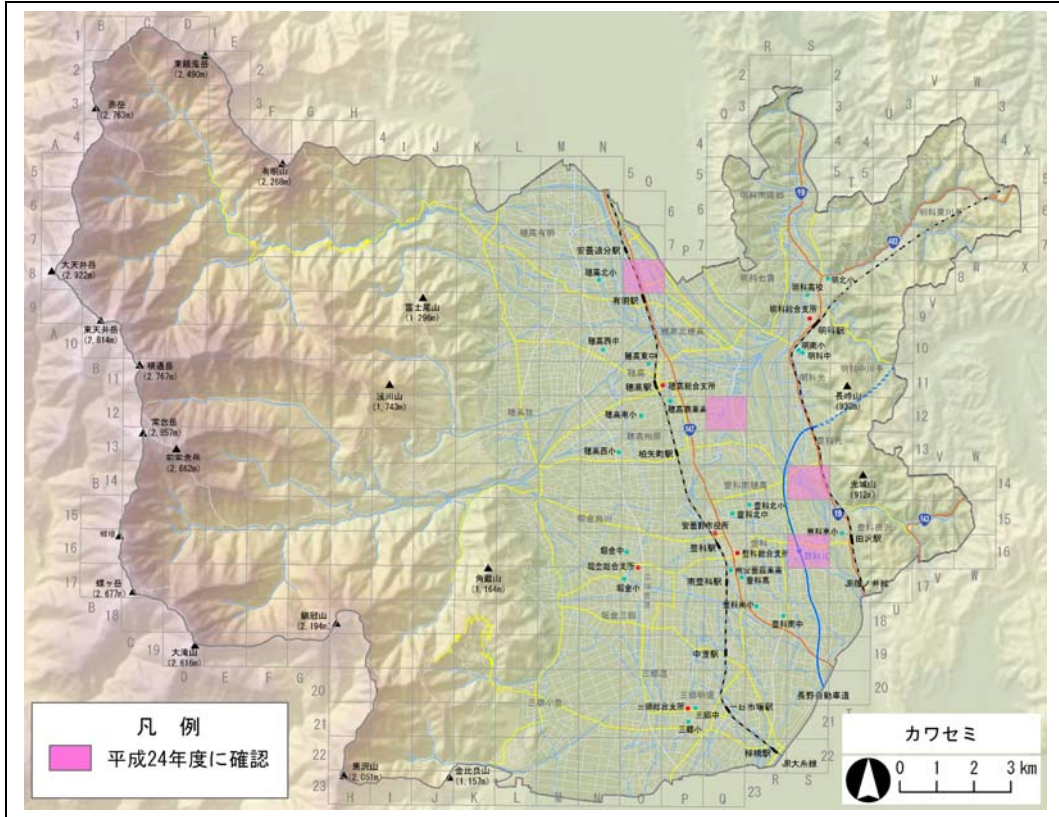
■平成 24 年度 調査結果



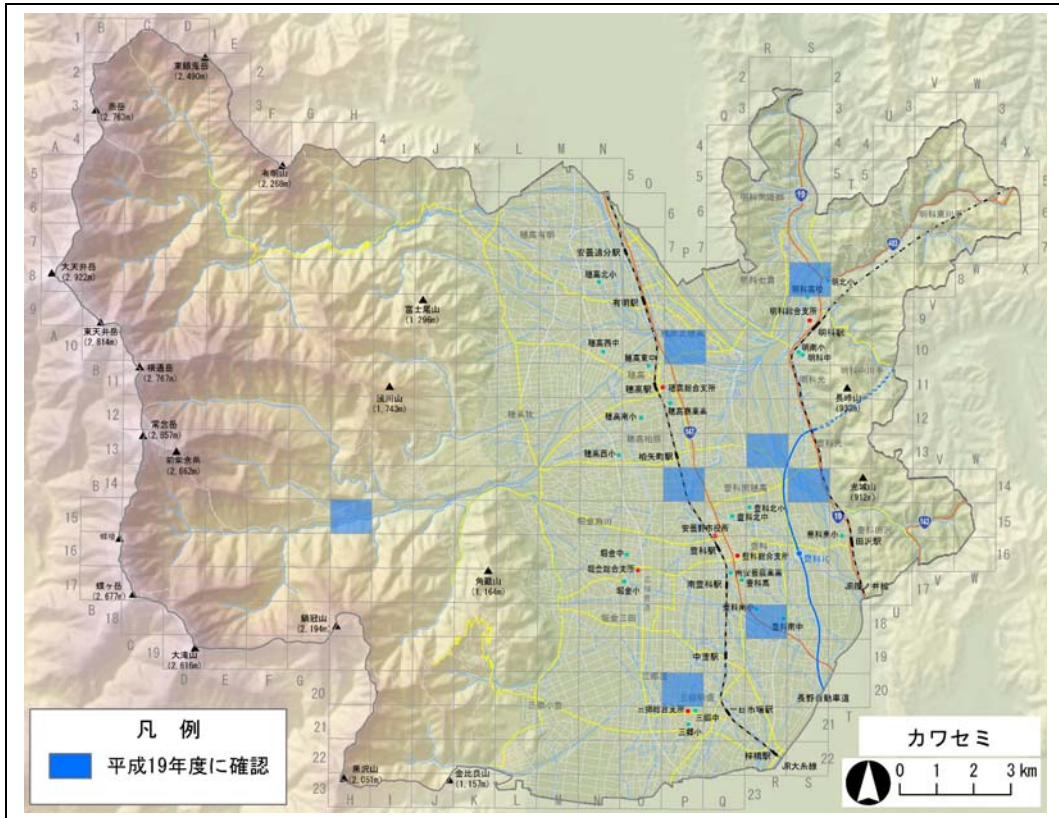
■平成 19 年度 調査結果



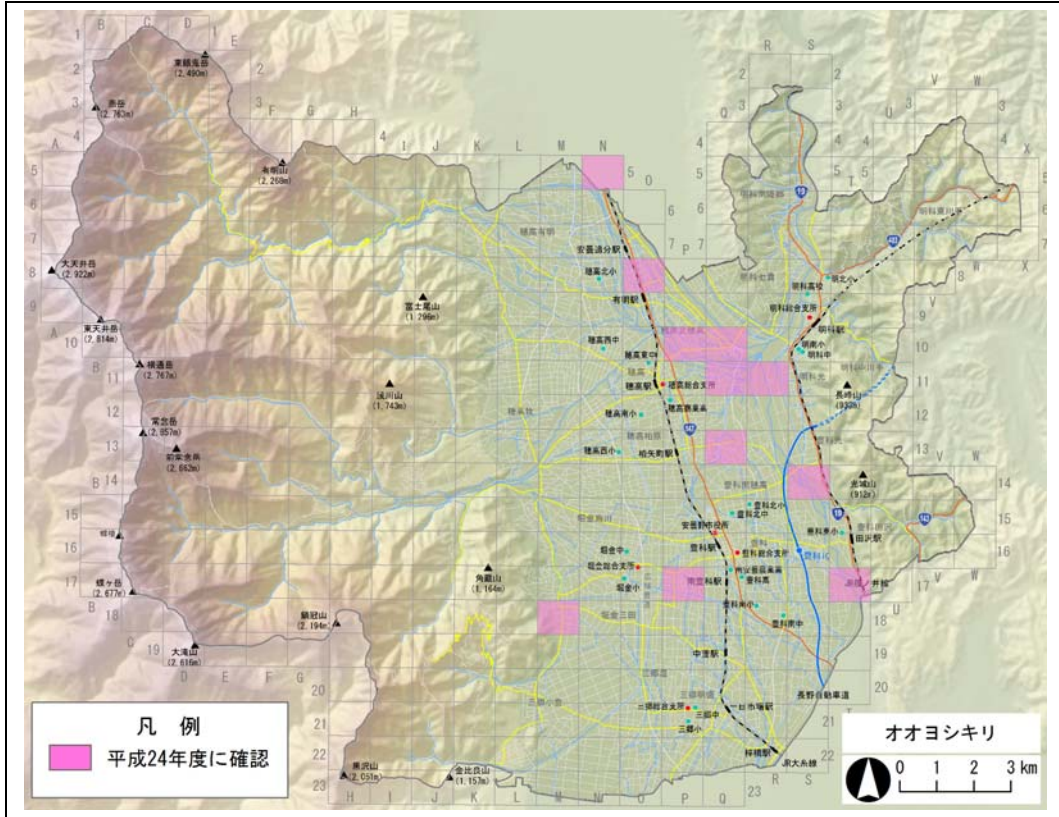
平成 24 年度 調査結果



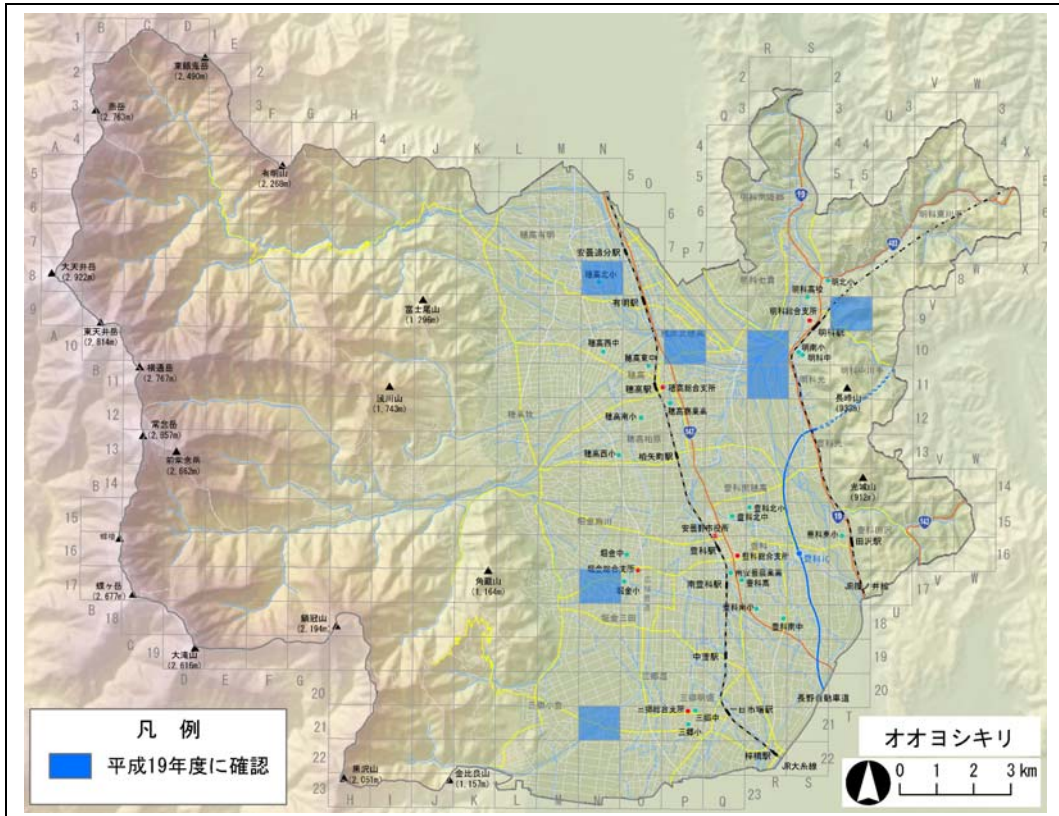
平成 19 年度 調査結果



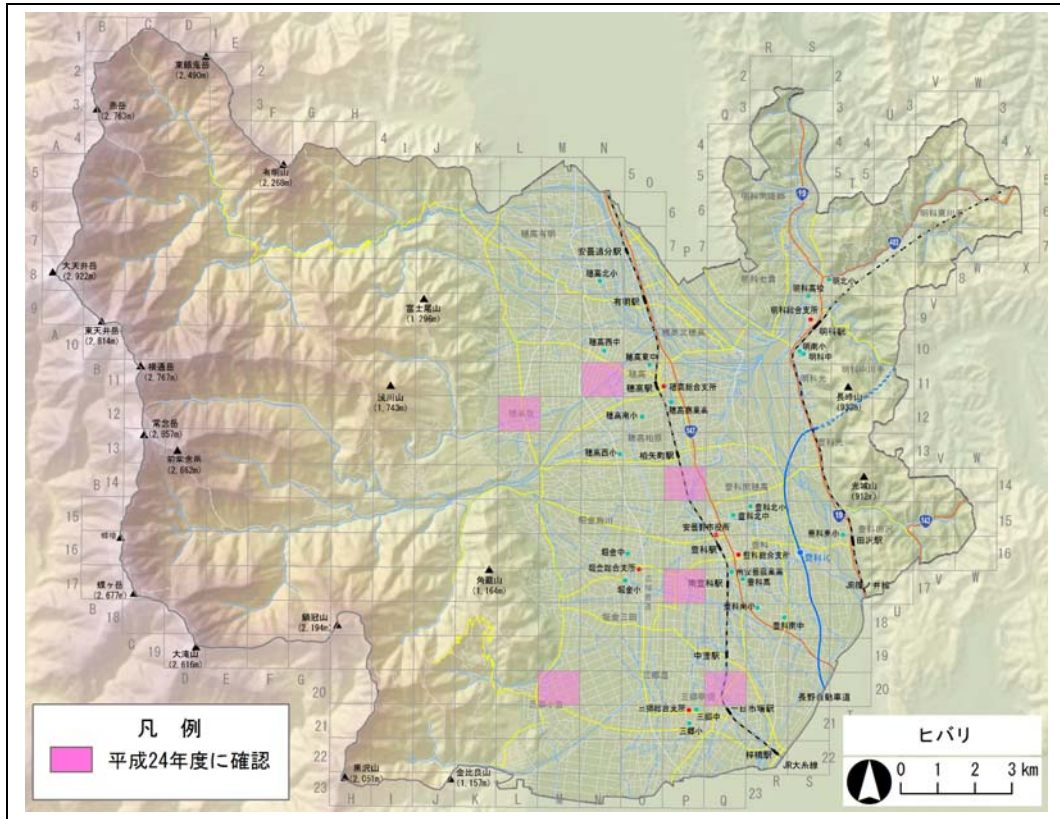
平成 24 年度 調査結果



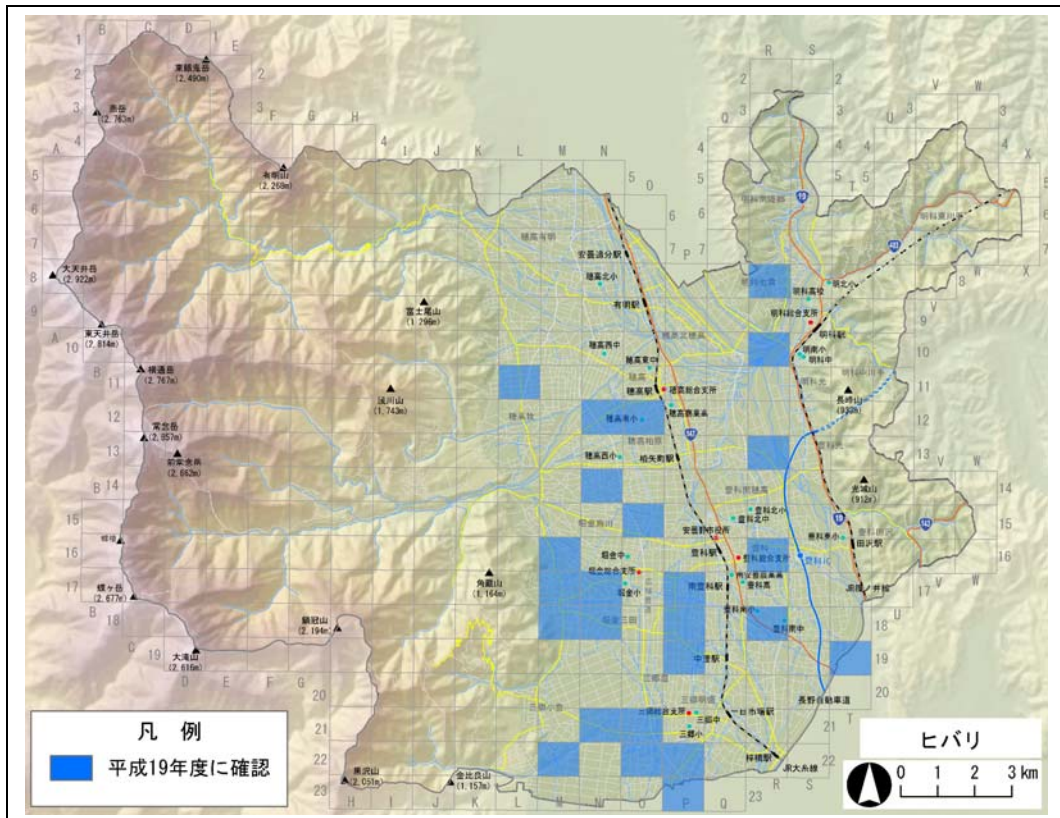
平成 19 年度 調査結果



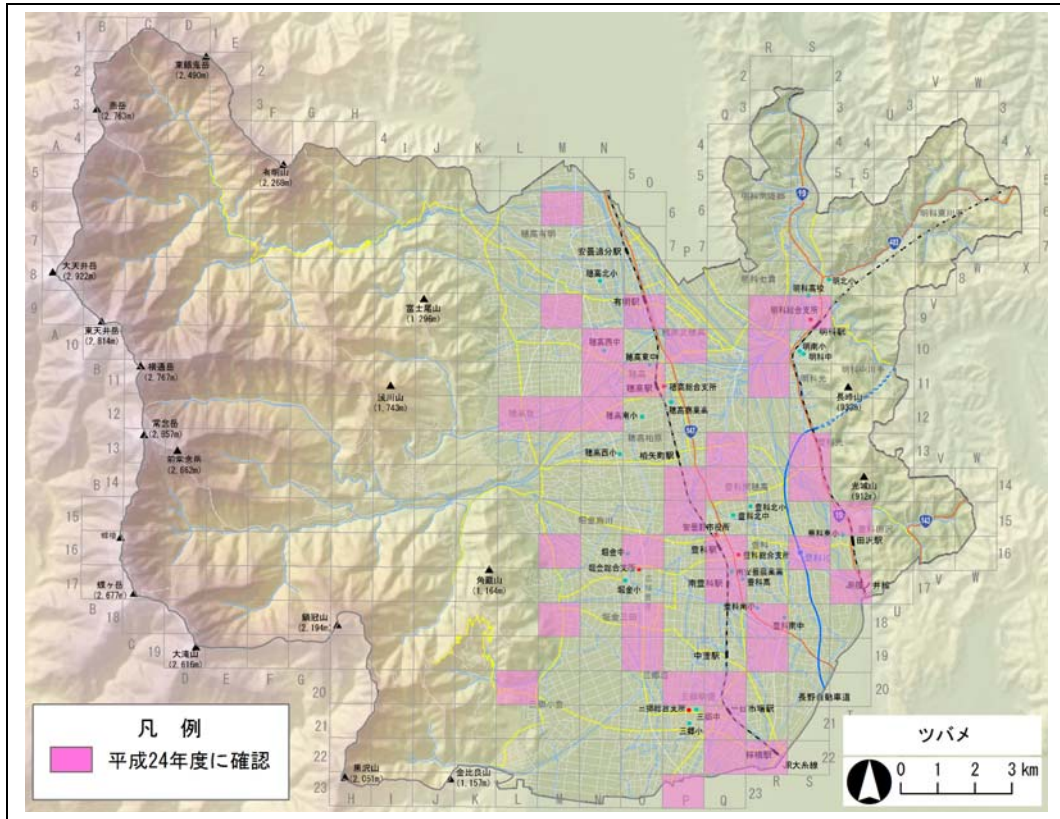
■平成 24 年度 調査結果



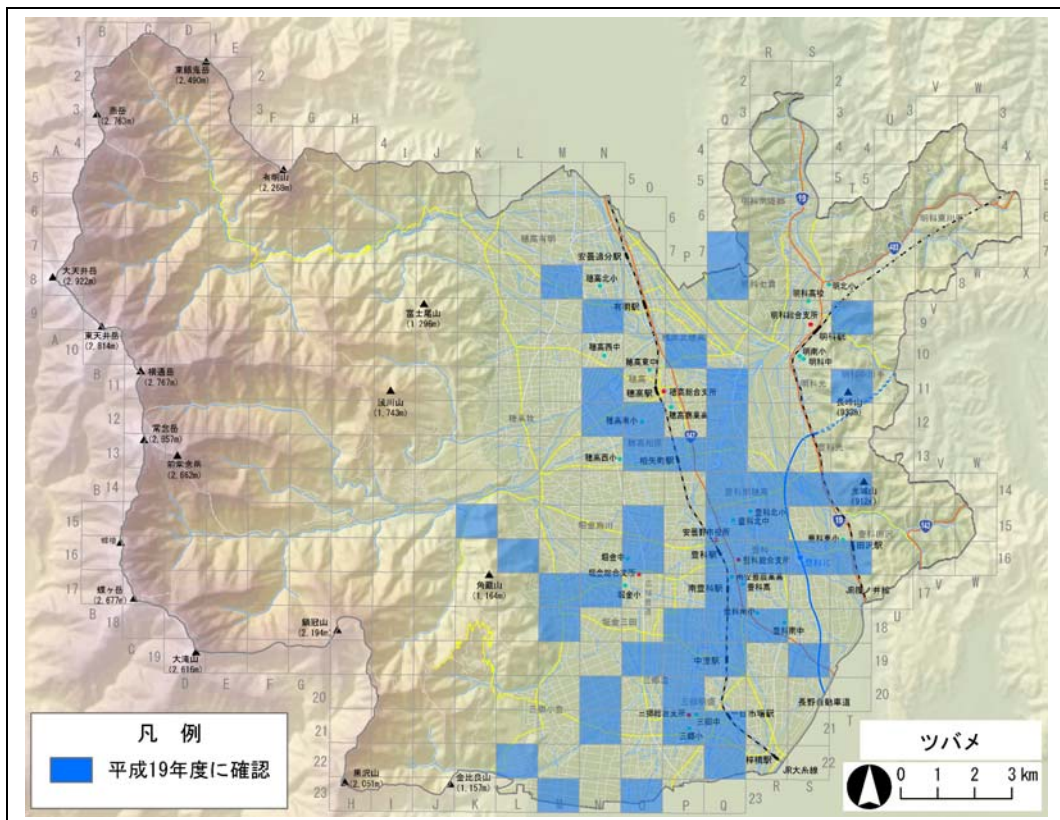
■平成 19 年度 調査結果



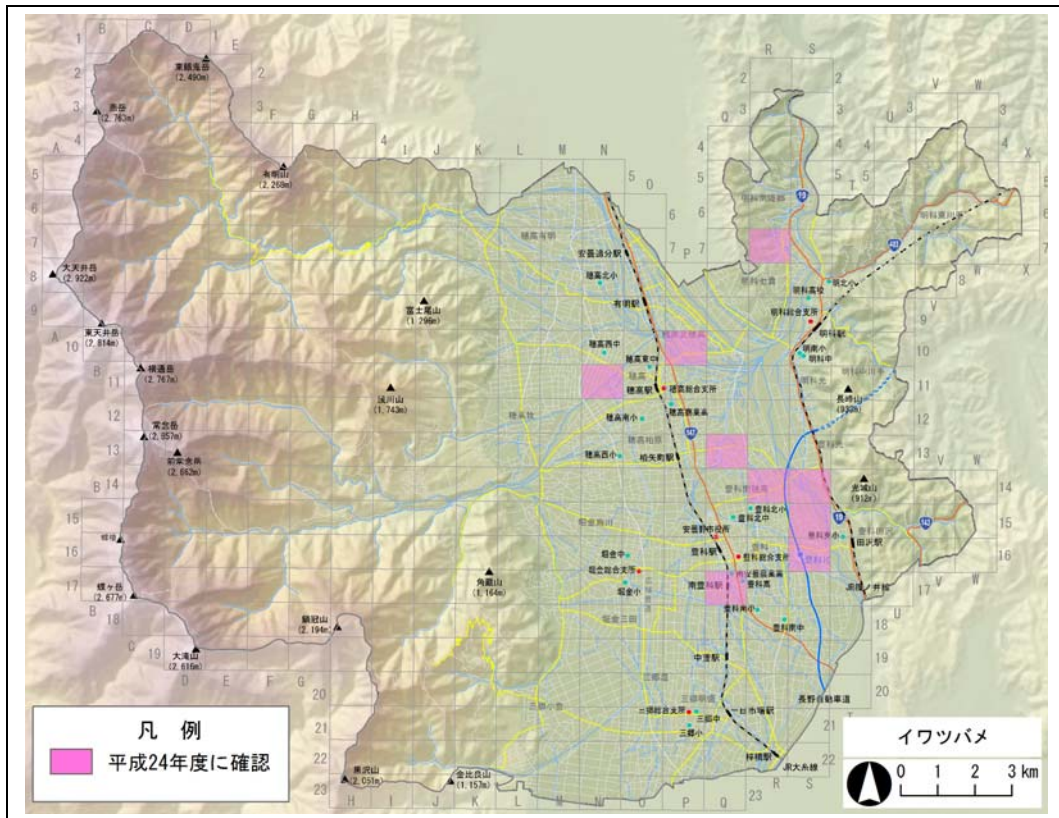
■平成 24 年度 調査結果



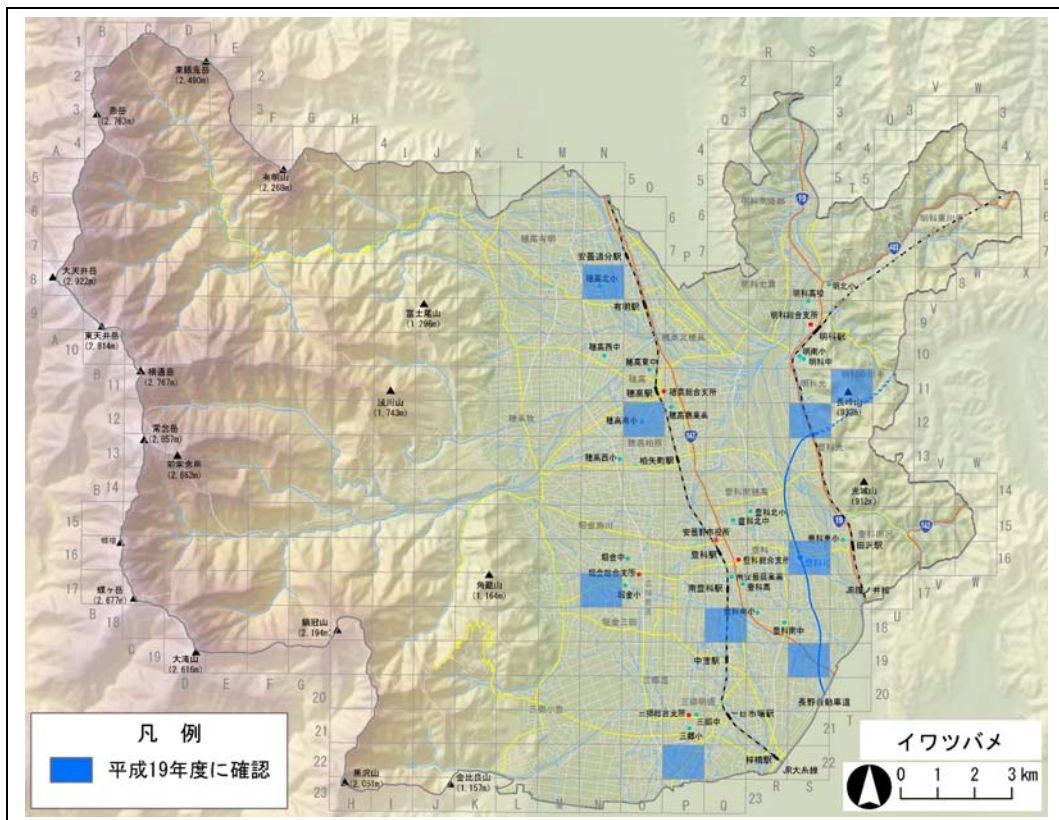
■平成 19 年度 調査結果



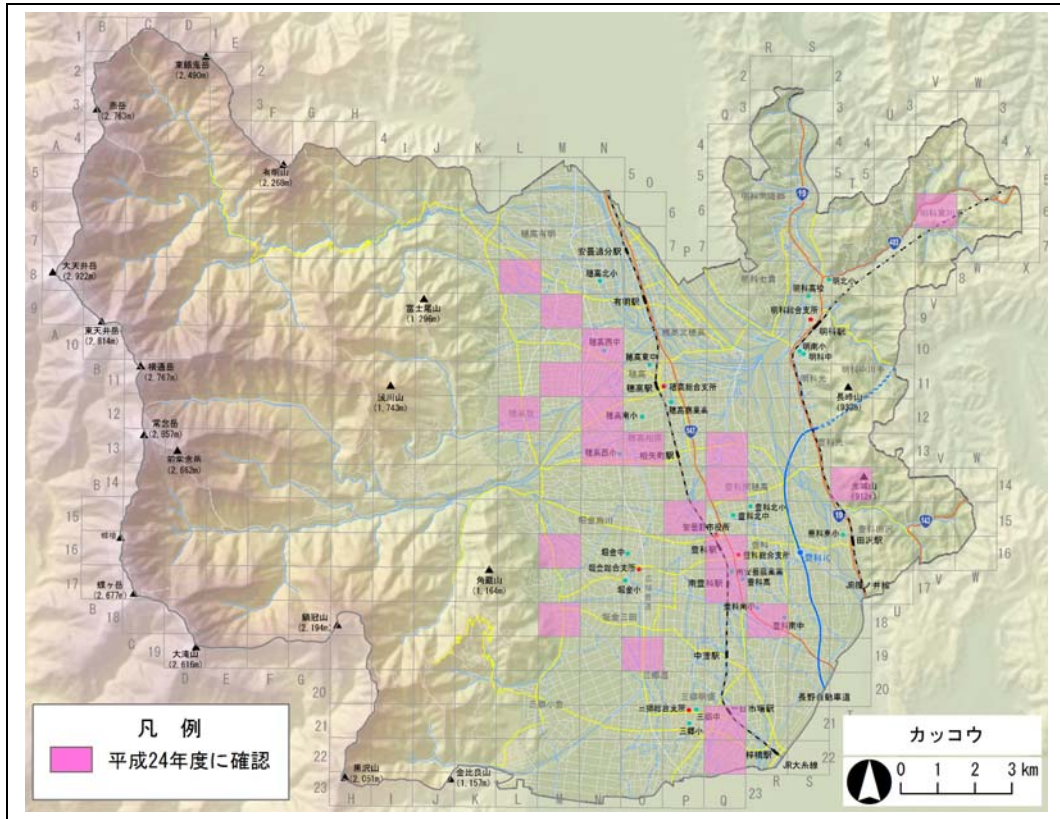
■平成 24 年度 調査結果



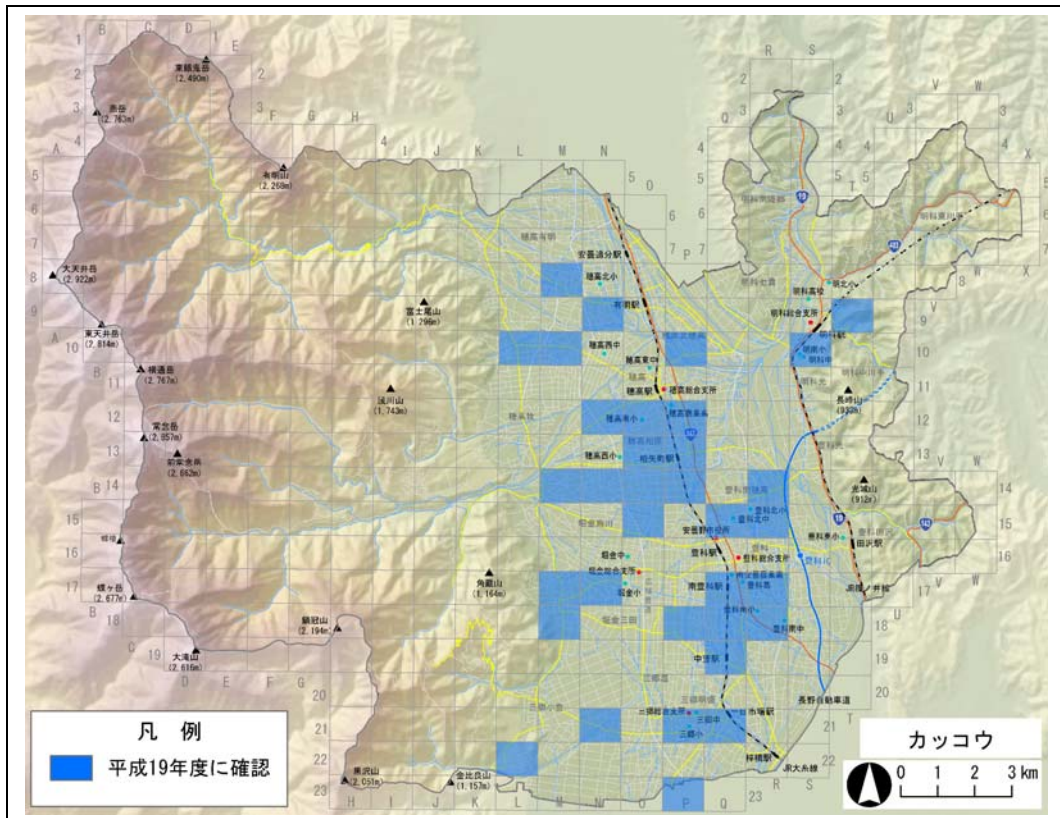
■平成 19 年度 調査結果



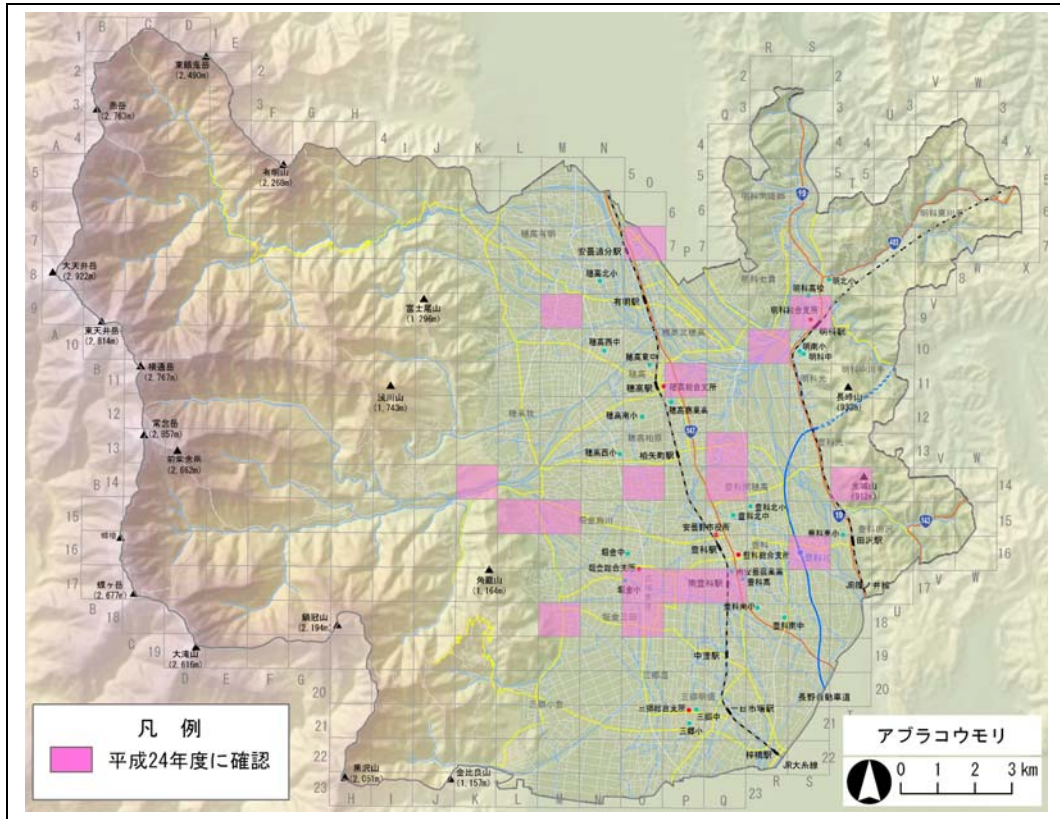
■平成 24 年度 調査結果



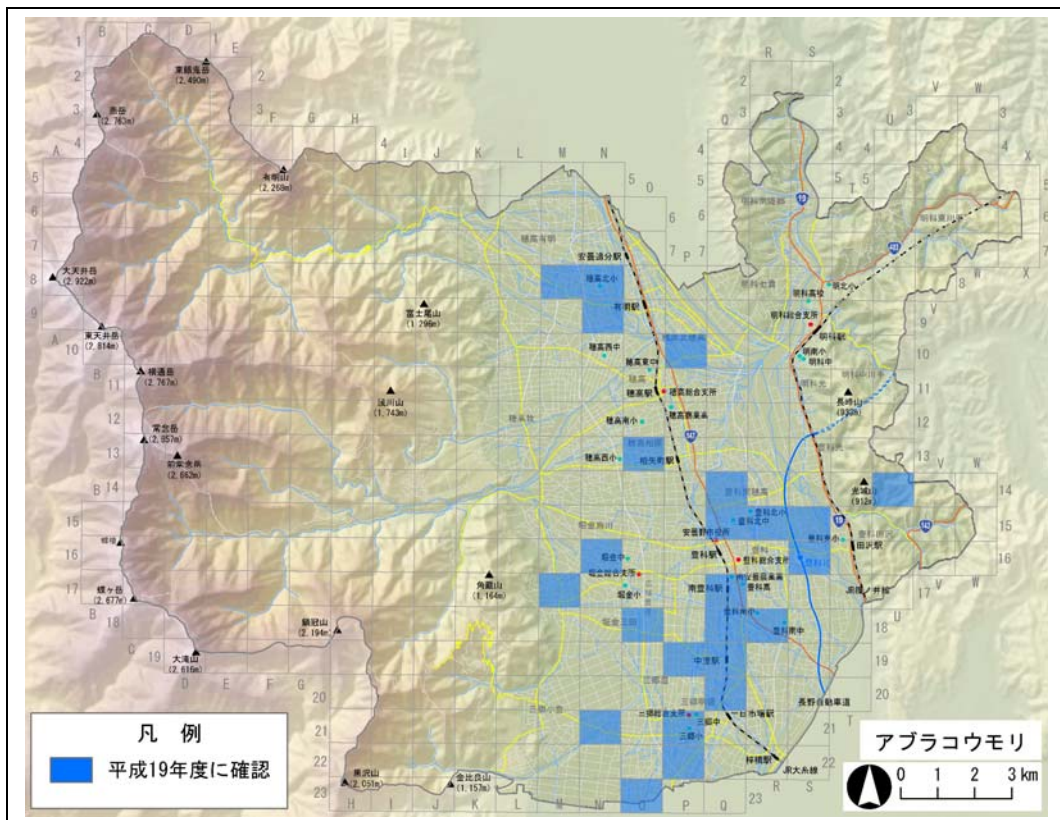
■平成 19 年度 調査結果



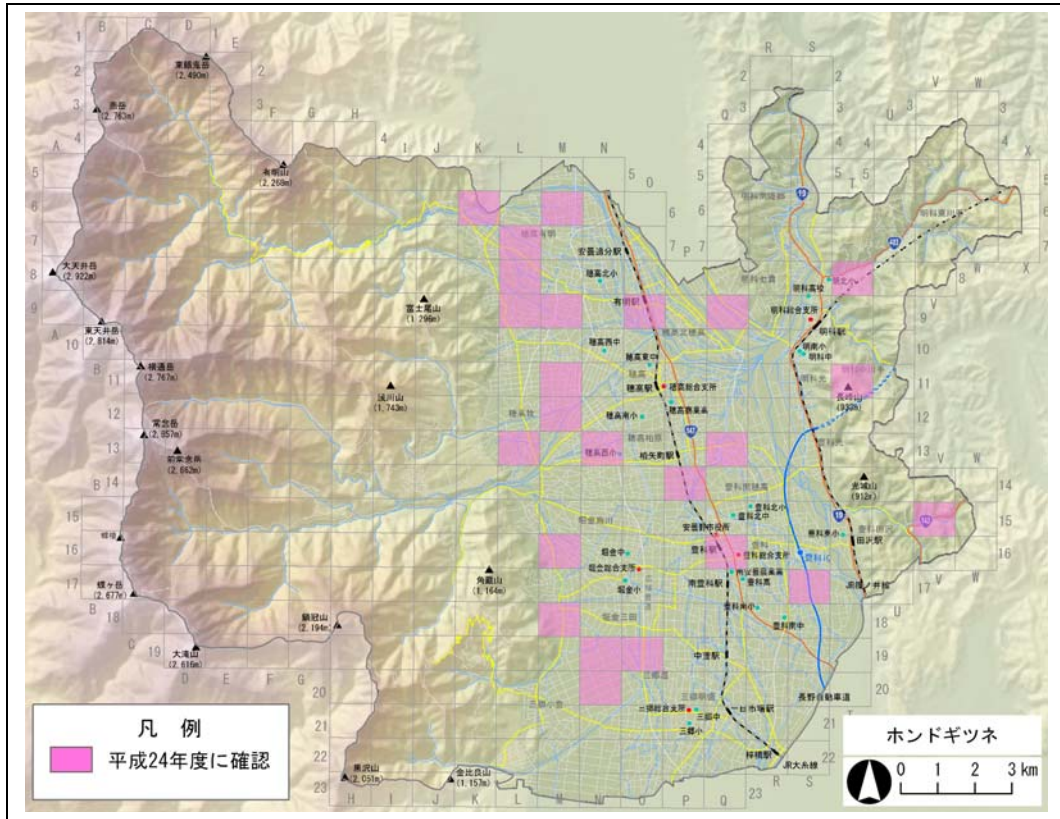
■平成 24 年度 調査結果



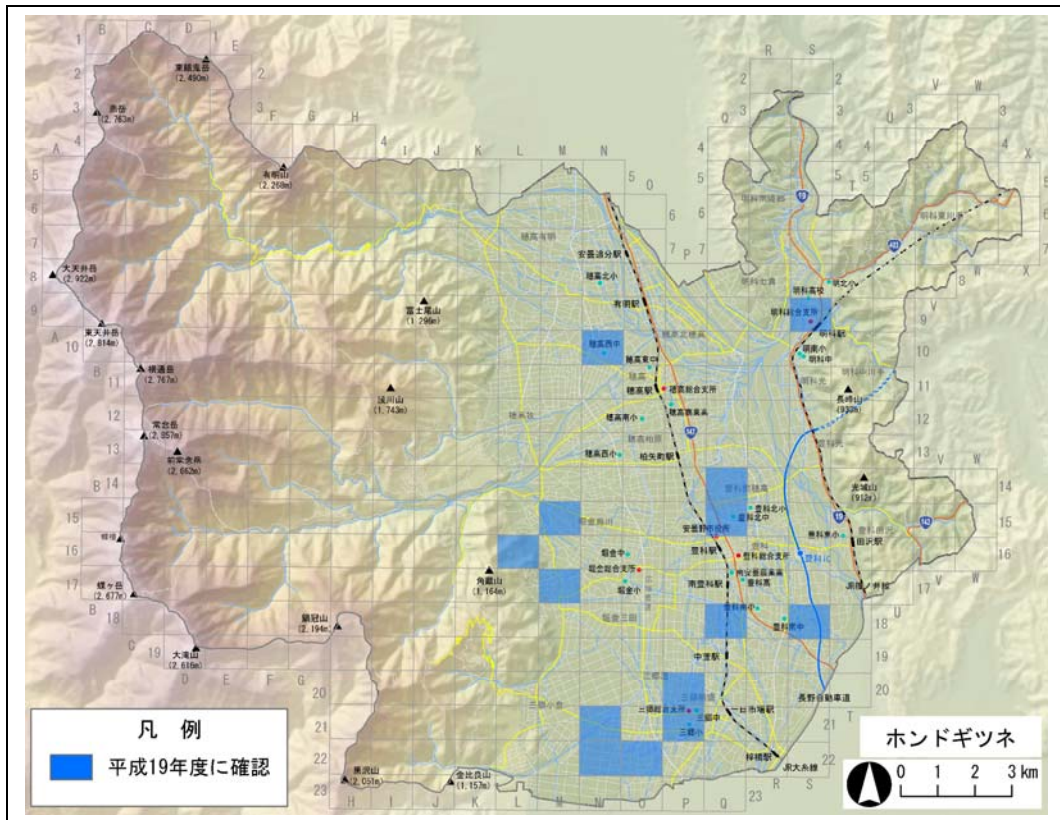
■平成 19 年度 調査結果



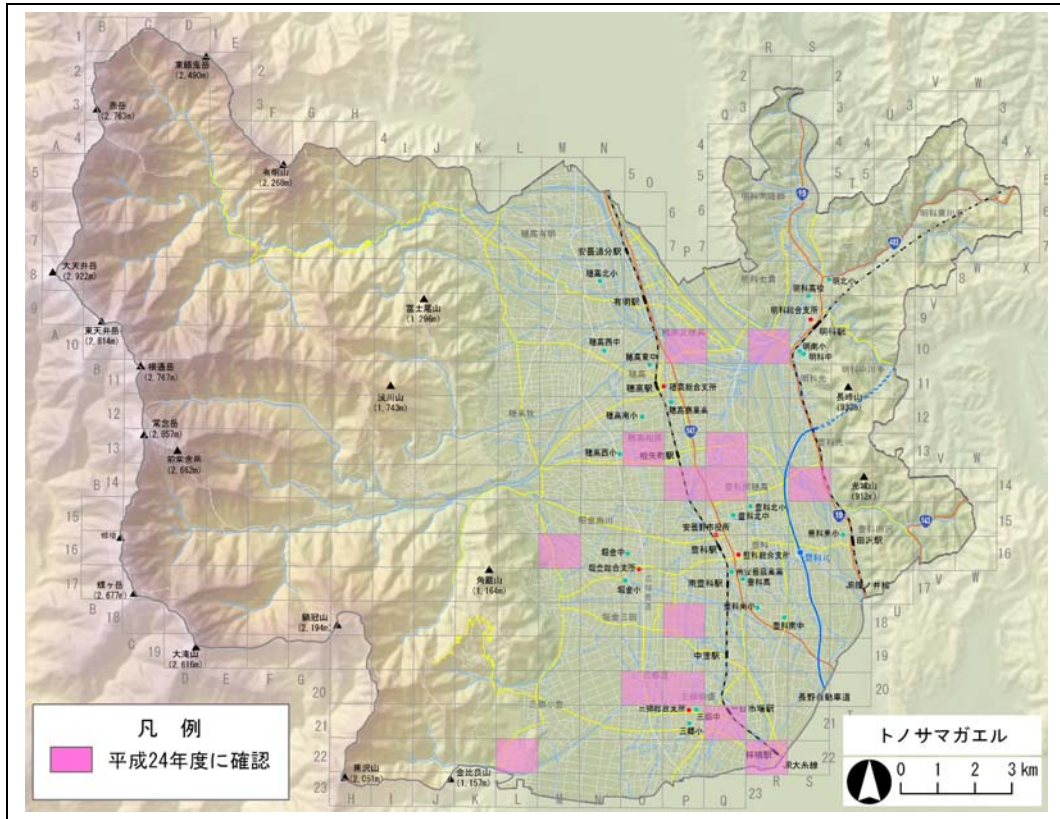
■平成 24 年度 調査結果



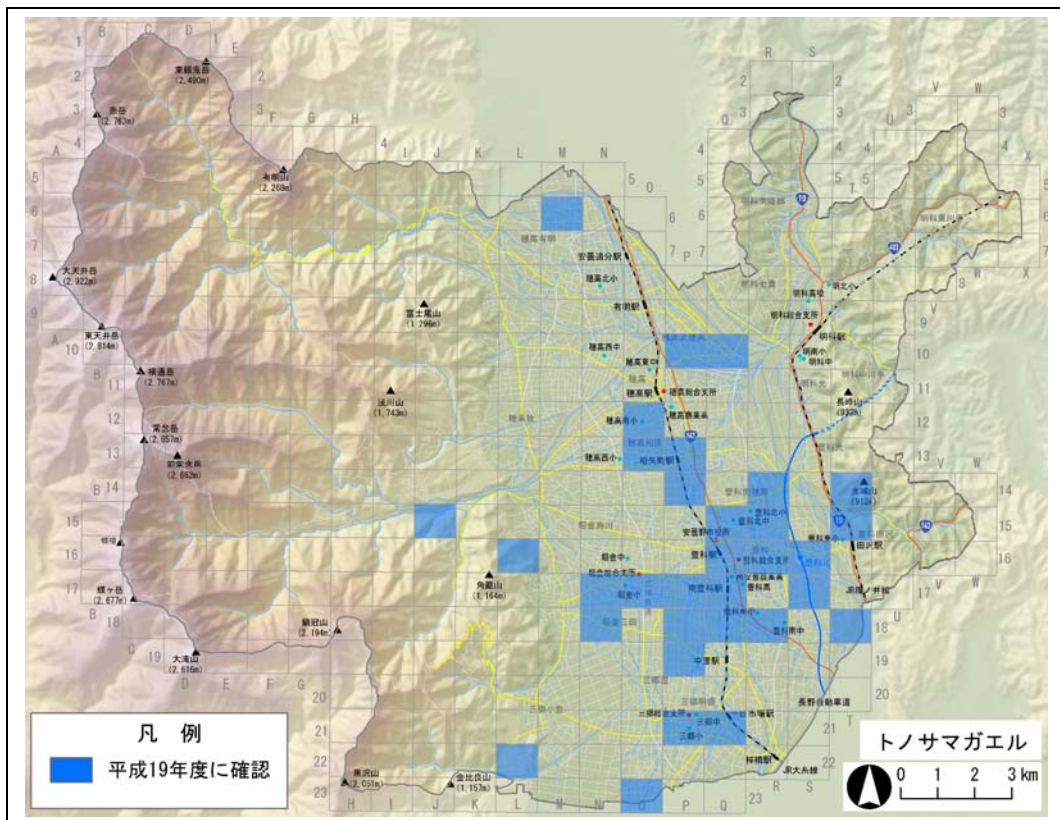
■平成 19 年度 調査結果



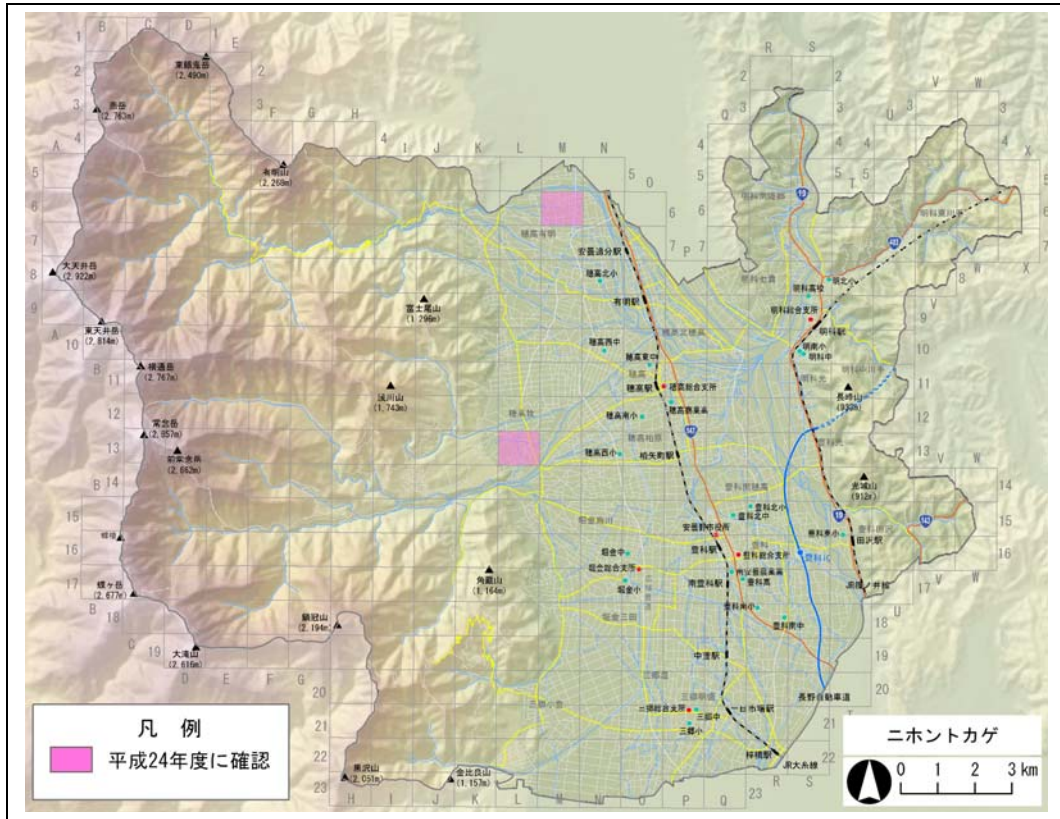
■平成 24 年度 調査結果



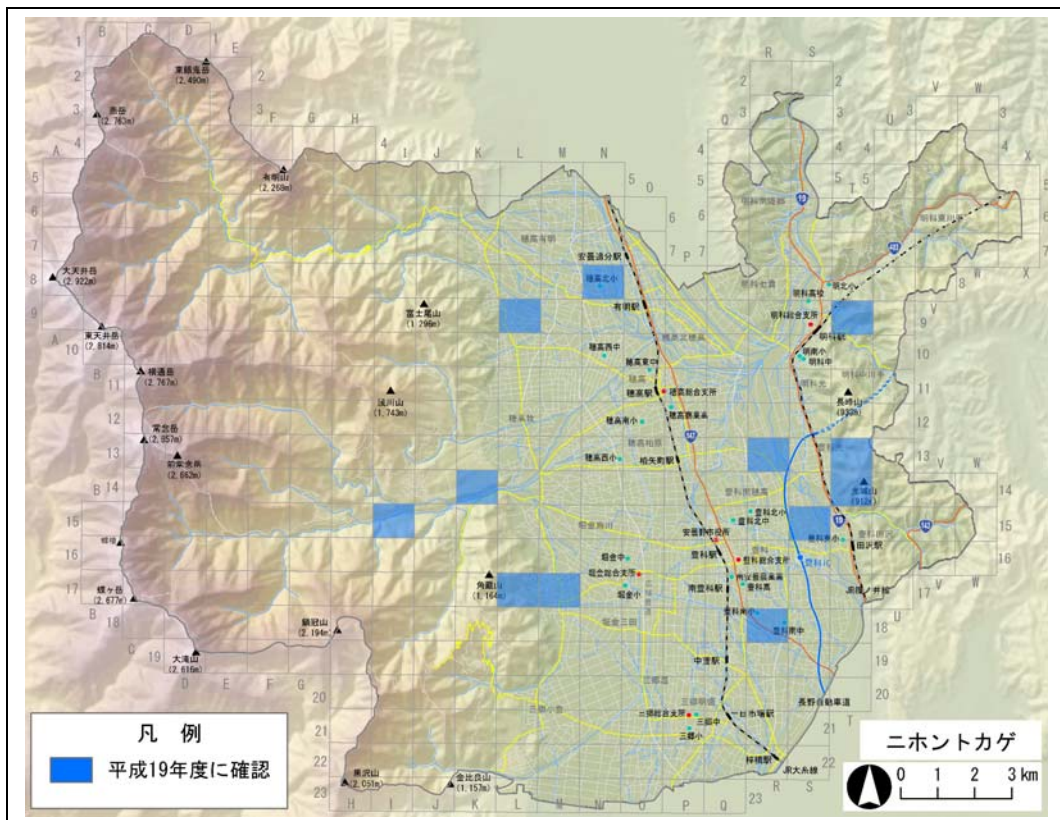
■平成 19 年度 調査結果



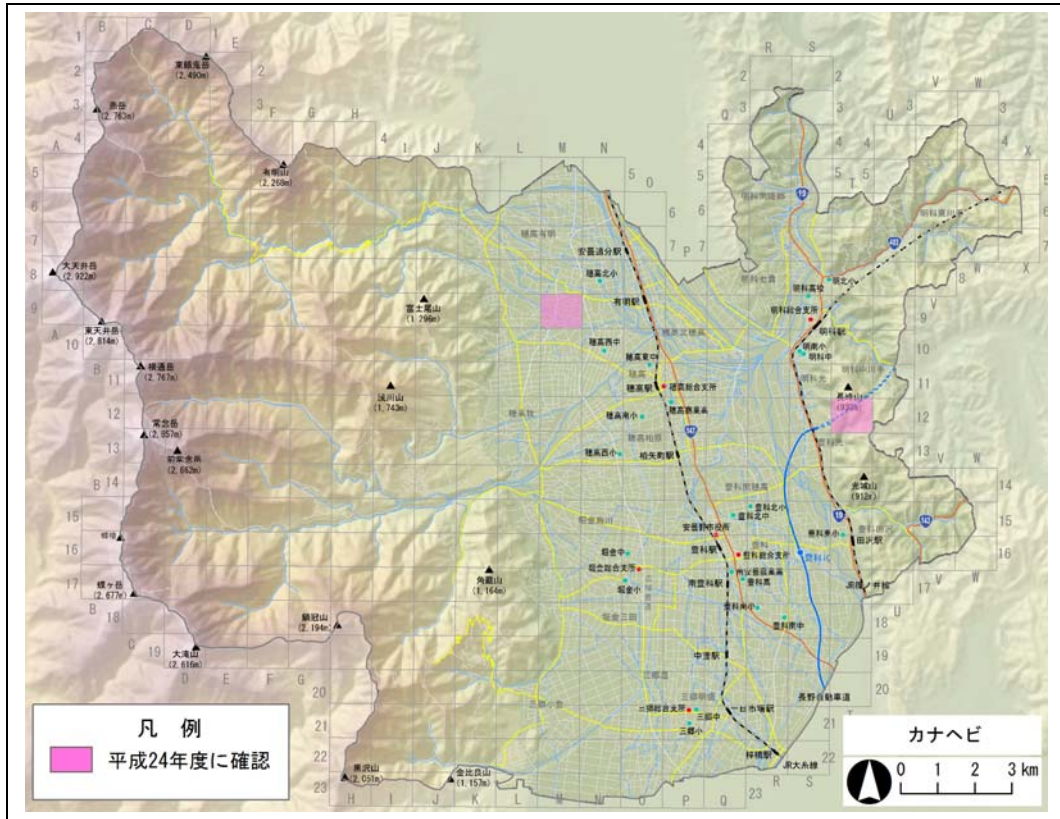
■平成 24 年度 調査結果



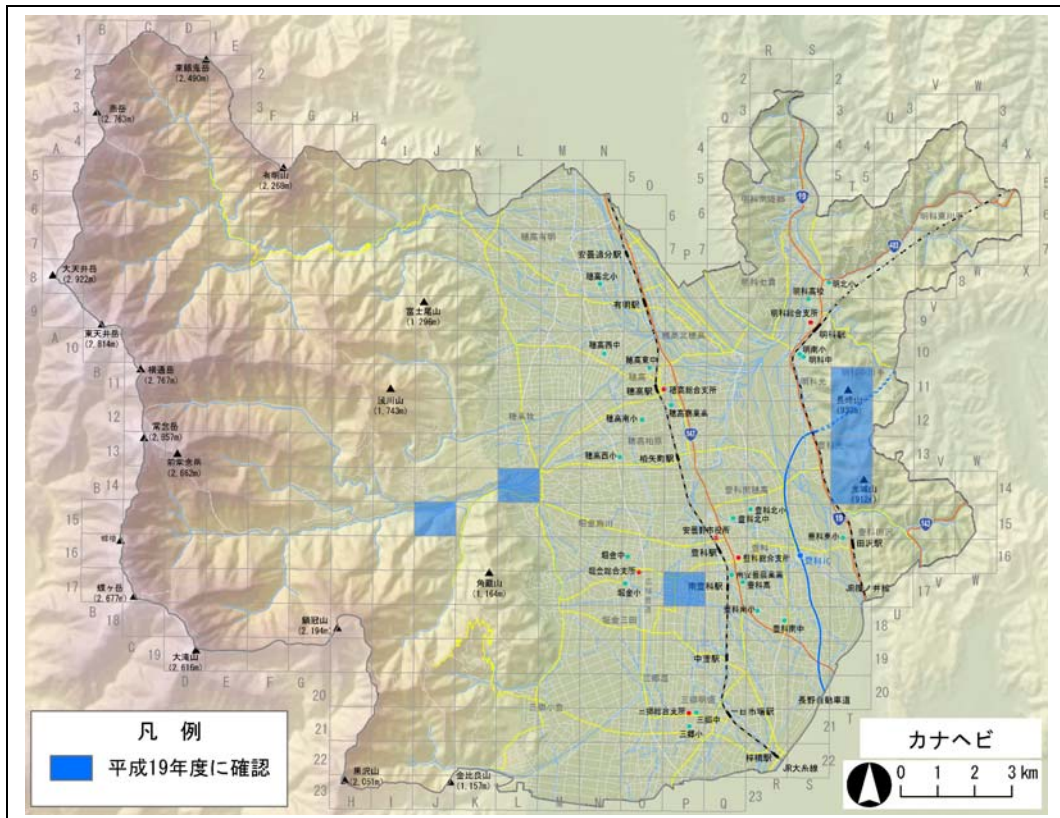
■平成 19 年度 調査結果



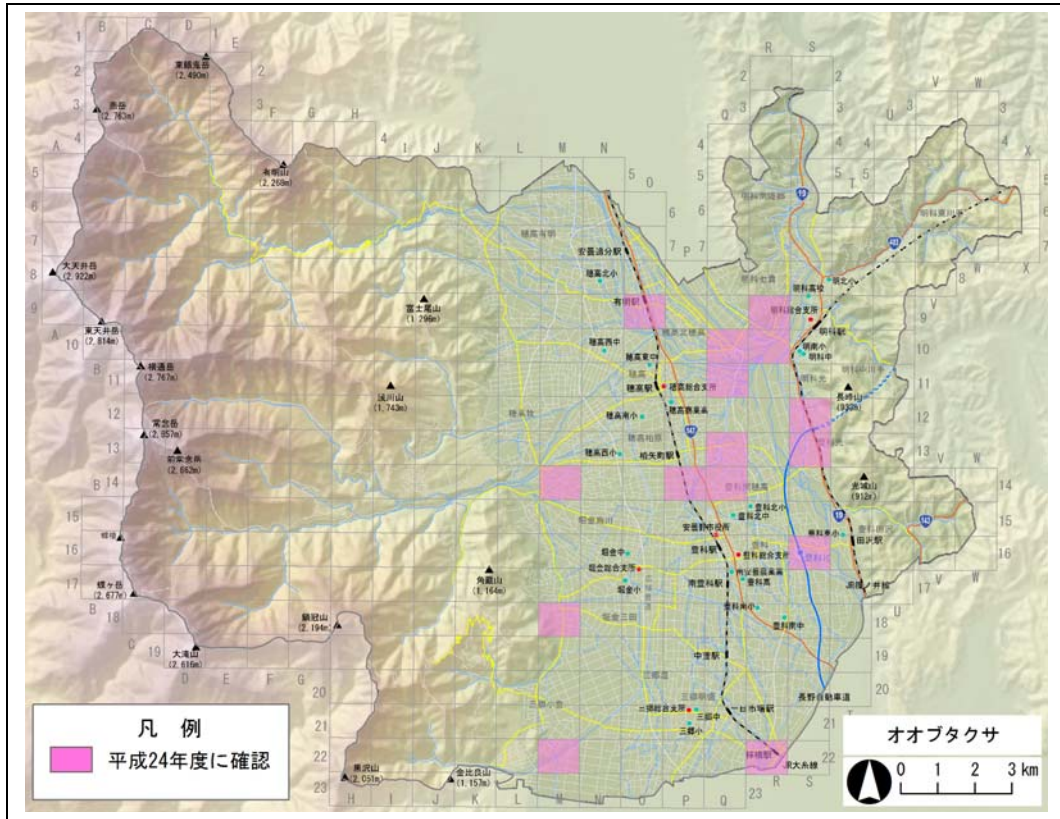
■平成 24 年度 調査結果



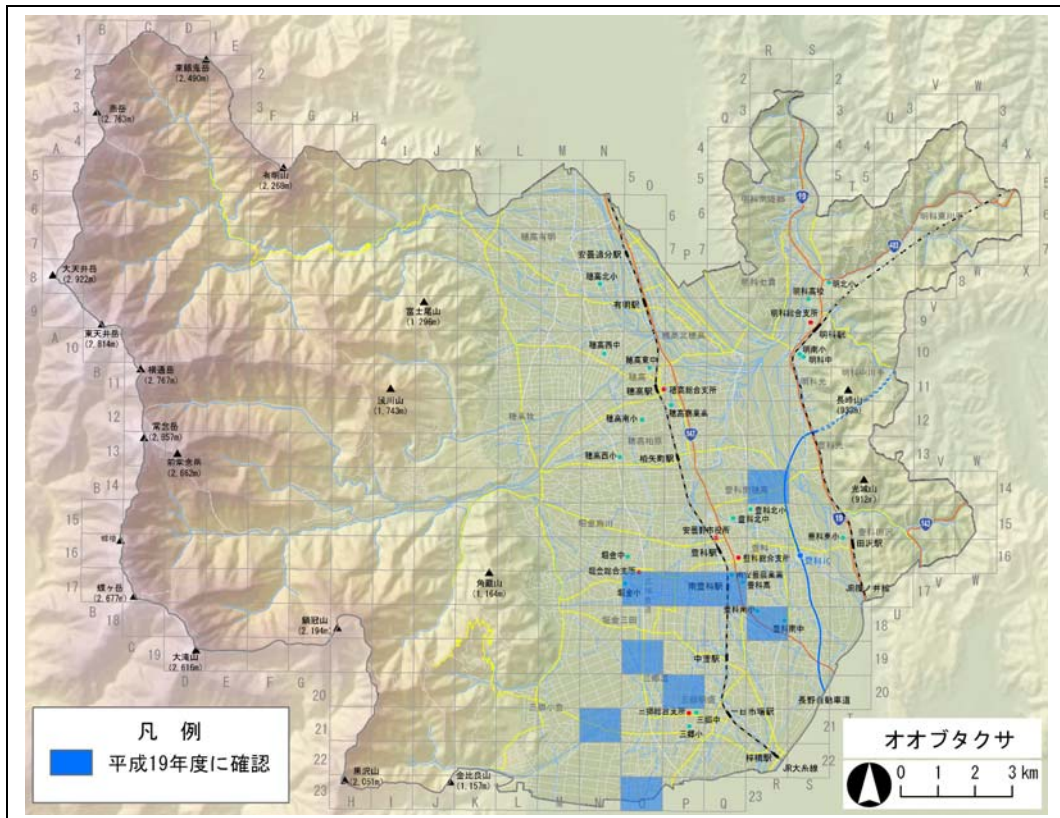
■平成 19 年度 調査結果



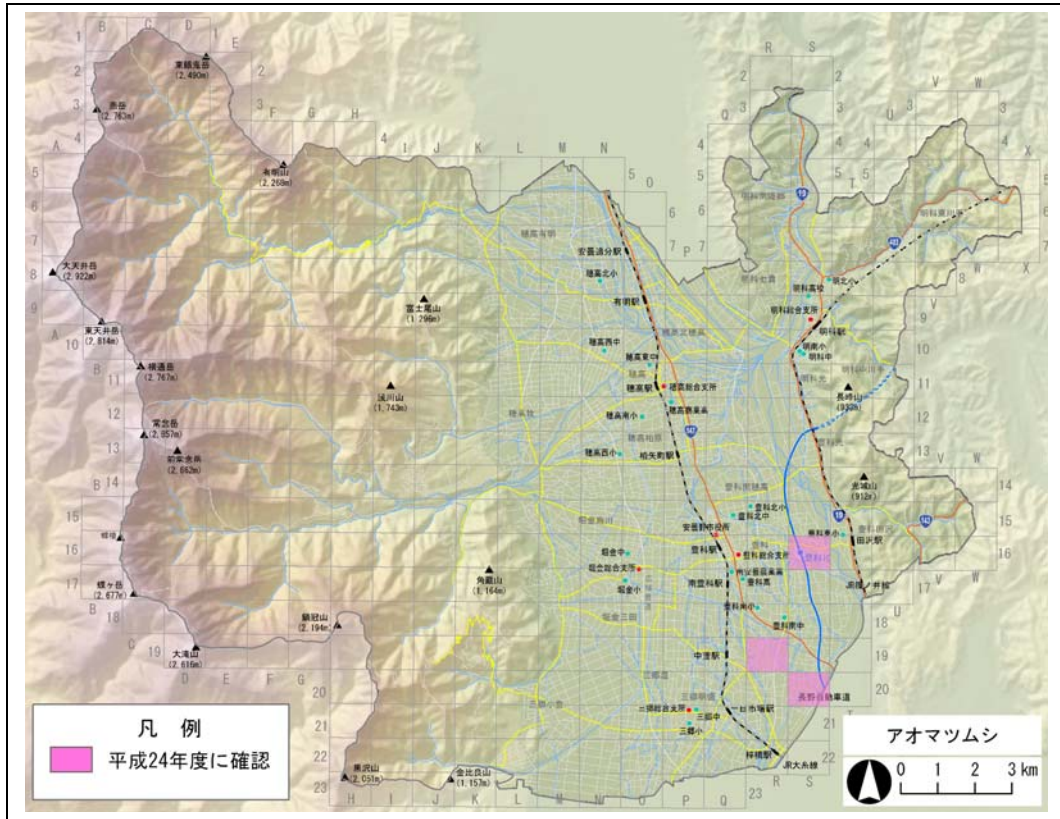
■平成 24 年度 調査結果



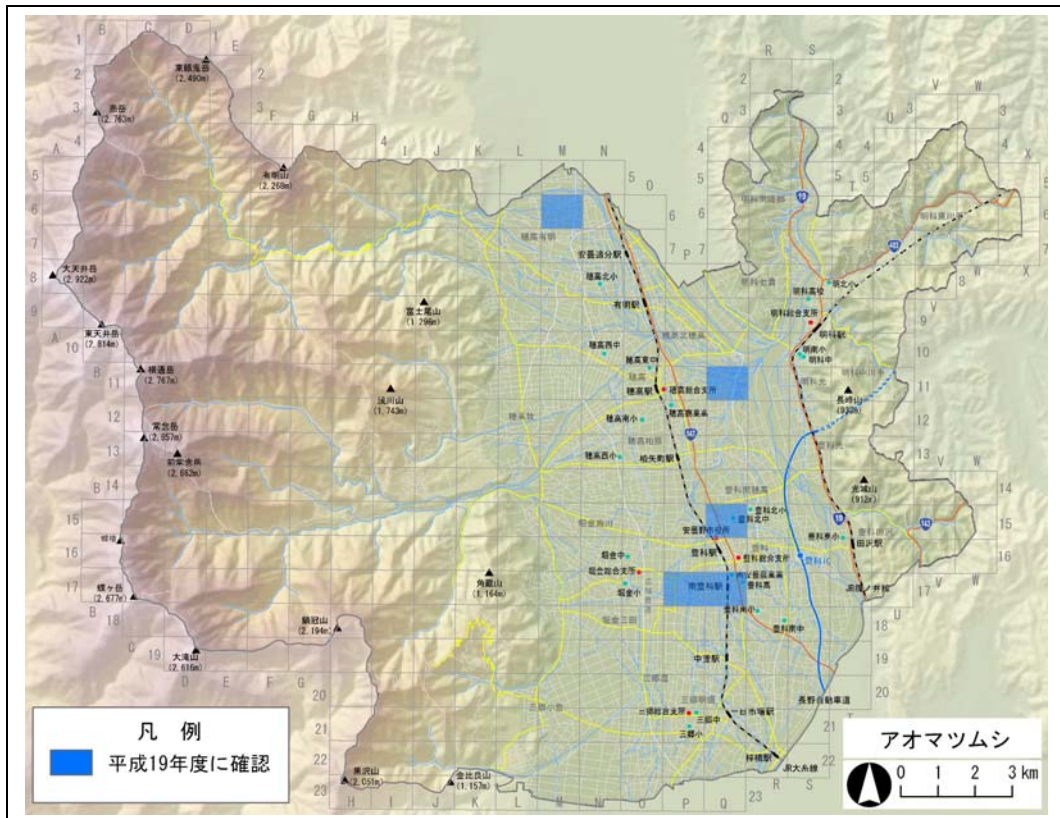
■平成 19 年度 調査結果



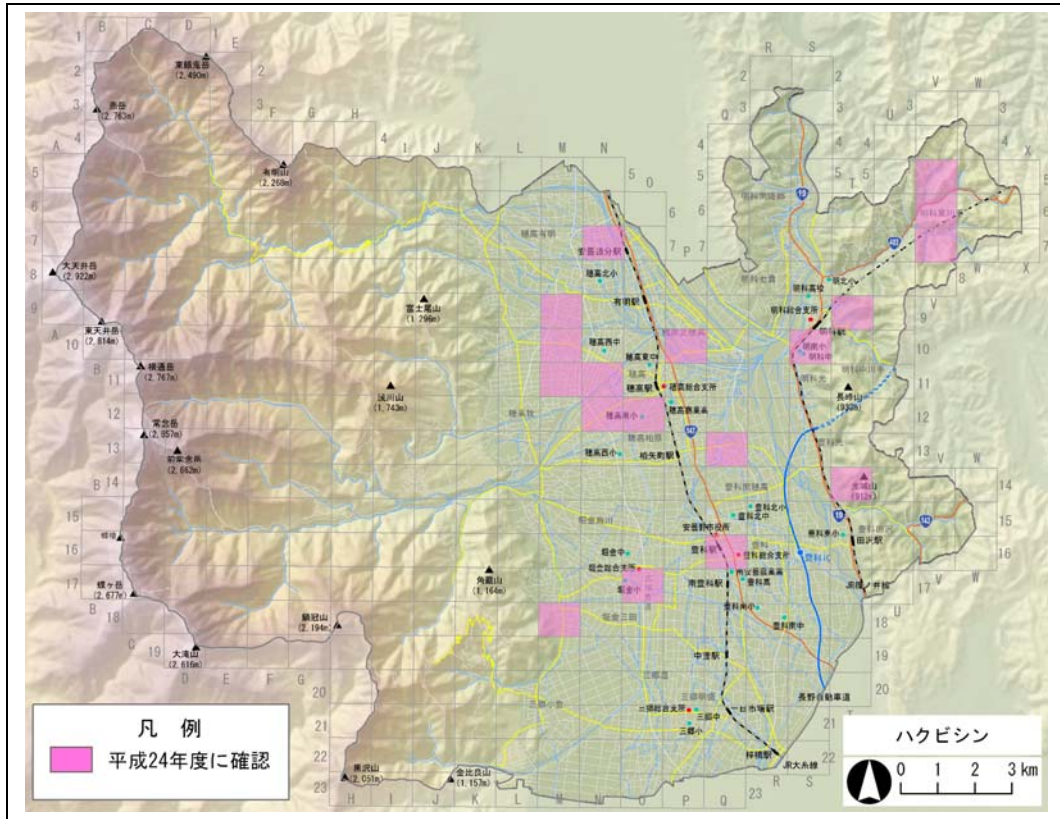
■平成 24 年度 調査結果



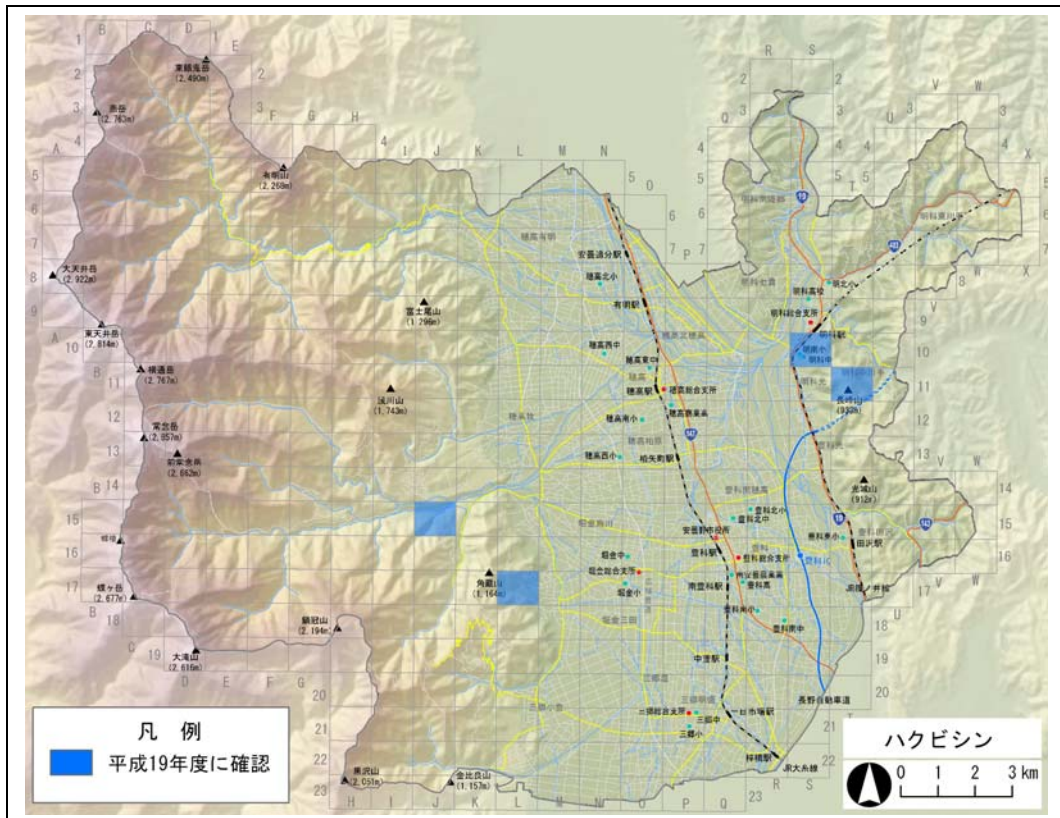
■平成 19 年度 調査結果



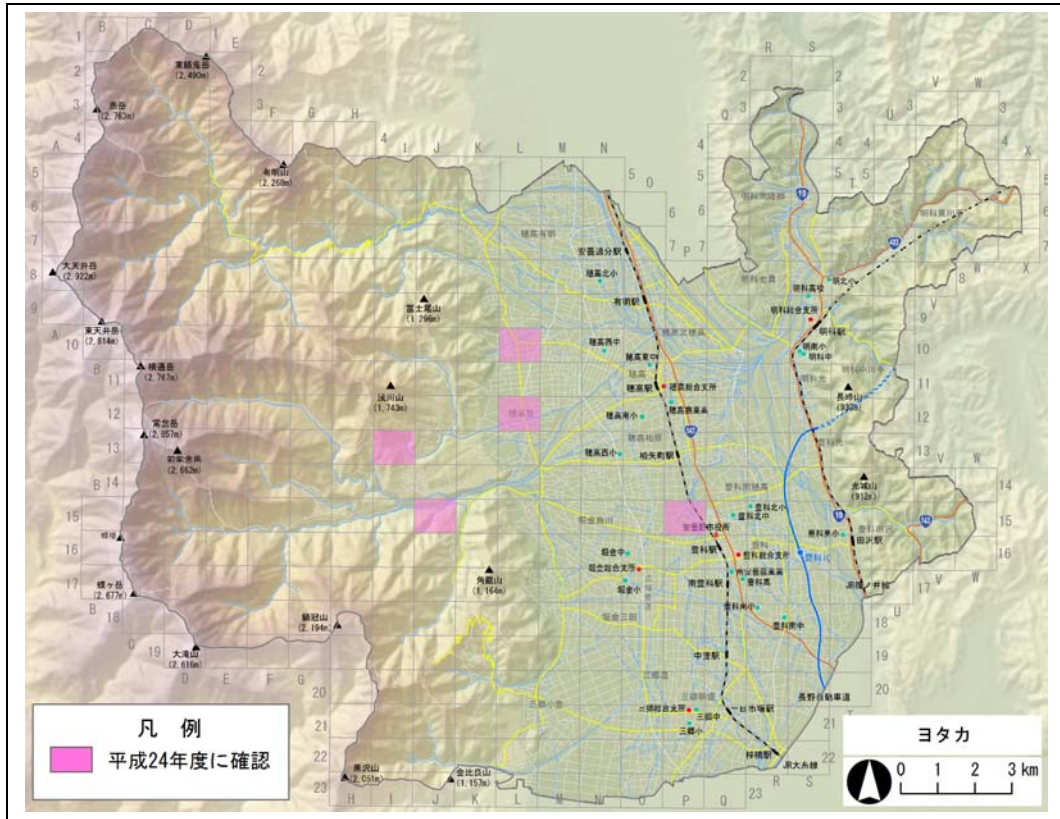
■平成 24 年度 調査結果



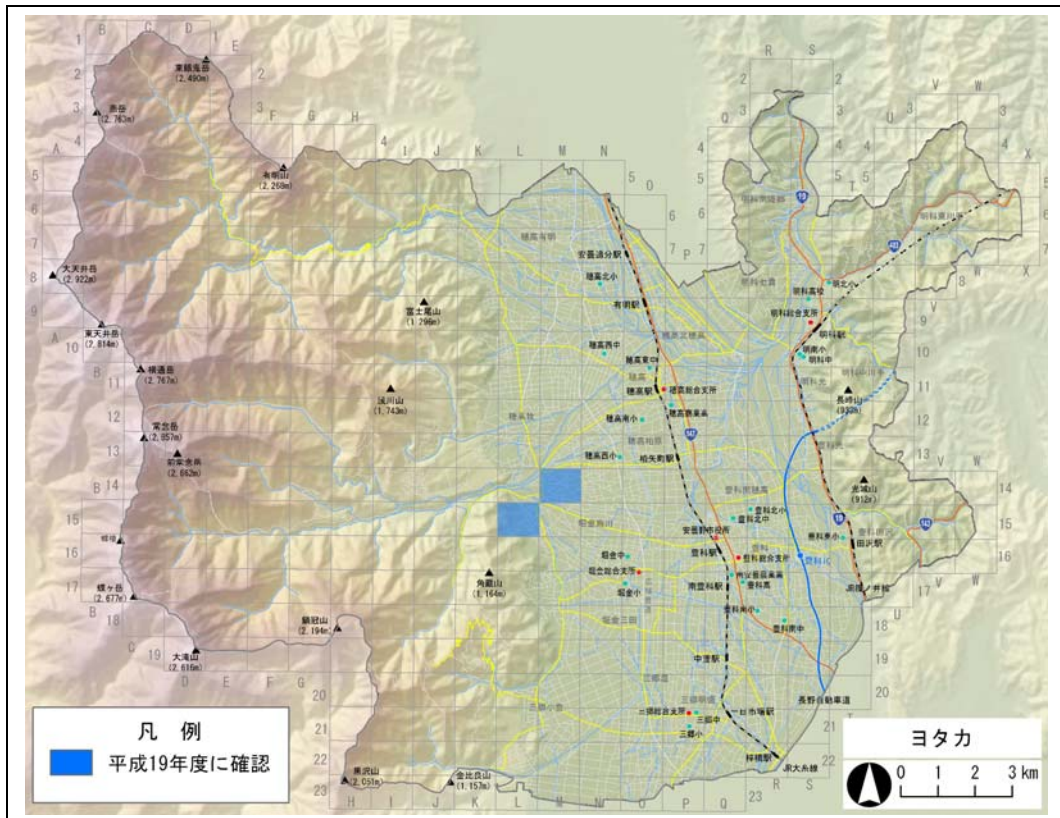
■平成 19 年度 調査結果



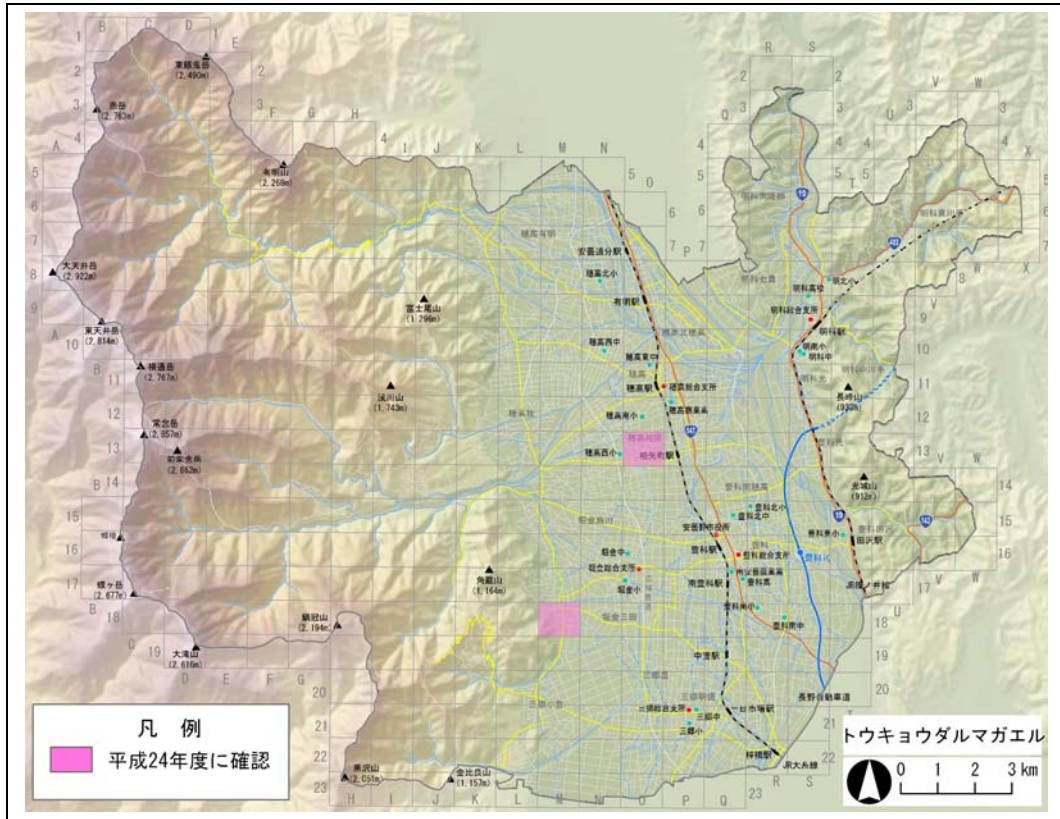
■平成 24 年度 調査結果



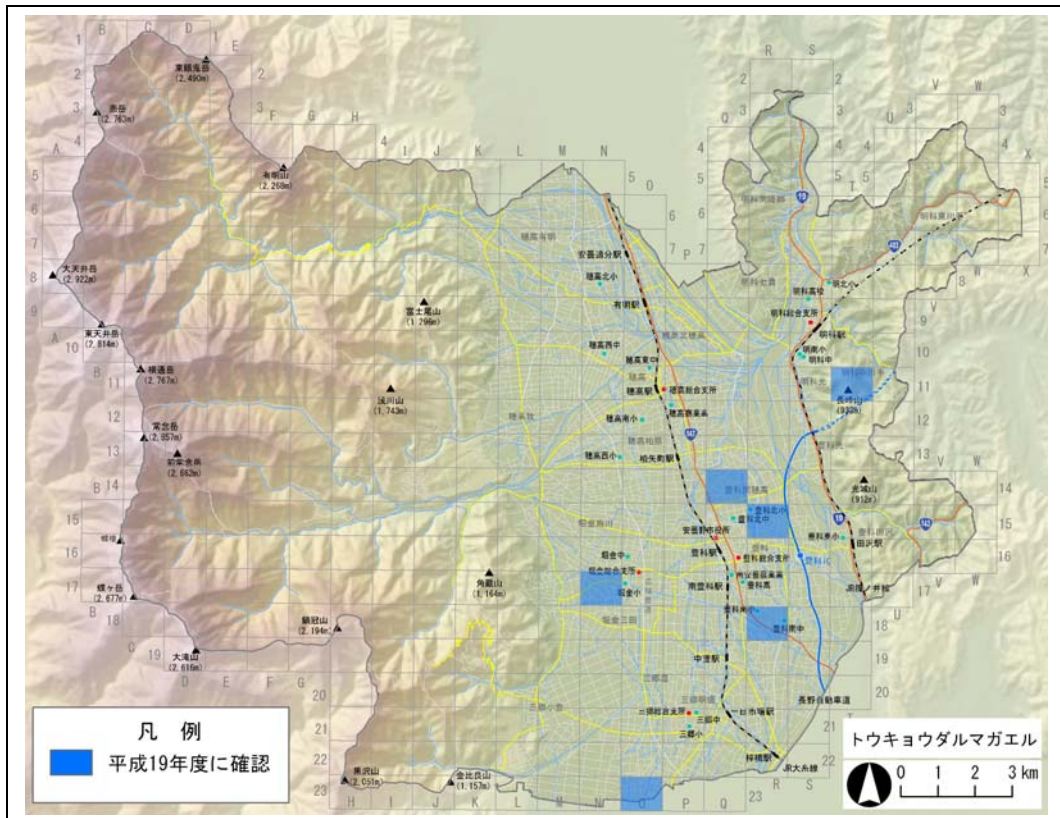
■平成 19 年度 調査結果



■平成 24 年度 調査結果

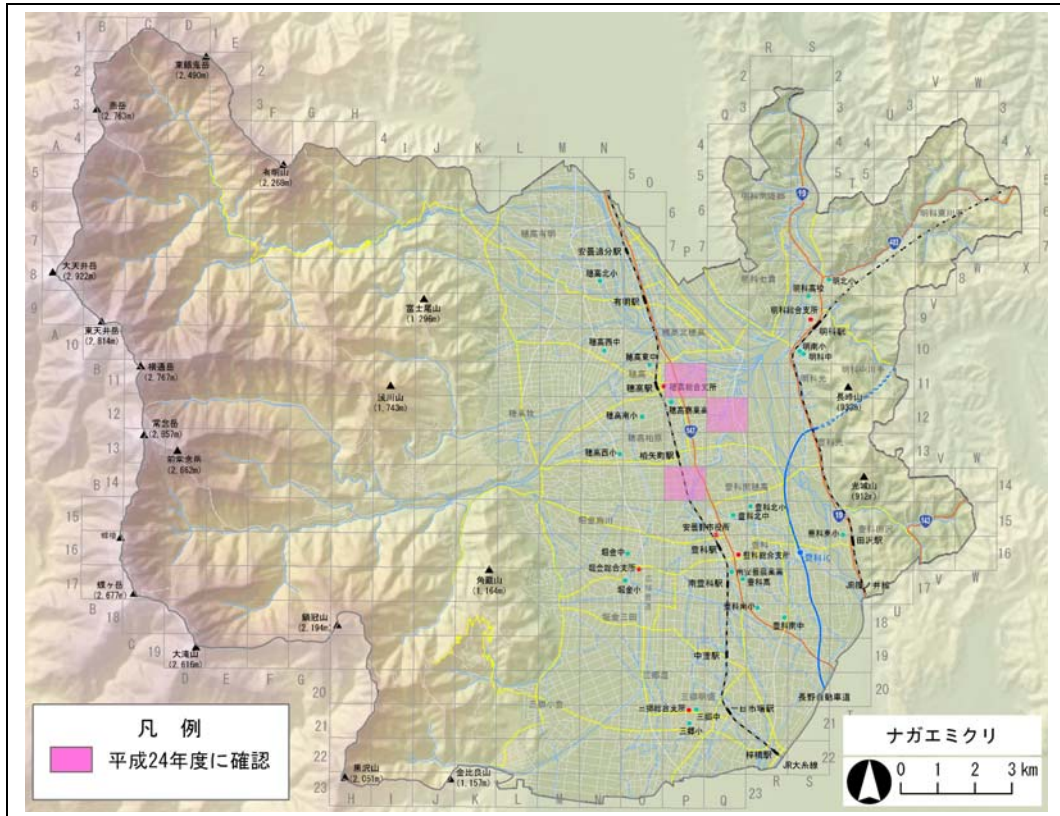


■平成 19 年度 調査結果



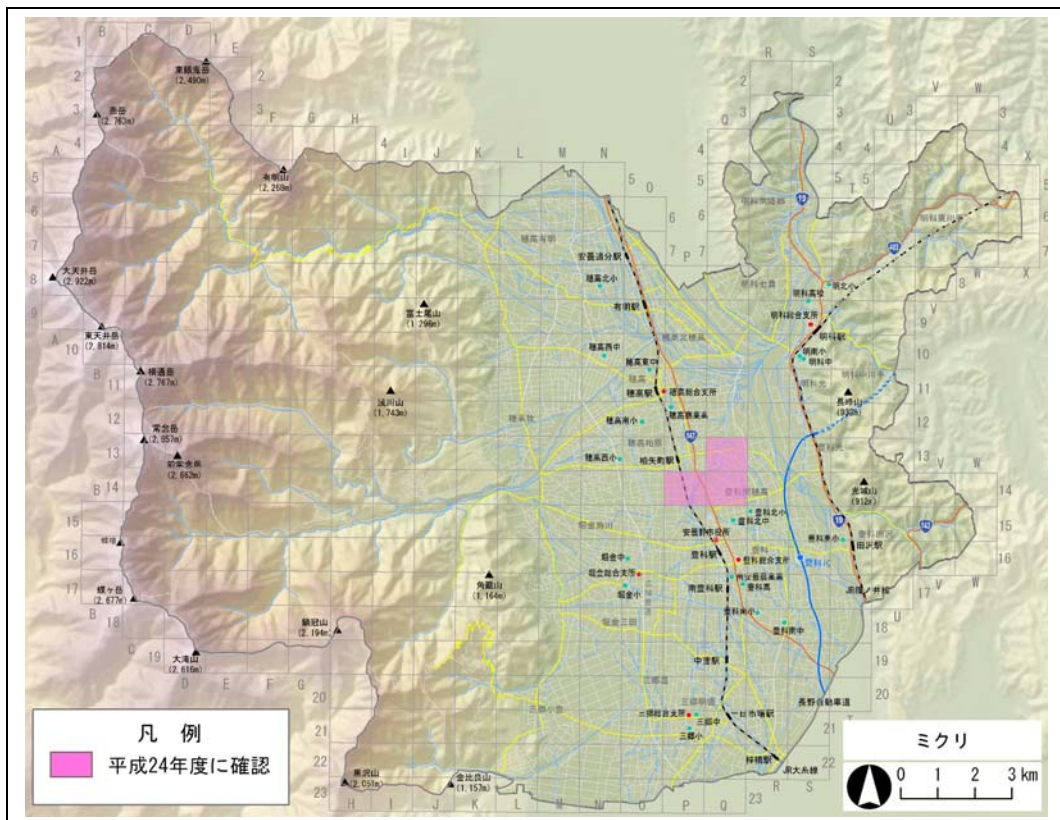
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ナガエミクリ



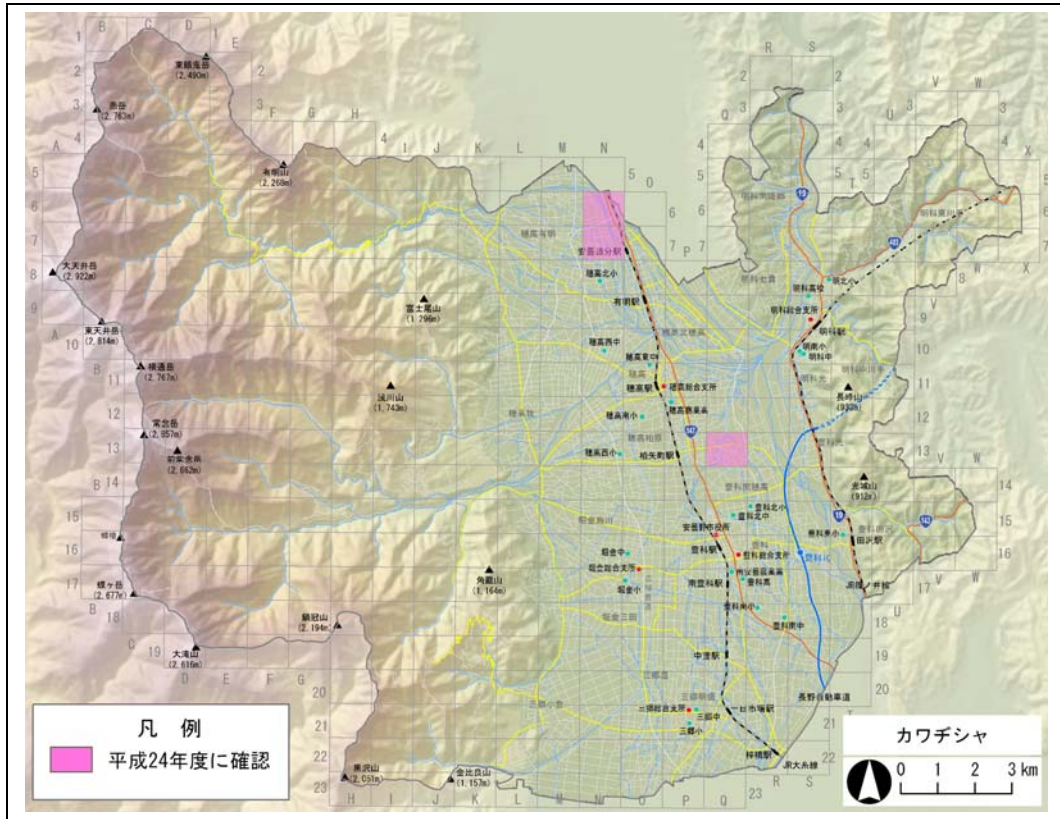
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ミクリ



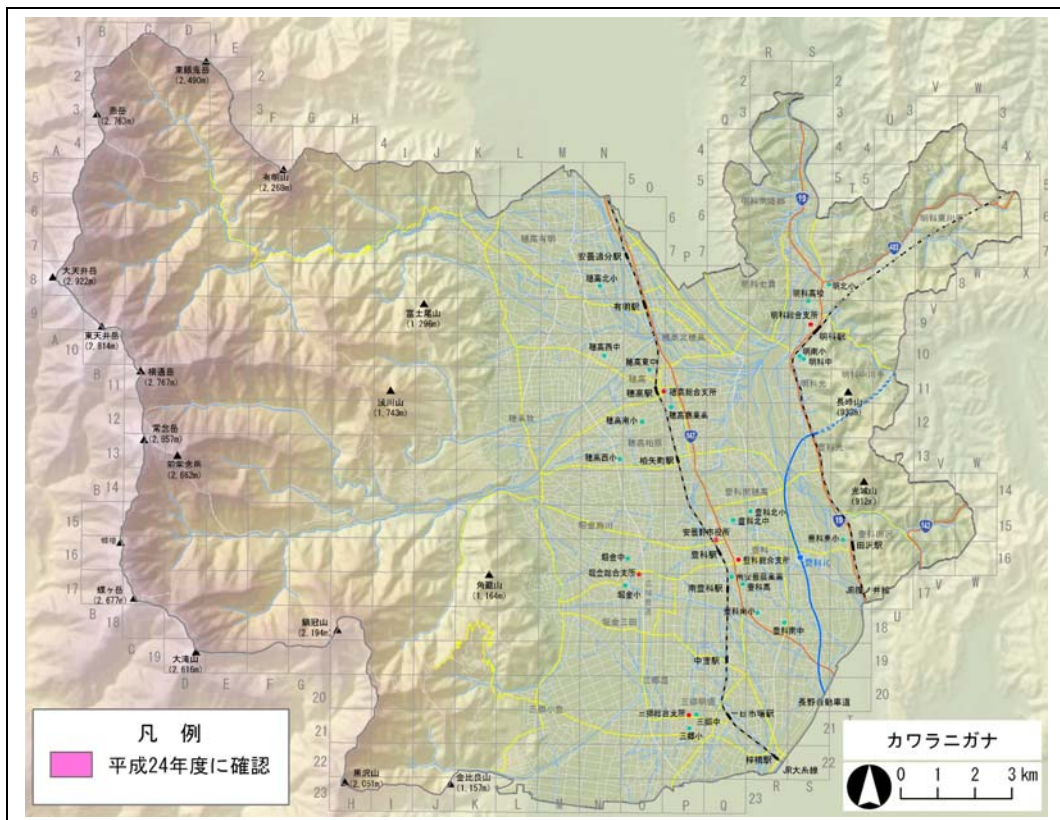
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：カワチシャ



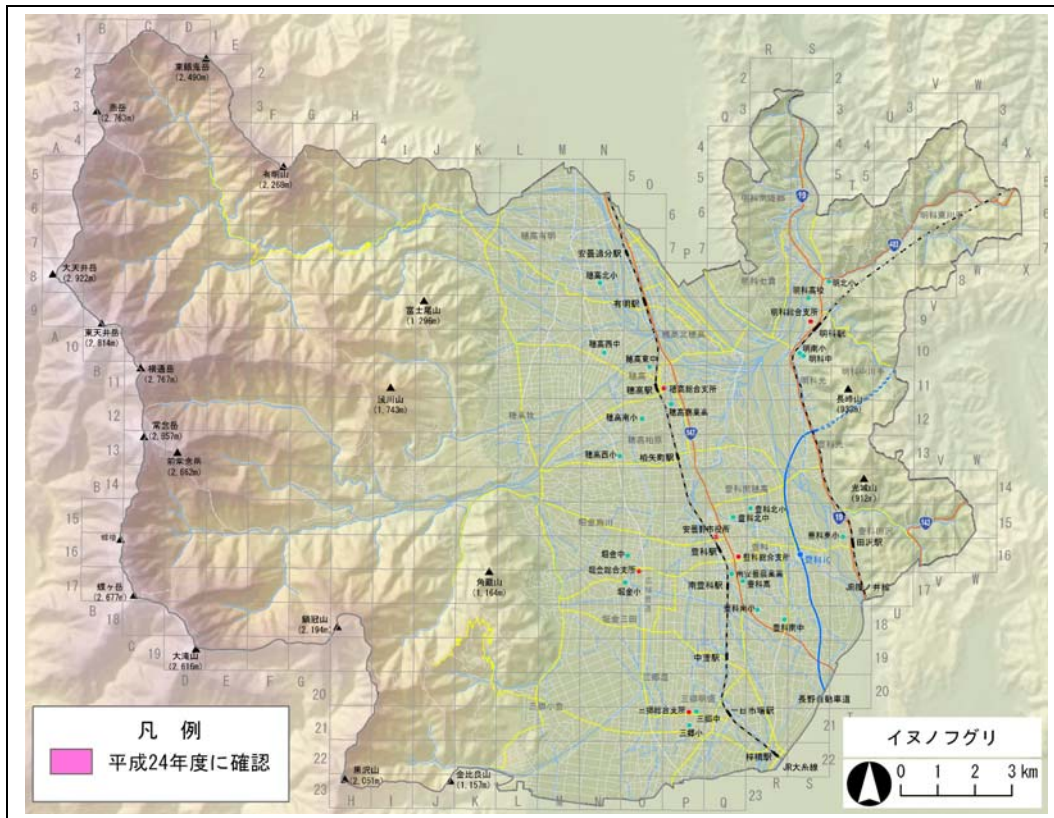
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：カワラニガナ



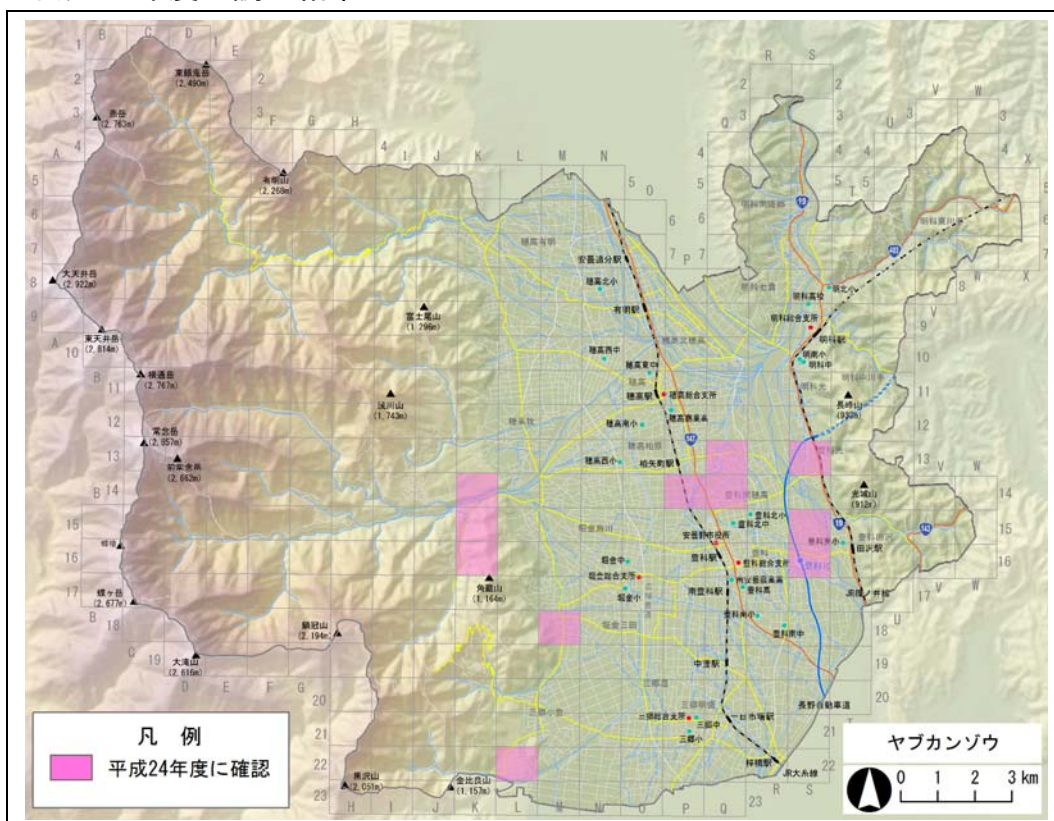
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：イヌノフグリ



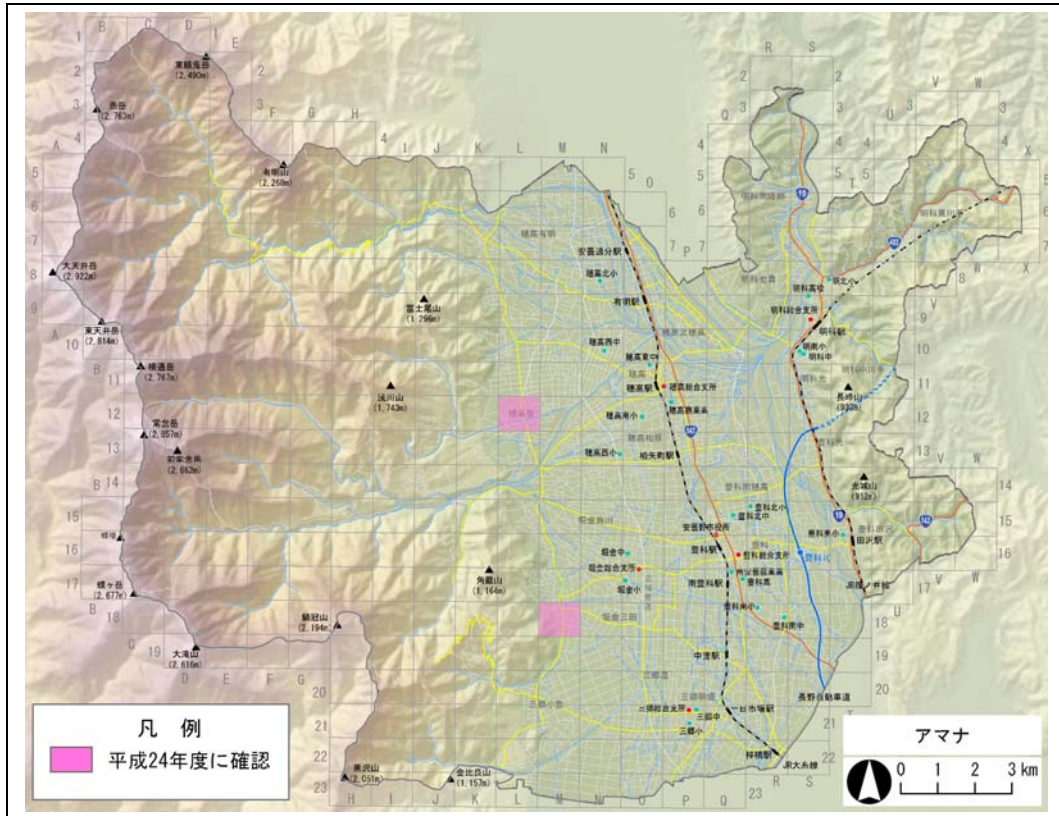
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ヤブカンゾウ



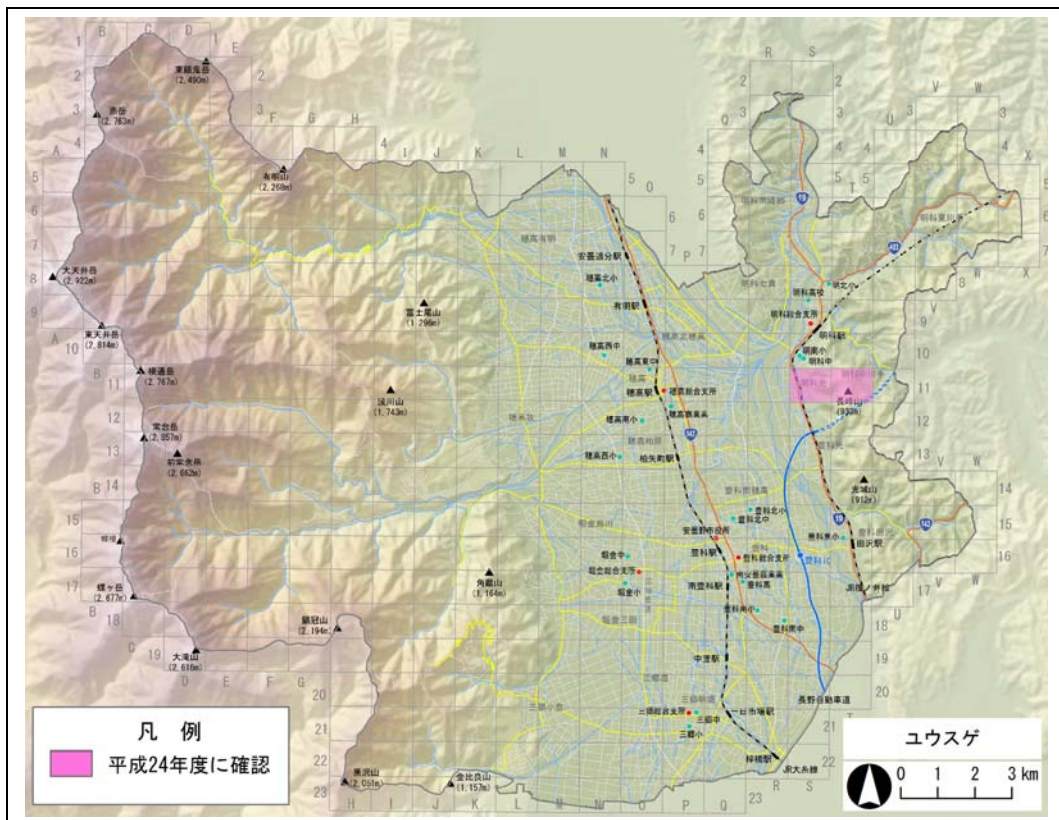
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：アマナ



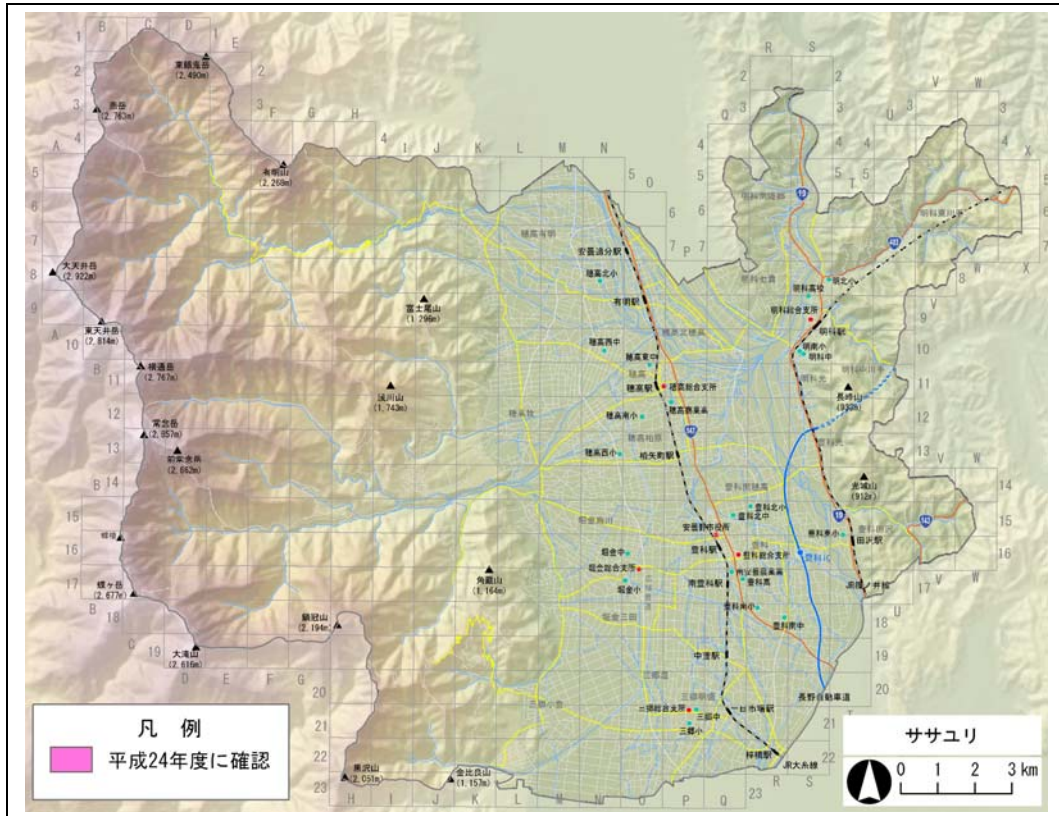
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ユウスゲ



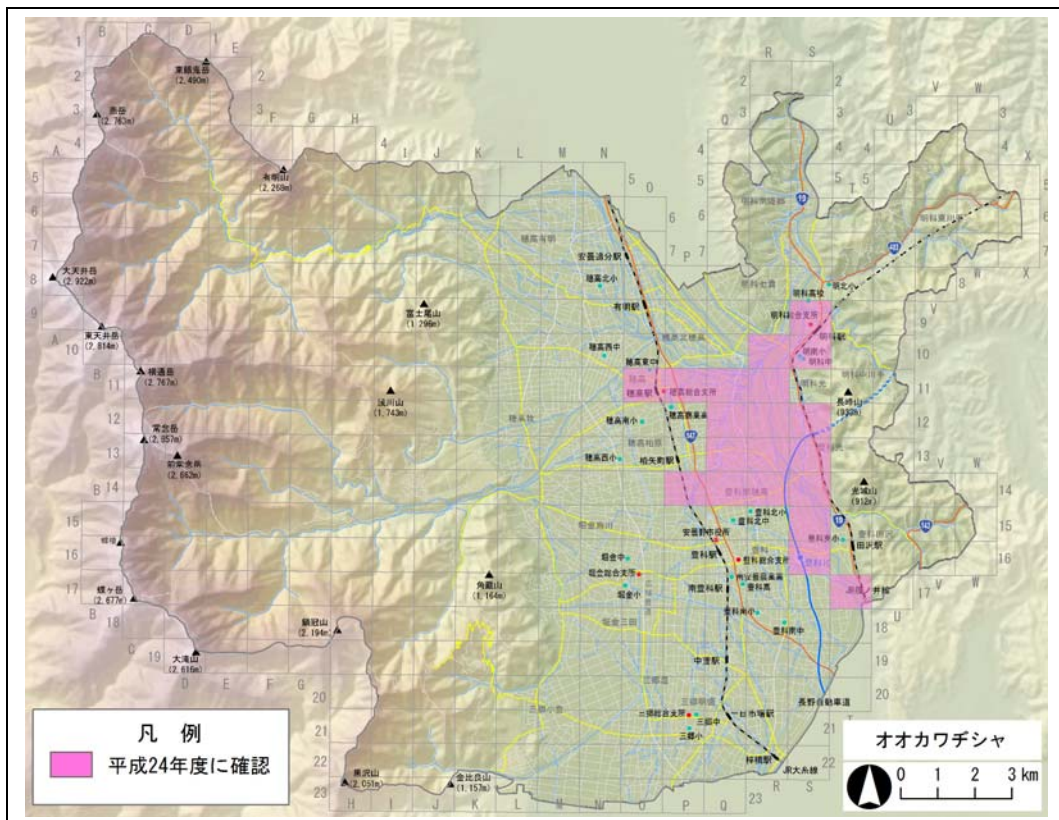
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ササユリ



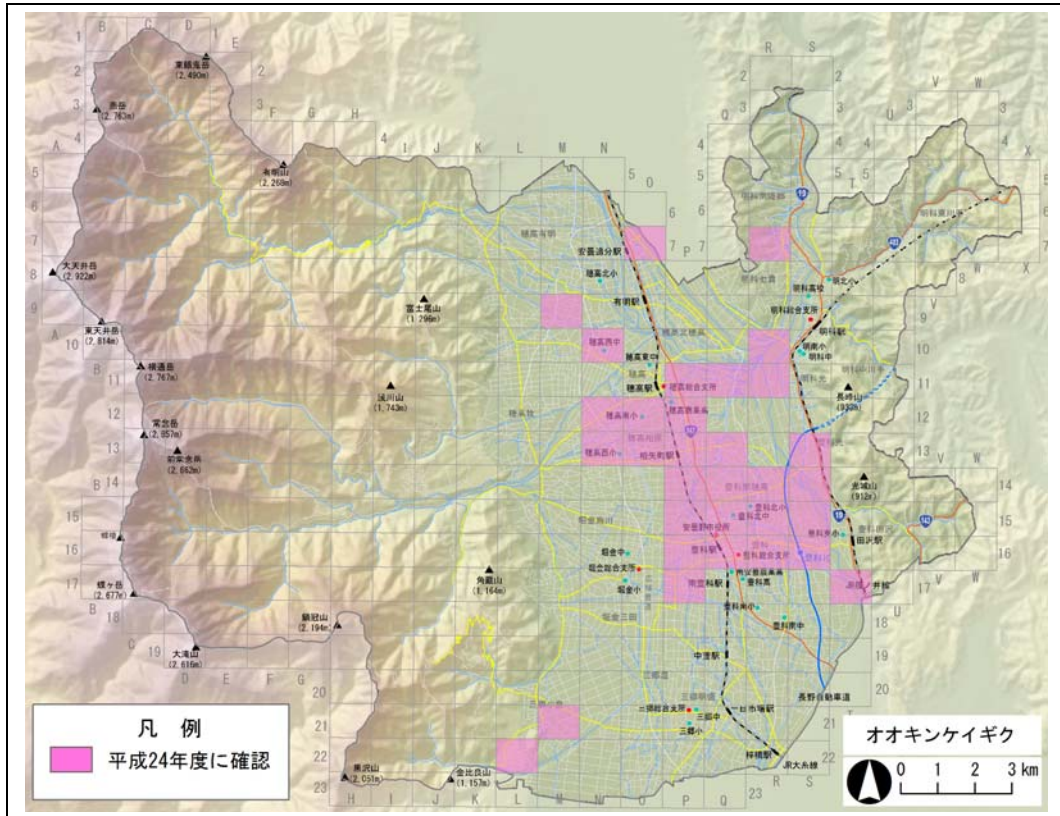
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：オオカワヂシャ



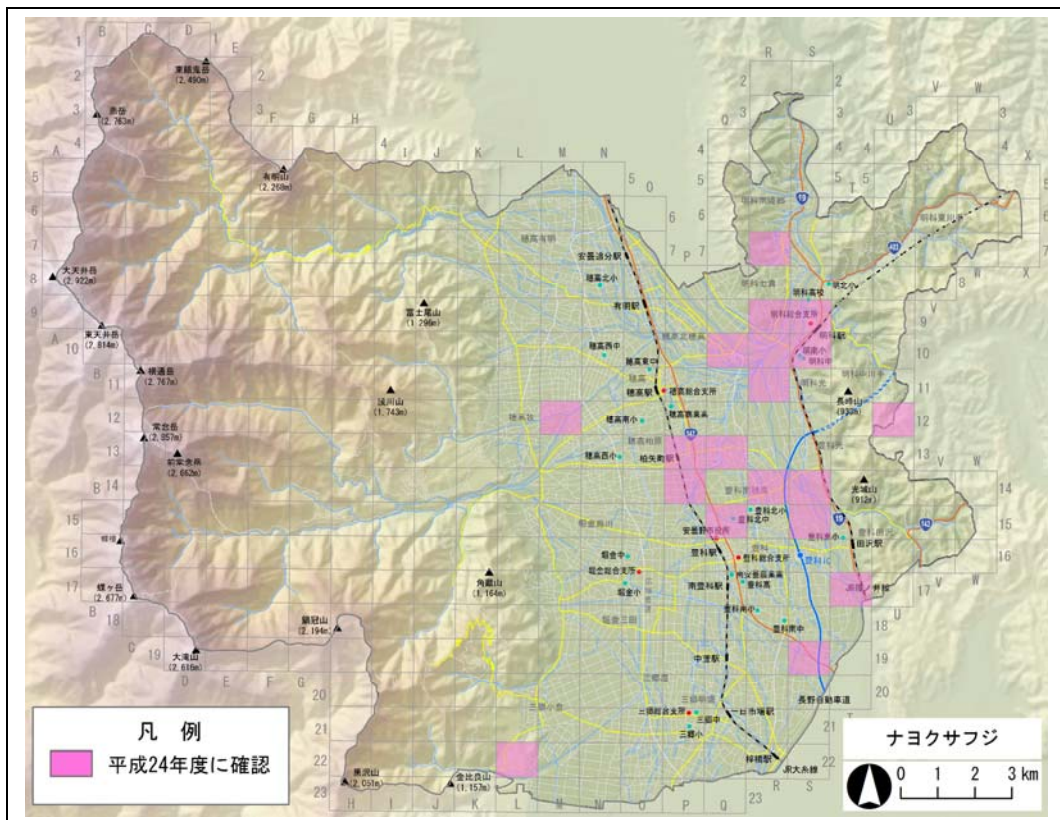
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：オオキンケイギク



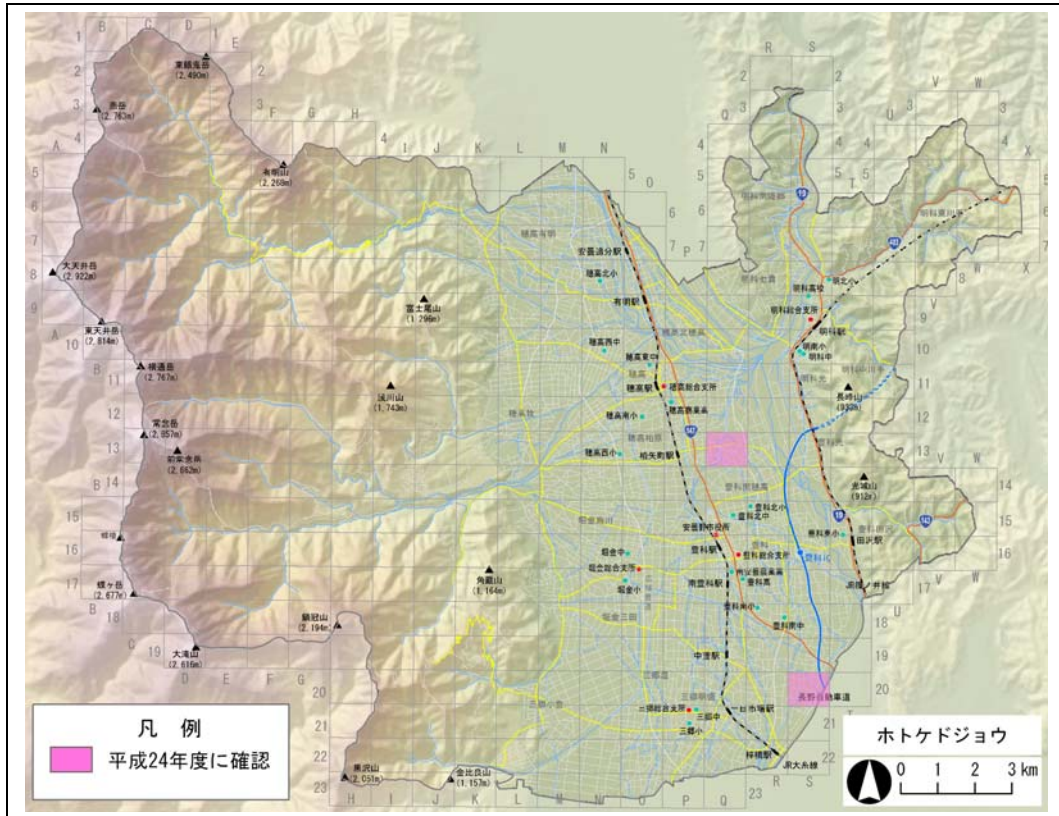
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ナヨクサフジ



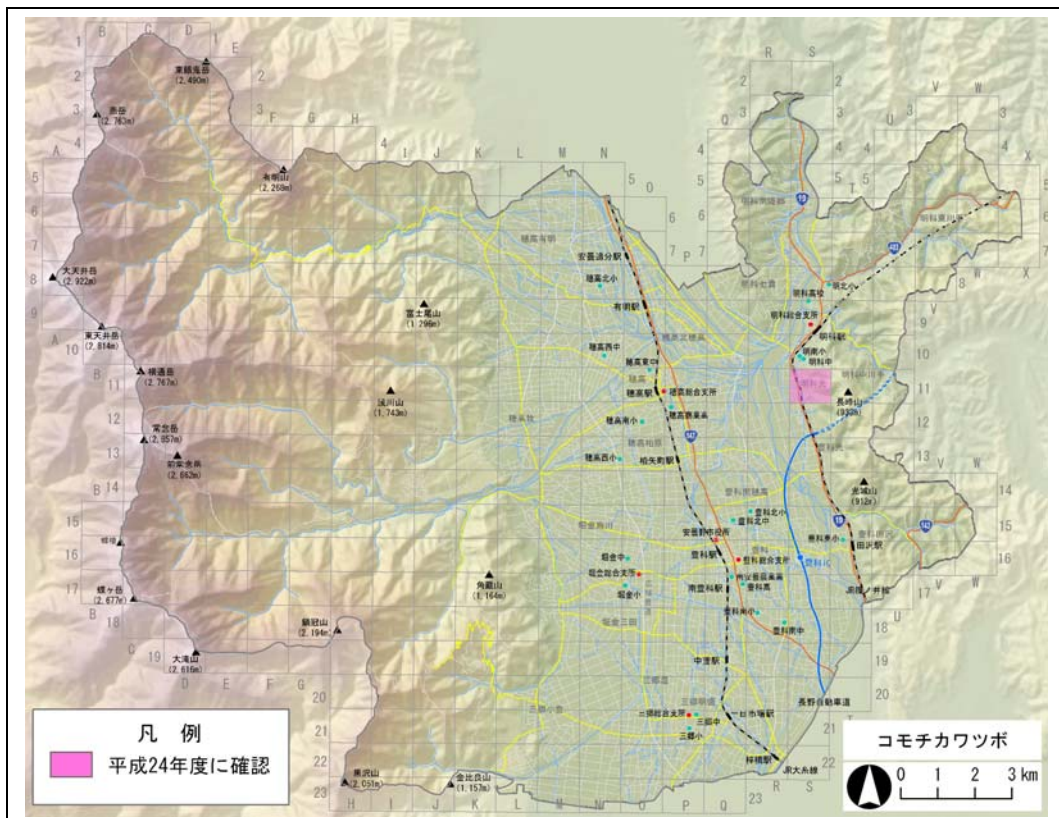
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ホトケドジョウ



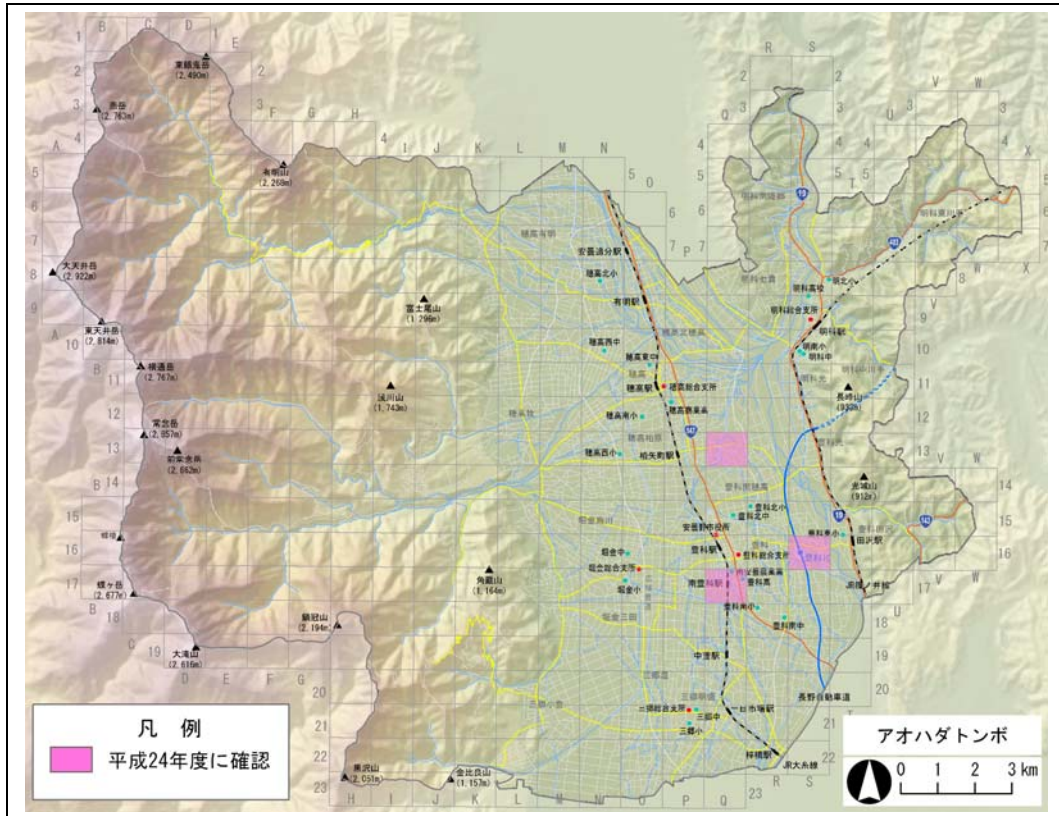
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：コモチカワツボ



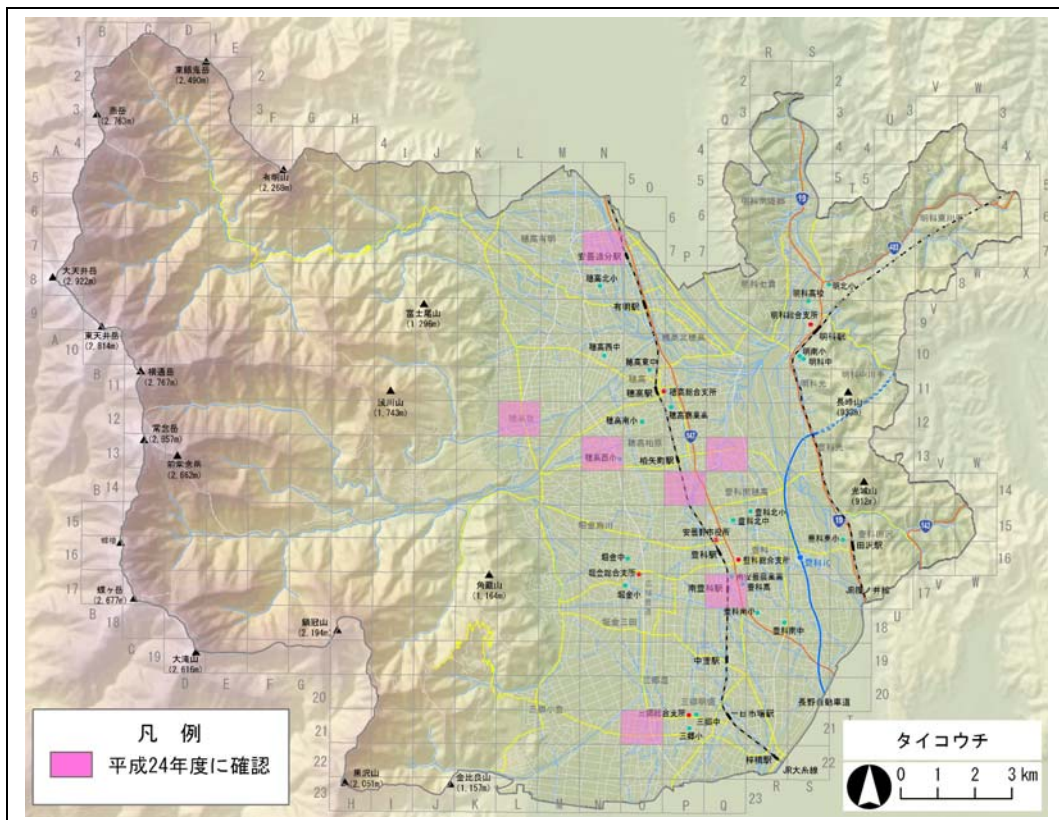
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：アオハダトンボ



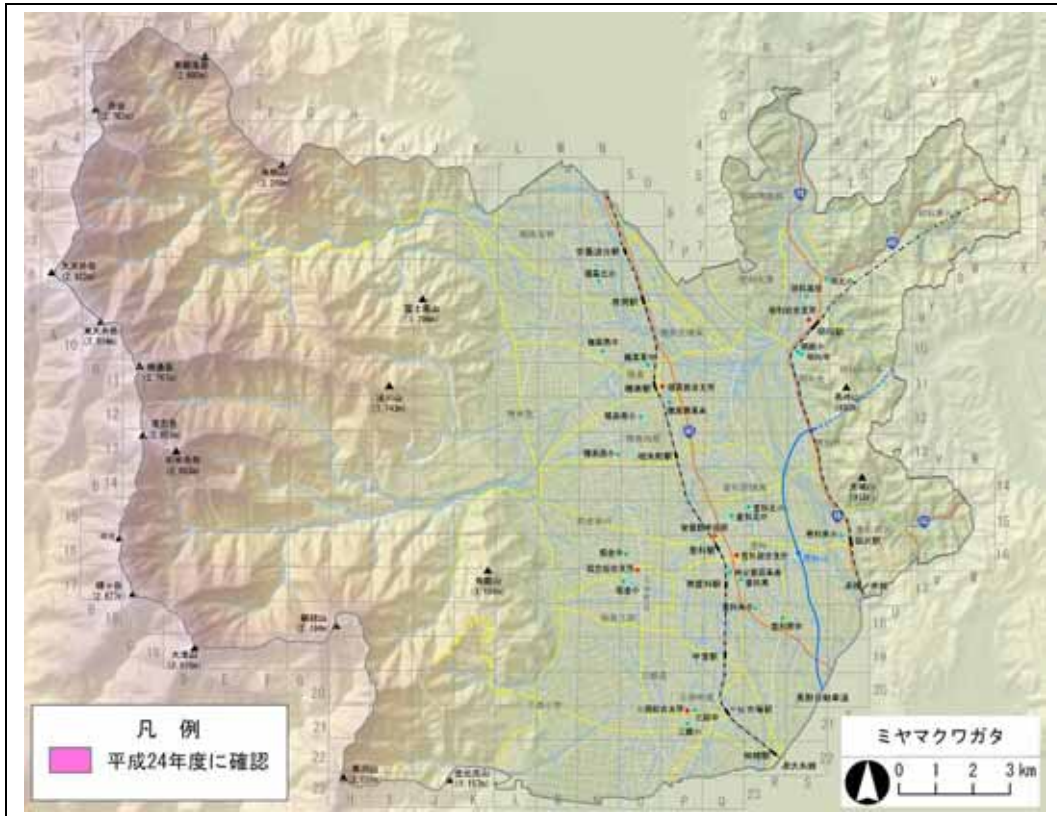
■平成 24 年度 調査結果

調査対象種：タイコウチ



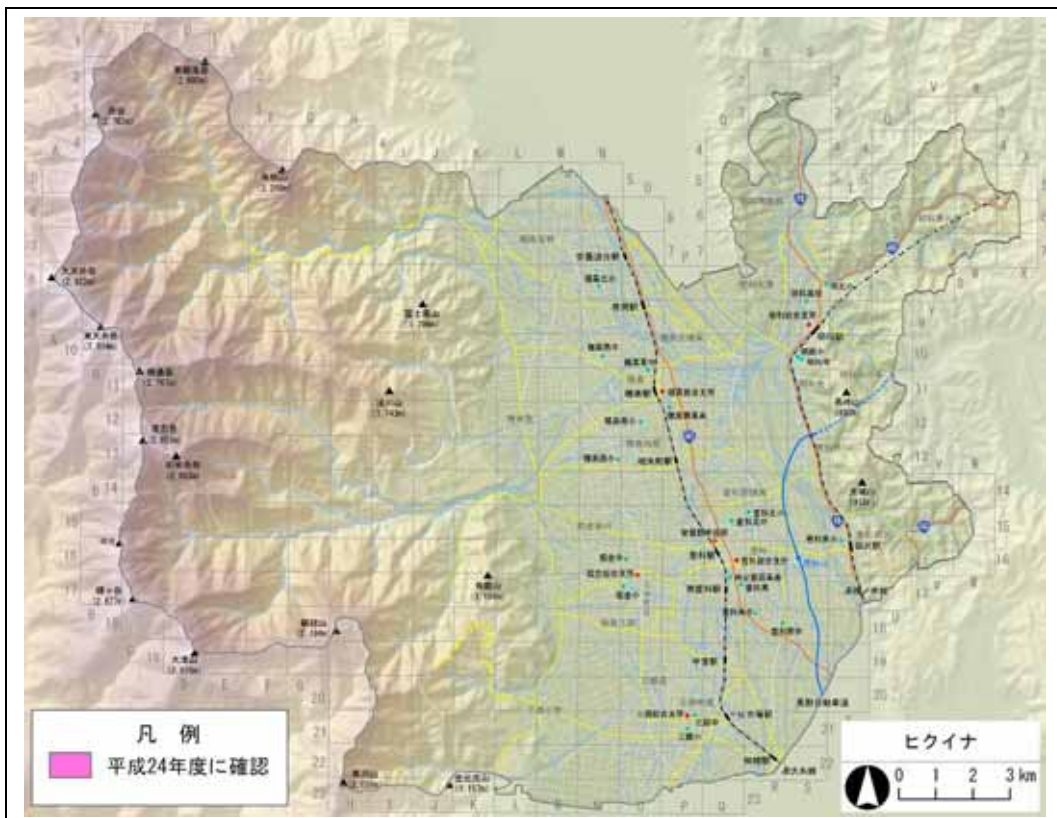
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ミヤマクワガタ



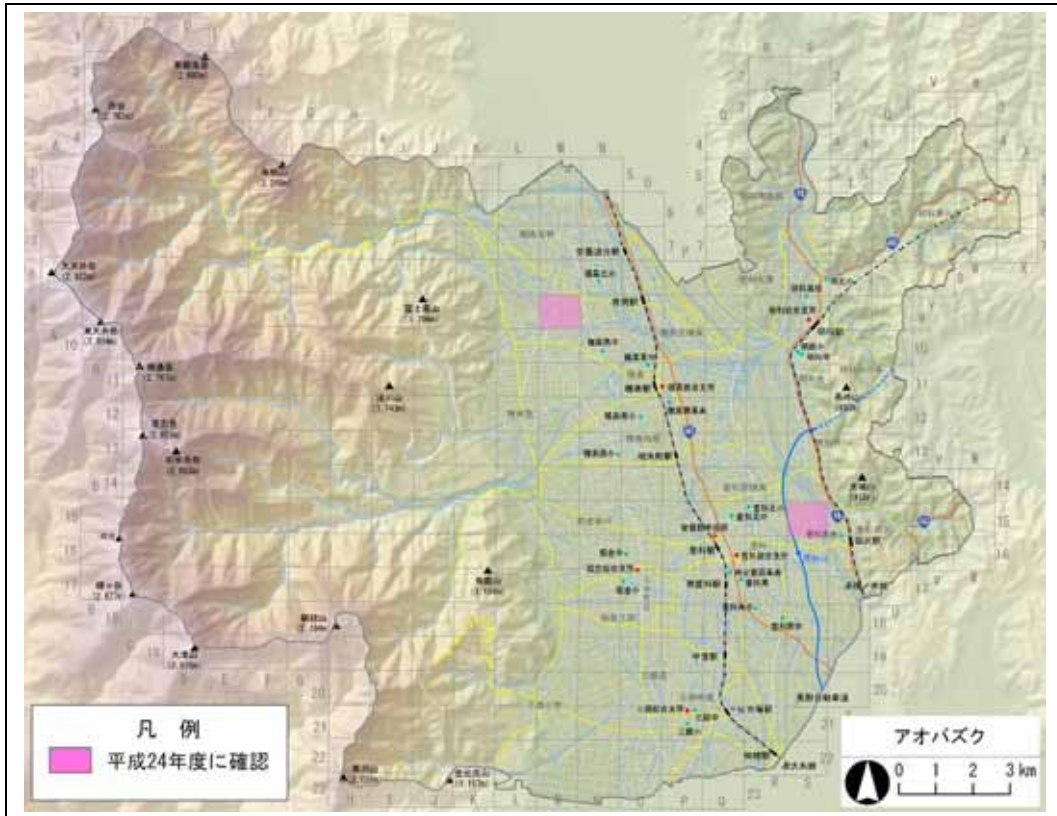
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ヒクイナ



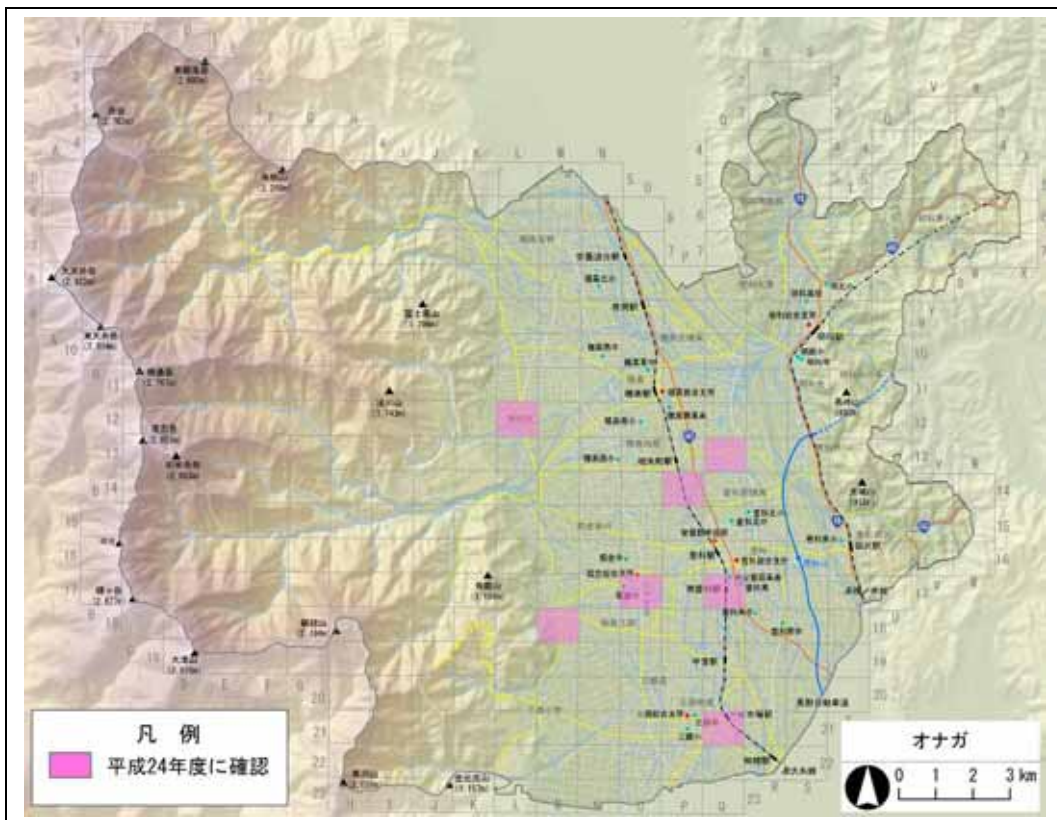
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：アオバズク



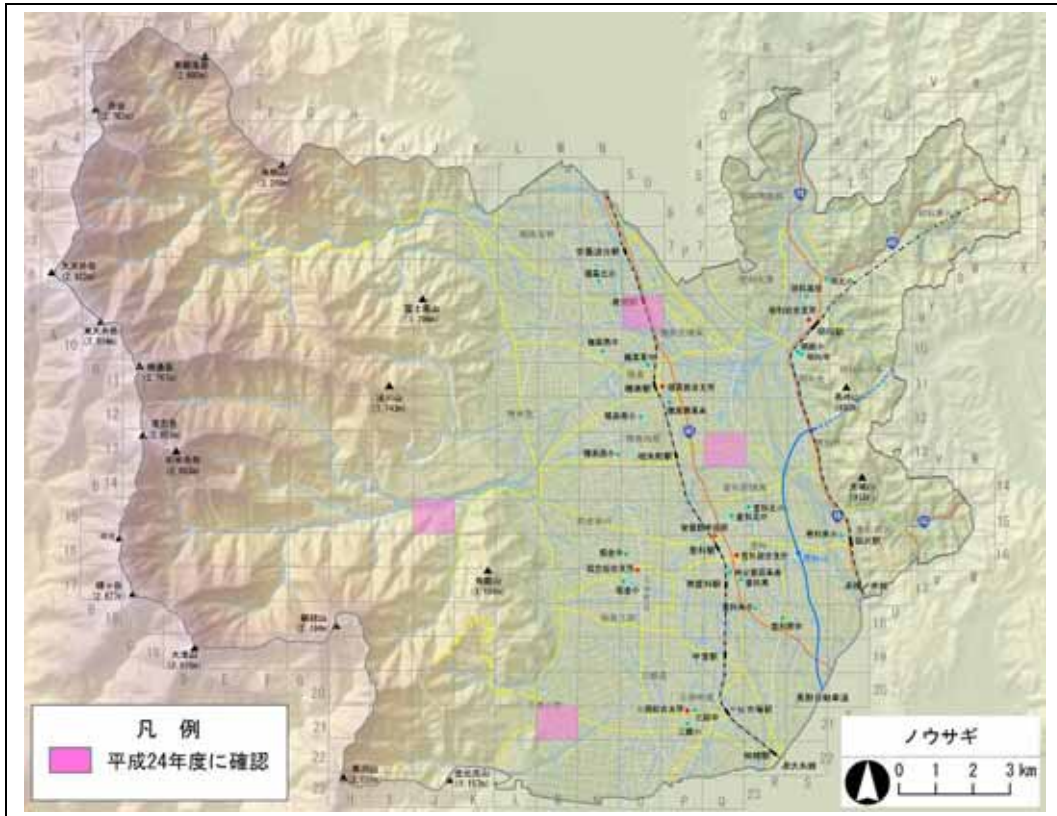
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：オナガ



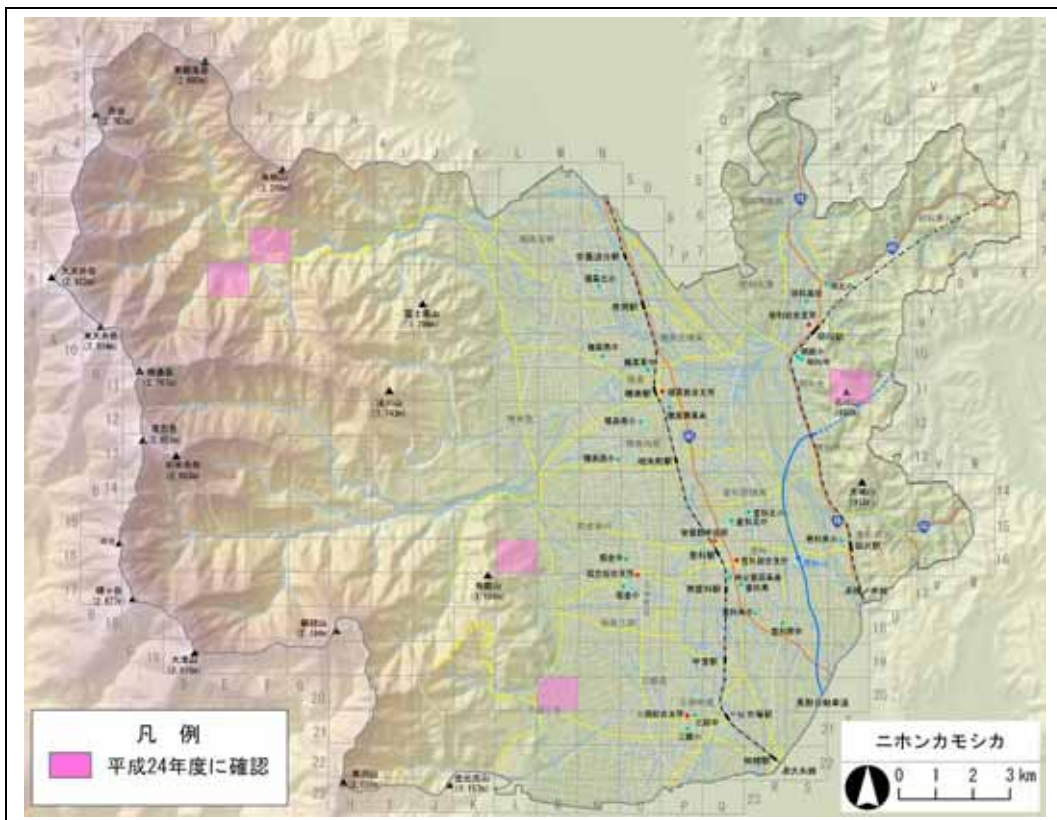
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ノウサギ



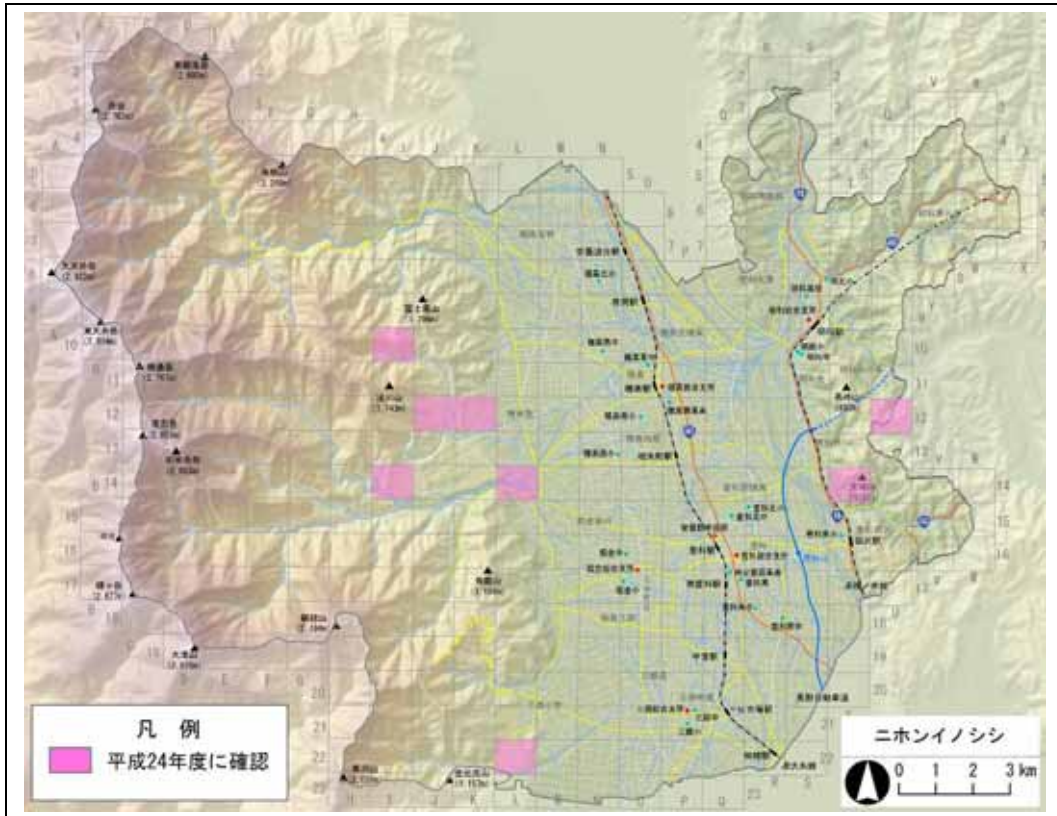
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ニホンカモシカ



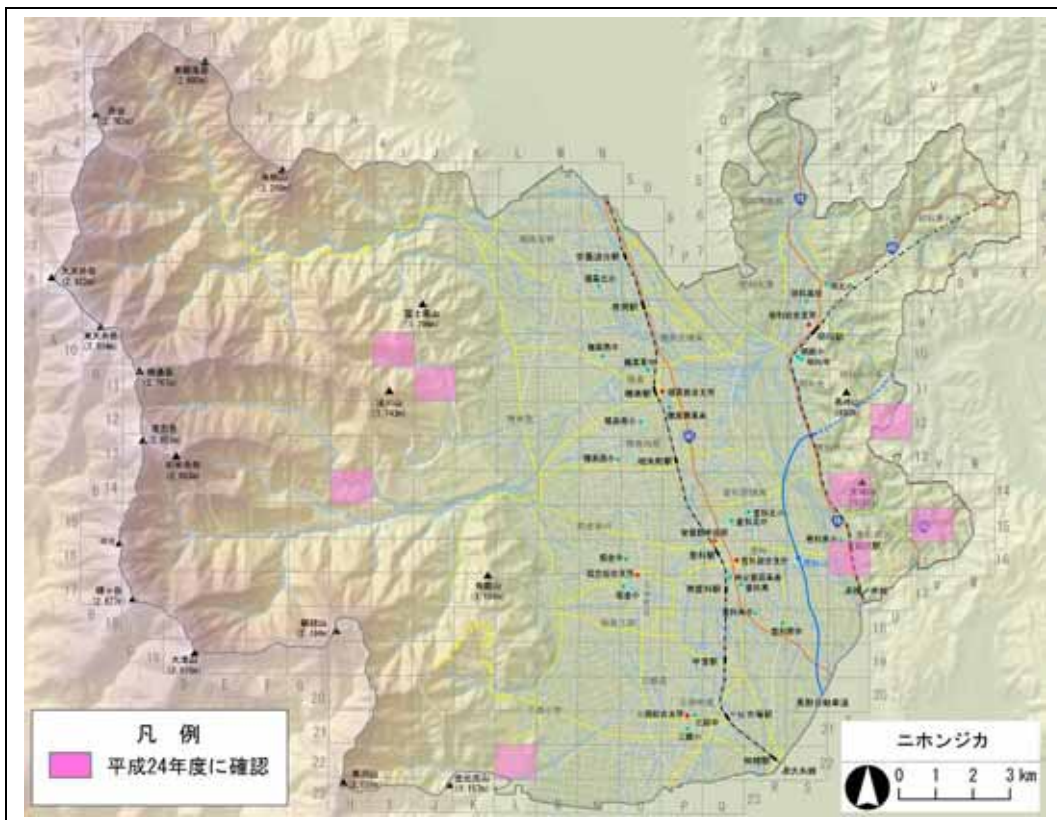
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ニホンイノシシ



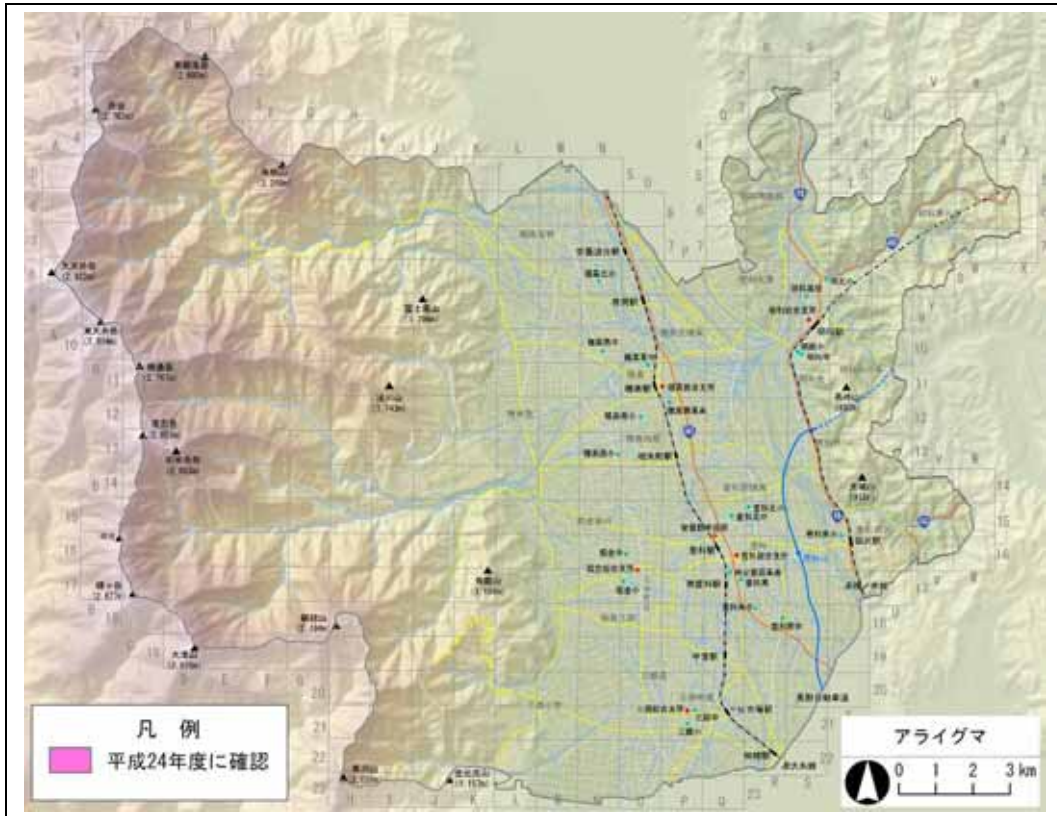
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：ニホンジカ



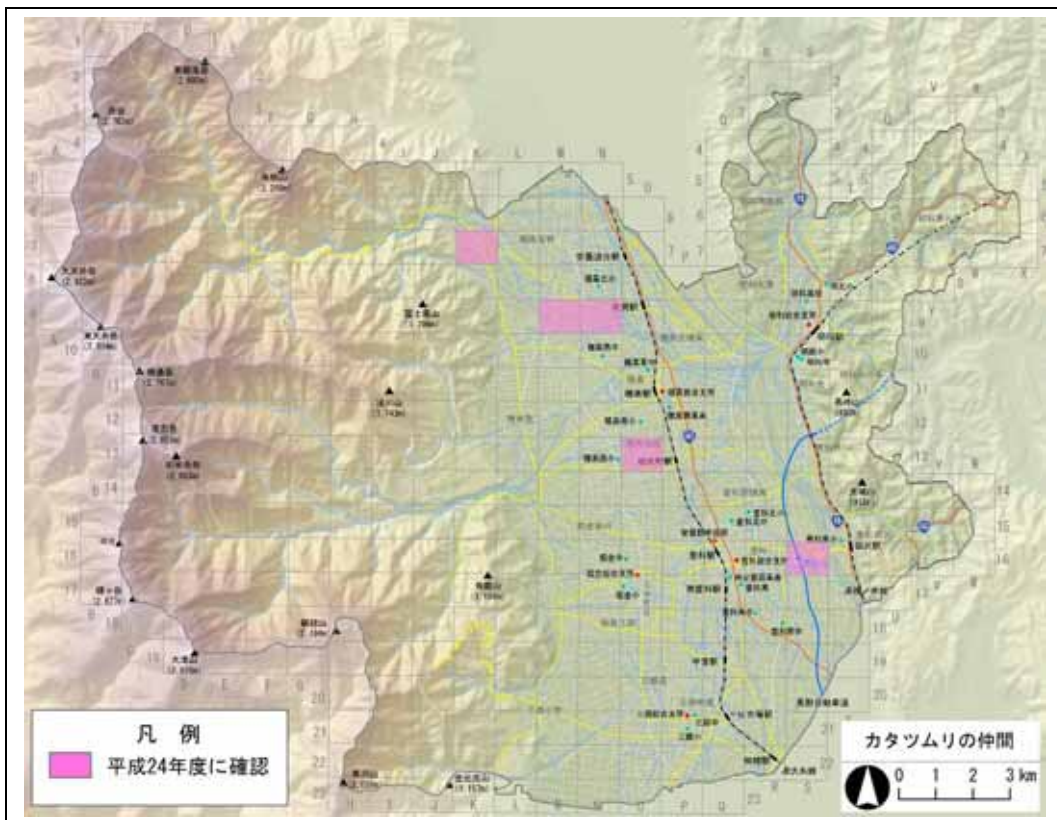
平成 24 年度 調査結果

調査対象種：アライグマ



平成 24 年度 調査結果

調査対象種：カタツムリの仲間



平成 24 年度 調査結果

調査対象種：キセルガイの仲間

